

市町村名	糸満市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	沖縄らしい風景づくり事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア
担当部署名	建設部 都市計画課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容
本市は、農村と漁村の風景が残る他に類を見ない地域である。この魅力的な地域の風景を活かした観光地づくり等を進めるため、平成25年度に風景づくり計画を策定した。その計画に基づき、景観形成重点地区である国道331号沿道地区とジョーグワー地区の糸満独特の風景・まちなみ創生の整備を図る。また、米須集落地区における重点地区に向けての取組を行う。

実施方法
 直接実施
 委託
 補助
 負担
 その他（ ）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 前年度繰越額 A. 計 (b+d)	5,001	9,092	24,998			
	B. 執行済額	5,001	9,069	16,325			
	うち交付金充当額	4,000	7,255	13,060			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	99.7%	65.3%			
	予算の状況の説明	・公有財産購入費において、当初予定した購入予定地を変更し同事業区域内の他の土地を購入した結果5,400千円強減額した。 ・重点地区助成金において、当初予定の6件に対し、1件の実施に留まった結果3,200千円減額した。					
	達成状況						
	H26活動目標(指標)			26年度	27年度	28年度	29年度
	活動目標(指標)及び達成状況	・基本計画策定に向けて、糸満協議会の開催(4回)	目標	(4回)	()	()	()
			実績	2回			
・米須集落地区行動計画策定に向けて米須集落部会の開催(4回)		目標	(4回)	()	()	()	
		実績	4回				
達成状況説明	・基本計画の基本案策定のため、当初、協議会は4回を予定していたが、1回目に基本計画の基本案の検討を行い、別日程で協議会委員、地域住民等と行ったフィールドワーク、ワークショップの内容を、1回目に作成した基本案のたたき台に反映させ、2回目の協議会でたたき台の内容を再点検し、基本案を策定した。よって、目標の4回の協議会開催は達成できなかったが、2回の開催で目的を達成することができた。 ・米須行動計画をまとめるに当たり、集落部会を4回開催した。						

		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)					
	・重点地区基本計画策定	目標	()	(計画書策定)	()	()
		実績		計画書策定		
	・米須集落地区風景づくり行動計画策定	目標	()	(計画書策定)	()	()
実績			計画書策定			
進捗状況説明	重点地区の基本計画の策定及び米須集落地区行動計画の策定を行うため、糸満市景観審議会へ諮問するなか、重点地区基本計画策定においては糸満協議会メンバーを主とする地域説明会や、フィールドワーク又はWSを開催し、施設整備に係る基本計画をまとめた。また同時に米須集落部会を定期的に開催し、米須集落地区行動計画(案)をまとめることができた。					

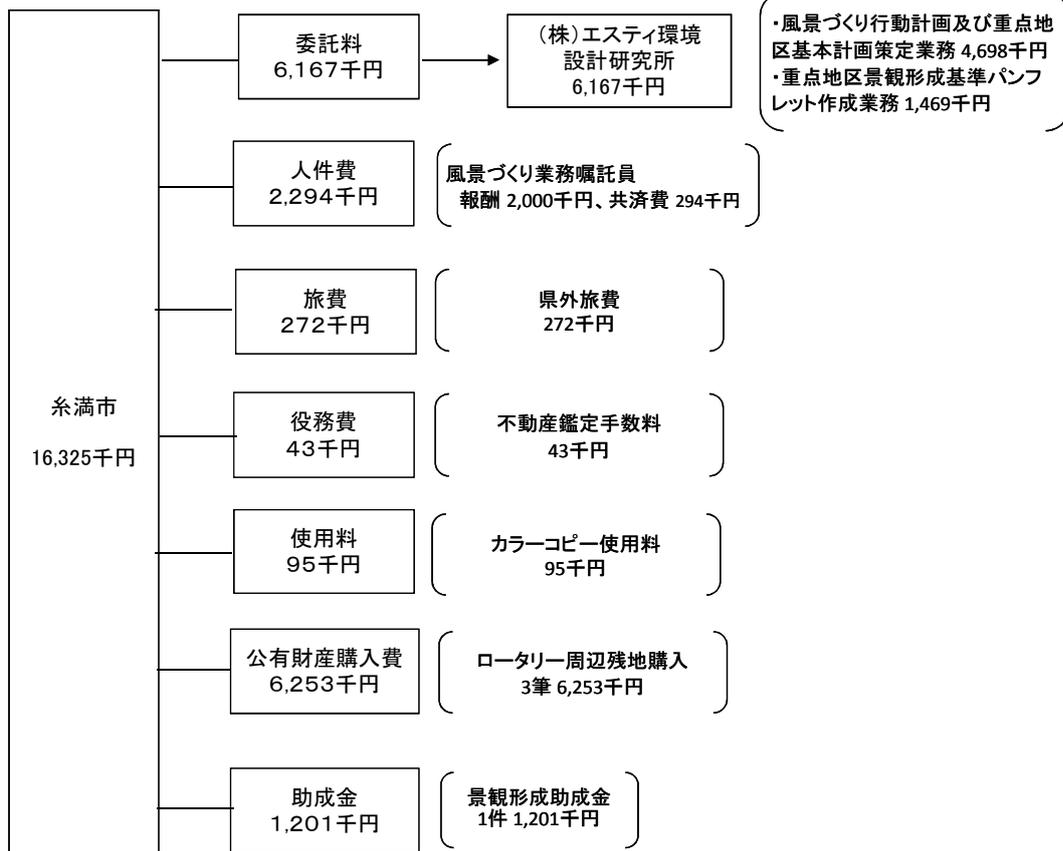
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 重点地区基本計画策定及び米須地区行動計画策定においては、糸満協議会及び米須集落部会と計画策定に係る協議を行い、当該基本案について糸満市景観審議会専門部会へ提案し議論を何度か繰り返し行い、計画案をまとめたといった取組みを行うことにより、比較的容易に計画案をまとめることができた。 米須地区については、H27年度で重点地区指定を目指しているため、H26年度に策定した行動計画をもとに、米須地域住民への更なる周知が必要である。 	<p>重点地区基本計画策定においては、地区の歴史性に関して詳しい人物が極めて希少であったため、ヒアリング等によるデータ収集に苦慮した。他市町村の歴史の類似性も今後考慮しつつ計画の実施にあたる必要がある。</p>

今後の取り組み方針

・重点地区基本計画に基づき、施設整備を推進して行くなか、地域の歴史性に鑑み具体的なデザインの考案が重要なカギとなる。
 ・米須地区の重点地区指定に向け、H26年度に作成した行動計画のパンフレットを同地区内の各世帯に配布し、米須地区全体説明会で更なる周知を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,325	16,325	13,060	3,265	0



資金の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はこれまで本市の風景づくり計画に対する実績があり、且つ指名競争入札において落札した実績から、妥当であると考えられる。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用は事業費の3割程度であったが、次年度以降への反省材料と考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については取組検証結果からも、事業目的に添った様相を示していると判断できることから、概ね計画通りに推進できているため、適正であると考えられる。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	生活感幸(観光)環境づくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(5)-ア	
担当部課名	教育委員会 総務部 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	リーディング産業を担う人材の育成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光地としての魅力の向上を図るため各地域の民俗地図等を作成する。本年度は、旧高嶺村の5か字について民俗調査を実施し民俗地図を作成する。また、市民等を対象に地域の風土、文化、歴史などについて学ぶ市史講座を開催する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a)当初予算額	1,477	0	2,001		
	(b)予算現額	1,477	1,709	2,001			
	(c)増減額(b-a)	0	1,709	0			
	(d)前年度繰越額	-	-	-			
	A.計(b+d)	1,477	1,709	2,001			
	B.執行済額	1,286	1,660	1,987			
	うち交付金充当額	1,028	1,324	1,589			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)	87.1%	97.1%	99.3%			
予算の状況の説明	概ね予算どおりに執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況					
		26年度	27年度	28年度	29年度		
	旧高嶺村5か字での民俗調査	目標	5ヶ字	()	()	()	
		実績	5ヶ字				
	市史講座の開催(2回)	目標	2回	()	()	()	
		実績	2回				
達成状況説明	○平成26年度は、旧高嶺村の豊原・与座・大里・国吉・真栄里の5ヶ字についての歴史民俗調査の実施して、字別地図に掲載する情報を収集整理した。 ○「軽便鉄道の軌跡をたずねて」と題する市史講座を平成27年2月7日、8日の2回に分けて開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	旧高嶺村5か字の民俗地図の印刷	目標	()	(5ヶ字分)	()	()	()
		実績		5ヶ字分			
	市史講座の参加者数	目標	()	(50人)	()	()	()
		実績		47人			
進捗状況説明	○旧高嶺村の5ヶ字についての歴史民俗情報を掲載した地図を字単位で作成し印刷発行、観光客等への対応に備える。 ○市史講座「軽便鉄道の軌跡をたずねて」の当日の受講者は47人。欠席者(3人)があった。アンケート(回収率89%)をみると、参加者全員が「とても良かった」「良かった」と講座内容を評価している。						

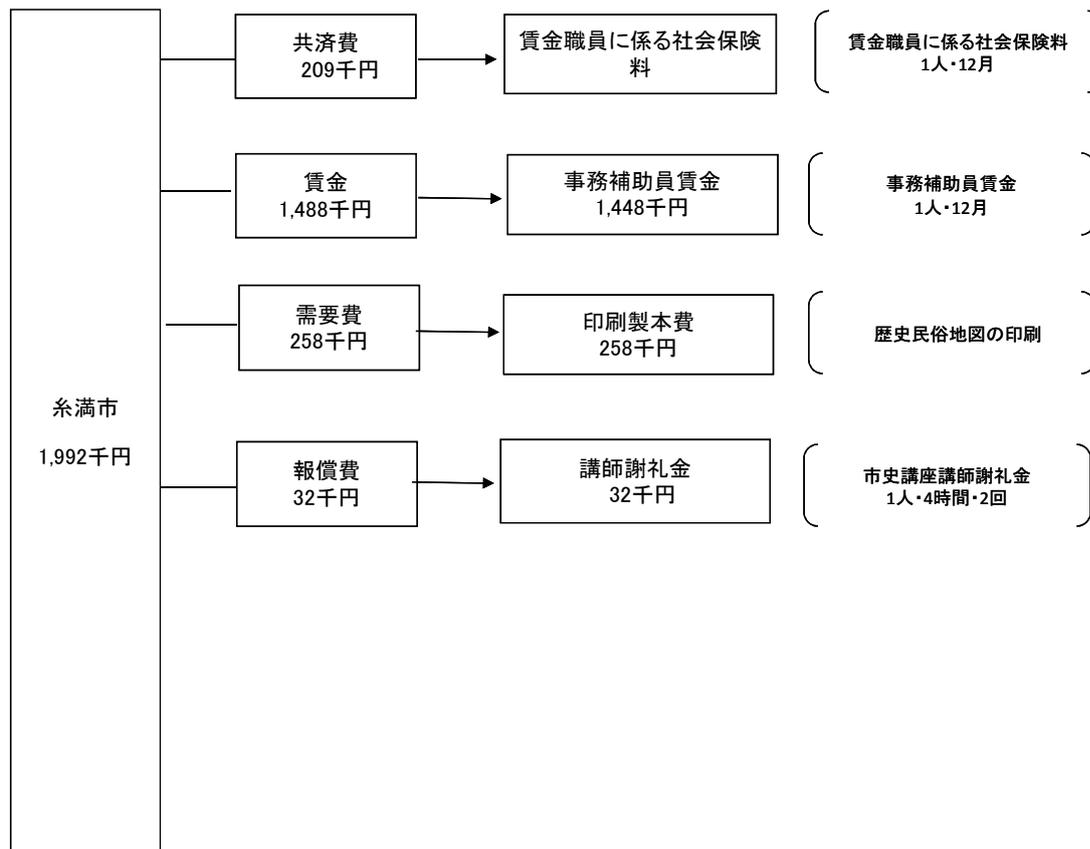
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>○市史講座の内容については概ね好評であるが、開催回数や開催地域の拡大、各種テーマの設定等を希望する受講者の意見がある。</p> <p>○三和地域についての歴史民俗情報についての問い合わせも多数ある。</p> <p>○市外・県外等遠隔地からの資料提供依頼も増えている。</p>	<p>○これまでの歴史・民俗学的な講座内容に加え、沖縄戦終焉の地という土地柄に関連する講座も開催したい。</p> <p>○三和地域についての歴史民俗調査を実施し、関連資料の収集整理に努めたい。</p> <p>○作成した民俗地図については、市HPに掲載して市内外から気軽に閲覧できるような環境を順次整えていきたい。</p>

今後の取り組み方針

平成27年度は、旧真壁村の8か字において歴史民俗調査を実施して地図原稿を作成する。あわせて、市民等を対象に地域の風土、文化、歴史などについて学ぶ市史講座「終焉の地 摩文仁を歩く」等を開催する。これまで作成した民族地図については、市HPに順次公開していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,987	1,987	1,589	398	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○市の規則に則り採用したため支出先の選定は妥当である。需用費については見積もり額により選定した。</p> <p>○不用額は予算の5%以内であり、適正な予算規模である。</p> <p>○予算規模や費目・使途等については事業内容及び成果目標の達成状況の観点からも適正なものであった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市				
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-③	冬場のエコスポーツ拡大事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア	
担当部署名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出	
事業内容	冬場(冬季)の観光振興を図るために、全国的なマウンテンバイク競技大会の開催が可能なコースの整備及び大会プロモーションを実施する。					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a)当初予算額	5,000	8,000	8,000	
	(b)予算現額	5,000	8,000	8,000		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)前年度繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)	5,000	8,000	8,000		
	B.執行済額	5,000	7,980	7,999		
	うち交付金充当額	4,000	6,384	6,399		
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.8%	99.99%		
予算の状況の説明	予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況				
		24年度	25年度	26年度	27年度	
	マウンテンバイク競技大会の実施	目標	(大会開催)	(大会開催)	(大会開催)	()
		実績	大会開催	大会開催	大会開催	
	目標	()	()	()	()	
		実績				
達成状況説明	<p>・26年度にコース整備を行ったことによって、日本自転車競技連盟(JCF)のプロローグ大会(CJ-2)の開催が可能となり、大会名を糸満市長杯マウンテンバイク大会として開催した。</p>					
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		大会来場者数(450人)	()	(350)	(400)	(450)
	実績		400	627	670	
	目標	()	()	()	()	()
	実績					
	進捗状況説明	<p>・沖縄県初の日本自転車競技連盟(JCF)のプロローグ大会(CJ-2)を開催したことで、一般の参加者と来場者が詰めかけた。また、プロのライダーによる初心者向けマウンテンバイクの乗り方教室を実施し、子供から大人までマウンテンバイクの安全な操作の知識を習得させることができ、競技人口の拡大に図った。</p>				

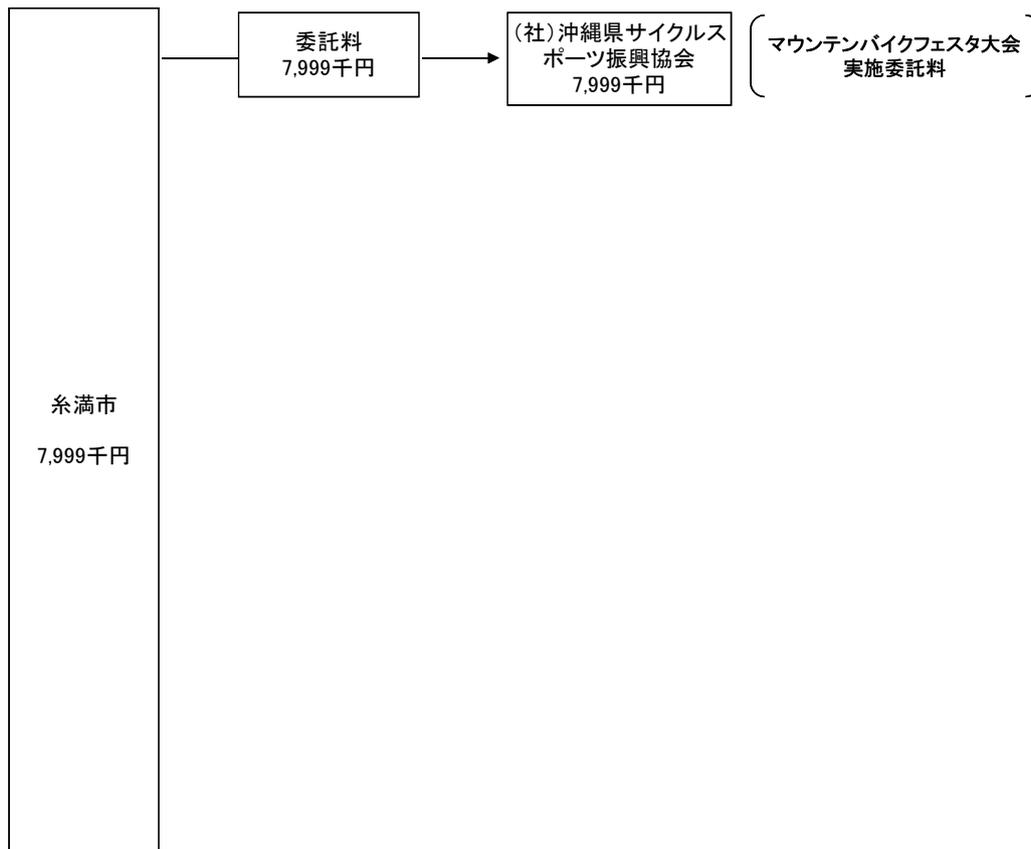
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①日本自転車競技連盟(JCF)との連絡調整に時間を要し、H26年度第1回プロリーグ大会開催の周知が遅れ、プロの参加人数が伸びなかった。 ②大会参加者以外の来場者にもマウンテンバイク競技の楽しみを体感できる取組を考える必要がある。	①大会開催日等の周知について、県内外へ早期情報発信を行い、プロ・アマの参加者を増やす必要がある。 ②大会参加者以外の来場者にも競技が楽しめるよう、年間を通してマウンテンバイクが楽しめるようなイベント企画の立案等が必要。

今後の取り組み方針

- ①糸満市長杯マウンテンバイク大会実行委員会を早期に開催し、大会開催日等を県内外へ早期情報発信を行い、プロ・アマの参加者を増やすよう努める。
 ②隔月でミニ大会等を開催し、常設コースを整備し、競技人口の拡大に努める。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,999	7,999	6,399	1,600	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・受託事業者の沖縄県サイクルスポーツ振興協会は、事業内容を遂行するに当たり、県内随一の豊富な実績と知識を有することから選定は妥当であったと考える。 ・不用額は予算の5%以内であり、適正な予算規模であった。 ・事業目的達成の観点から必要最小限の支出であり、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 糸満市

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (1-5), 事業実施(予定)年度 (平成26~28年度), 沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所, 沖繩振興基本方針該当箇所. Includes 第三章-1-(1)-ア and Ⅲ-1-(1).

事業内容 天然のサンゴを西崎地先に移植する。その後の経過観察にてサンゴの定着・増殖、それに伴う魚種・魚数の変化、水質の変化等を調査する。また、児童、高校生、市民ボランティアを活用して移植・学習会等を行うことで、サンゴ礁保全の普及啓発活動を行う。以上の事業を行うことにより、市民の環境保全に対する意識の向上及び資源の増大による水産業・観光業の振興を目的とする。

実施方法 □直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()

Table with 6 columns: 26年度, 27年度, 28年度, 29年度, 30年度. Rows include 予算額・執行額 (単位:千円) with sub-rows (a) through (d), A. 計, B. 執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率 (%)(B/A), and 予算の状況の説明.

Table with 5 columns: H26活動目標(指標), 26年度, 27年度, 28年度, 29年度. Rows include 活動目標(指標)及び達成状況 (サンゴの移植, 移植体験会, 移植後の調査, 経過報告、学習会) and 達成状況説明.

Table with 7 columns: H26成果目標(指標), 基準値(年度), 26年度, 27年度, 28年度, 目標値(年度). Rows include 魚種類数, 魚の数, サンゴの面積, and サンゴ生存率.

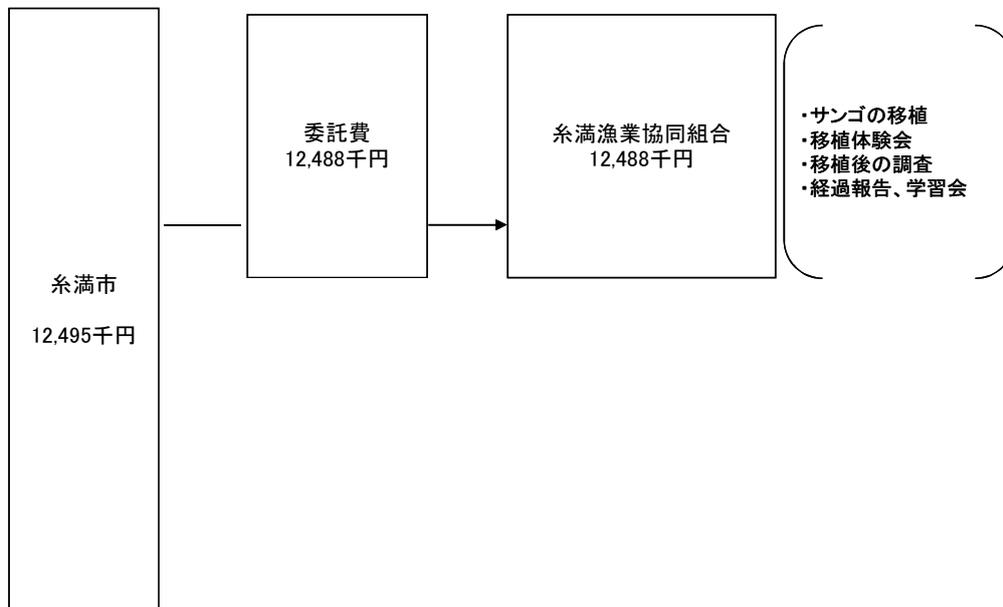
進捗状況説明 ・「魚種類数」「魚の数」にて目標を超える実績が得られた。この結果により、サンゴ礁による魚類増大効果を示し、サンゴ礁の保護が、水産資源の保護につながることが明らかにできた。 ・「サンゴの面積」「サンゴの生存率」にて目標を超える実績が得られた。この調査により、サンゴをオニヒトデの食害から適正に管理する重要性を明らかにできた。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①短期間の調査結果であるため、結果に対する市民の印象が弱い。 ②サンゴの量・大きさ、サンゴによる魚の種類・数等が、まだ小規模であり、水産資源・観光資源としての価値が弱い。	①継続して調査を実施していくことで、調査結果の価値が高まり、市民への普及啓発につながる。 ②同海域に集中してさらにサンゴを増やすことで、多くの魚が集まる。また、観光資源としての価値が高まる。

今後の取り組み方針
①継続して、調査を実施していくことで、市民の環境保全に対する意識の向上に取り組む。 ②同海域に集中してサンゴの植え付け・保護を行い、魚の種類・数をさらに増大させ水産資源の充実を図る。また、観光事業者等にも呼びかけPRを図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
12,488	12,488	9,990	2,498	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・自然環境・漁場・漁業権漁業等への影響を勘案した結果当該事業者を選定し、妥当であったと考える。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ・事業目的達成の観点から書類等を確認し、必要最小限の支出であり、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑥	伝統民俗文化継承発展事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-イ			
担当部課名	教育委員会総務部 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化の担い手の育成			
事業内容	伝統文化の継承と文化の創造発展を目的に、国指定無形文化財である「組踊」を本市に伝わる「白銀岩の由来」を題材に実演させることや糸満海人に歌い継がれてきた「ハーレー歌」、わらべ歌などの市の伝統文化を小中学生に実演体験させる舞台発表を行い、市の伝統民俗文化の啓蒙普及をはかる。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,700					
		(b)予算現額	1,700					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)前年度繰越額	-					
		A.計(b+d)	1,700					
	B.執行済額		1,700					
	うち交付金充当額		1,360					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		予算額1,700千円を伝統民俗文化継承発展事業補助金として計上し計画通り執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	・パート、合同練習(12回)	目標	(12日)	()	()	()		
		実績	11日					
	・子供組踊隊公演(1回)	目標	(1回)	()	()	()		
		実績	1回					
	・アンケートの実施	目標	(1回)	()	()	()		
実績		1回						
達成状況説明	糸満市子供組踊隊実行委員会により、「糸満子供組踊隊」の出演者、講師陣が組織され、舞台発表に向けての練習を行う。出演者は未就学児から小中学生までの25人、指導者は国指定重要無形文化財組踊保持者をはじめとする12人からなる。立方、舞方、歌・三線など部門に分かれての部門練習と全体合同練習を計11日間行った。練習回数は目標日数に1日少ないが、総時間は目標時間数通りである。また、当日は本番に先立ち全体を合同リハーサルを行った。本番である糸満市農村環境改善センターでの舞台公演を平成27年2月14日に行い、来場者を対象にアンケートを実施。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	児童生徒参加者数 26人	目標	()	(26人)	()	()	()	
		実績		25人				
	公演会来場者 500人	目標	()	(500人)	()	()	()	
		実績		401人				
	アンケートの有効回答のうち興味や関心が増加した人の割合 ※アンケート有効回答のうち公演内容について、「大変良かった」または「良かった」と回答した人の割合	目標	()	(70%)	()	()	()	
実績			88%					
進捗状況説明	平成27年2月14日(土)、糸満市農村環境改善センターにおいて「創作組踊 白銀め想い」と題する舞台公演を開催。立方、舞方、歌・三線、司会と出演者の全てを子供達が務める舞台を完成させた。市内では翌日にも大きな行事の開催が控えていたことが影響したのか来場者数は401人(幼児、舞台指導者、出演者、スタッフを含まず)と目標人数には及ばなかったものの、会場はほぼ満席であり、事業の目的は達成できた。来場者からのアンケート(回答286人・回収率71.3%)には、「地域に伝わる白銀岩の由来を再認識した」「子供達の演技や地謡が素晴らしかった」「伝統を受け継ぐ子供たちの姿勢が素晴らしかった」「今後もこのような取り組みを継続してほしい」など、取り組みを評価する感想や意見が多く寄せられた。							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	平成11年に市内の古典芸能関係者によって組踊「月の豊多」が上演されたことをきっかけに、以来数度にわたって関係者らによる組踊公演会が企画開催されるようになり、出演者層・指導者層ともに充実してきた。併せて、市民の古典芸能への理解や関心も高まった。 このようななか糸満市子供組踊隊実行委員会が組織され、子ども達による組踊上演を目標に子供達への指導がなされ、今回舞台発表を実現することができた。これにより関係者のみならず市民の古典芸能への関心がより一層高まった。 また、上記とは別に組踊実演者や指導者等による市民団体が結成されるなど、伝統芸能継承への機運が高まっており、そのような団体の育成のために、支援が必要である。	これまでの取り組み等により組踊をはじめとする伝統芸能に親しむ児童生徒が増えており、今後も継続した支援が必要である。併せて、伝統芸能の継承を目的に活動する大人への支援とともに、関係団体間の連携を図ることも重要である。
	今後の取り組み方針	
糸満市子供組踊隊実行委員会は、今回の公演以降も地域の子ども達を対象に伝統芸能継承者の育成を継続して行っている。今後とも同実行委員会への支援・協力を努めるとともに、伝統芸能継承を目的に活動する同実行委員会をはじめとする市内の各団体間の連携強化に努めたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	1,700	1,700	1,360	340	0
糸満市 1,700千円	補助金 1,700千円	糸満市子供組踊隊 実行委員会 1,700千円			
		講師謝礼金 896千円			
		会場費 500千円 音響・照明			
		宣伝費 150千円 音響・照明			
		映像記録費 50千円 上演記録			
		事務費 104千円 音響・照明			

資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○糸満市伝統民俗文化継承発展事業補助金交付要綱並びに糸満市補助金等交付規則により適正に執行した。 ○不用額はなく、適正な予算規模であった。 ○伝統文化の啓蒙普及の観点から、受益者との負担関係は妥当であった。 ○事業目的達成の観点から必要最小限の支出であることを書類等で確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	燃料ごみ処理モデル事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア	
担当事業名	市民健康部 市民生活環境課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進	
事業内容	最終処分場を保有していない本市では、自区内処理ができず、廃棄物の減量化及び資源化を推進する必要があるため、モデル地区の可燃ごみの固形燃料化を支援するとともに、同モデル地区との連携による他自治会への説明会等を行うなど同事業の拡大に取り組む。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,299	3,562	3,013		
		(b)予算現額	4,299	3,562	3,013		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0		
		(d)前年度繰越額	—	—	—		
		A.計(b+d)	4,299	3,562	3,013		
	B.執行済額		2,747	2,607	2,795		
	うち交付金充当額		1,627	2,085	2,236		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		63.9%	73.2%	92.8%		
予算の状況の説明		当初121トンの数量にて予算額を策定したが、実績は117トンであったため、218千円が不用額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・燃料ゴミ収集活動の実施100回/年	目標	(104回/年)	(100回/年)	(100回/年)	()	
		実績	102回/年	104回/年	104回/年		
	・燃料ゴミ化推進広報の実施10回/年	目標	(10回/年)	(10回/年)	(10回/年)	()	
実績		10回/年	10回/年	10回/年			
達成状況説明	モデル地区を週2回収集する事により年間104回実施した。その結果可燃ゴミの搬出量を抑えられ、ごみの資源化に効果があった。ごみ減量効果等について広報等で年間10回程度掲載を行うことで市民への周知が図られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・再資源化(RPF)量(121トン)	目標	(143トン)	(145トン)	(118トン)	(121トン)	()
		実績		127トン	107トン	117トン	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	市内で燃料ごみ処理対応できる業者は1社しかなく、その委託先のストックヤードがこれ以上の集積に対応できない状態にきている。そのため、委託業者はストックヤードの面積を広げることを念頭に用地取得に向けて検討している状況にある。委託業者が用地取得を行わない、集積面積が確保できた場合、更なる目標値の向上が見込まれる。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>モデル地区として、兼城ハイツ自治会・武富ハイツ自治会・パークタウン阿波根自治会・西崎ニュータウン自治会の4カ所が設定されているが、排出量についてはほとんど変化ない。公共施設等の古紙類が機密文書として処分されているため、燃料ごみの処分量が低下してきている。</p> <p>委託先のストックヤードの集積場所の面積が、現在のモデル地区の収集量でいっぱい状況であり、これ以上の収集量が見込めない状況である。</p>	<p>委託業者は、現在のストックヤードの面積では、モデル地区以外の地域の燃料ごみを収集してもストックできるスペースがないため、ストックヤードの面積を広げるための用地取得に向けて検討している。</p> <p>用地取得後、ストックできる面積等を検証し、面積に応じたモデル地区の増大や市内全域の収集等を検討し、再生資源ごみの増量を目指し、ごみ処理場での搬入量の減少を行っていく。</p>

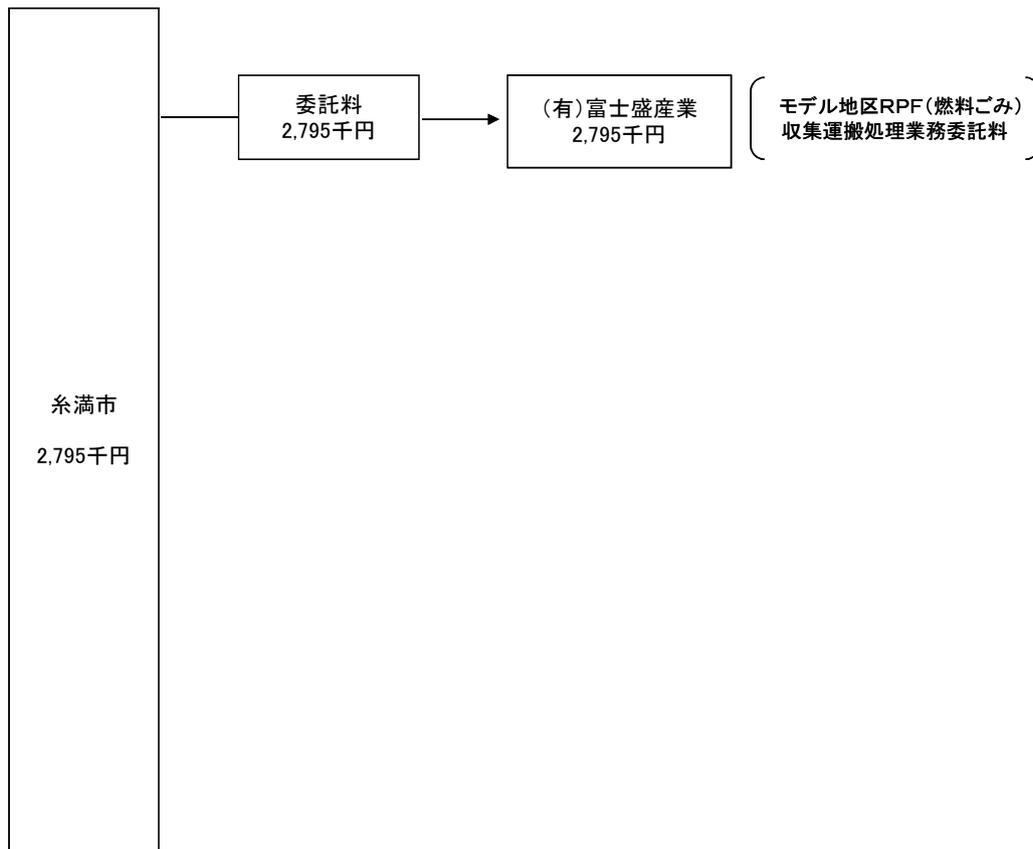
今後の取り組み方針

・委託業者の用地取得の動向を確認し、燃料ごみの収集量の増加が見込めた場合、モデル地区の増大や市内全域の収集を検討していく。また、モデル地区を中心に引き続き広報誌等を活用し、燃料ごみ分別についての周知を図っていく。

・公共施設等の古紙類が機密文書として処分されているが、燃料ごみとしての活用が可能であるため、周知を行い再生資源ごみの増量を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,795	2,795	2,236	559	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○燃料ごみの処理施設を有する事業所が市内では1事業所であり、委託業者は組織、実績等を勘案した上で選定したため、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、平成26年度の処理量の実績に基づき算出しており、適正な規模である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、燃料ごみの処理事業のみに限定し使用されている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市				
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	3-①	スポーツ観光分野開拓事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア
担当部署名	教育委員会 指導部 社会体育課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出
事業内容	生涯スポーツを推進するスポーツ都市宣言のまちとして、さらに他自治体と異なるアマチュアスポーツのメッカの地としてPRL市外からの誘客をもたらすため、海洋スポーツフェスティバルやウォーキング大会を開催する。					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a)当初予算額	3,780	4,000	2,938	
	(b)予算現額	3,780	4,000	2,938		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)前年度繰越額	—	—	—		
	A.計(b+d)	3,780	4,000	2,938		
	B.執行済額	3,575	3,895	2,840		
	うち交付金充当額	2,859	3,116	2,272		
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	94.6%	97.4%	96.7%		
予算の状況の説明	概ね予算計上どおり執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況				
		24年度	25年度	26年度	27年度	
	ウォーキング大会の開催	目標	(4コース)	(4コースでの開催)	(開催)	()
		実績	4コース	4コースで実施	開催	
	海洋スポーツフェスティバルの開催	目標	(大会の開催)	(5種目の実施)	(開催)	()
		実績	大会を開催	12種目を実施	開催	
達成状況説明	【海洋スポーツフェスティバル】当初は10月に糸満市スポーツレクリエーション祭(7種目)と同時開催を行う予定であったが台風接近のため中止となった。再度実施を検討し、美々ビーチの海開きに合わせて3月にフェスティバル(5種目)のみ実施した。 【ウォーキング大会】近年、近隣市町村においてウォーキング大会が増える中、市外、県外の参加者が増えた。市ホームページはもとより、本市のアンテナショップ等におけるポスター掲載の宣伝効果やスポーツ推進委員による定例ウォーキング教室が集客増に繋がったと考える。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		スポーツイベント参加者数(2,500人/年)	(0人)	(1,300人)	(1,500人)	(2,500人)
			1,320人	2,724人	1,895人	
		()	()	()	()	()
	進捗状況説明	【海洋スポーツフェスティバル】台風接近により実施が10月から3月に延期となり、時期的に気温が心配されたが目標人数600人に対し、800人の参加があった。さらなる集客を図るには沖縄らしさ・夏のイメージがある時期を選定し実施する必要がある。 【ウォーキング大会】集客を図る目的でトップアスリート(今回:柔道金メダリスト野村忠宏氏)のトークショーを目玉として実施した。目標人数1,500人に対し、1,000人の参加となり、昨年と比較して参加者が300人減少した。海洋スポーツフェスティバルと同様に市のHPやマスコミ等で大会周知を行ったが、参加者数は当日の天候にも左右されること及び本市の柔道競技人口が少ないことなどが減少の要因として考えられる。しかし、千人規模のウォーキング大会が実施できたことは、市民の健康体力づくりの観点から徐々に認知されていると考える。				

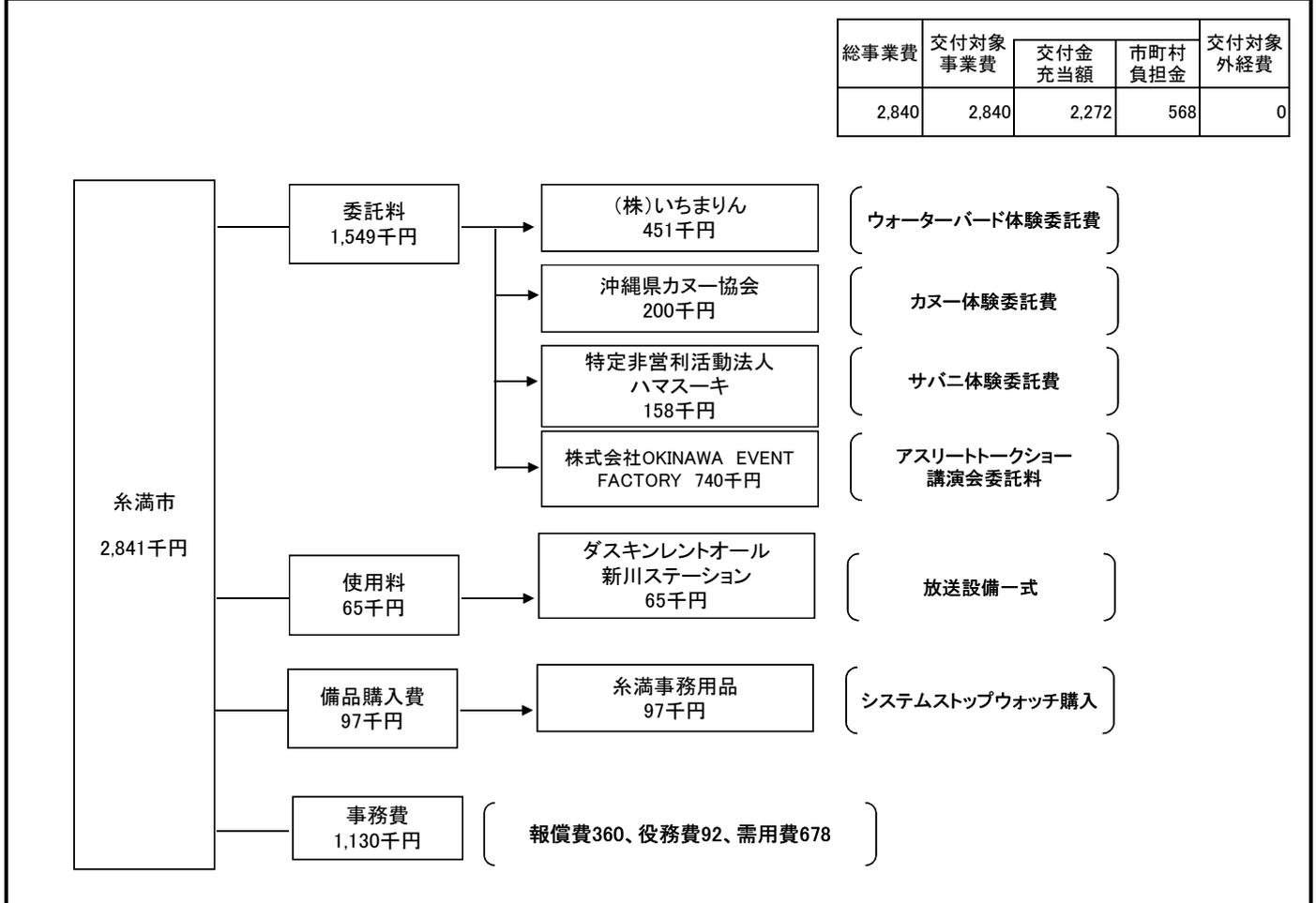
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>【海洋スポーツフェスティバル】 これまで3回実施し、うち2回は台風や悪天候で延期となった。海洋スポーツであるがゆえに、少々の気象条件に左右されるので主催者も慎重に判断しなければならない。</p> <p>【ウォーキング大会】 目標参加人数1,500人に対し1,000人の参加となったが、26年度から糸満市活動支援センターが主催する「糸満まちづくりカフェ2015」と融合する形をとり、ゴールの糸満市役所には軽食コーナーやJAファーマーズ出張店舗等41ブース設置され、参加者の目を楽しませた。ウォーキング参加者あわせて1,600人が集った。 史跡・旧跡・名勝をめぐるウォーキングコースは参加者から好評であり、さらに各方面へのコース設置増を検討し充実を図りたい。またウォーキングを通じて、平和を希求する機会として定着できるように検証したい。</p>	<p>【海洋スポーツフェスティバル】 開催が気象条件に左右されるので比較的に穏やかな時期を選定すること、延期を想定して予備日を設ける。</p> <p>【ウォーキング大会】 相乗効果を図る観点からスポーツと観光が融合するように、各種団体と連携し実施していく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

【海洋スポーツフェスティバル】
美々ビーチとまんの海開きが行われる3月下旬頃は、気候的にも穏やかな時期で、春休みシーズンにあたることから予備日も設けやすく、観光客等の増加も見込まれ、参加者の増加につながる。今後は時期を3月に見直すか、または規模を縮小し既存事業の一環として組み込み開催するかを検討していく。

【ウォーキング大会】
昨年は糸満市活動支援センターと連携を図り大盛況であった。各種団体との連携が相乗効果につながり、千人以上の参加者があった。今後はスポーツと観光がさらに融合できるように、平和の道等のコースを設定し、県外からの誘客も視野に入れて、糸満市から平和を発信できるような大会にしていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、実績、知識等を勘案して選定した業者であり妥当であったと考えている。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ・使途費用の規模等の適正については、目的達成の観点から書類等で確認しており、必要なものと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	西崎運動公園有効活用調査		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ		
担当部署名	企画開発部 政策推進課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成		
事業内容	冬季シーズンに温暖な気候の沖縄県の優位性を生かし、冬季を中心としたスポーツ団体や各種大会の誘致等により、西崎運動公園の有効な活用方法の調査を実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,393				
		(b) 予算現額	6,393				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	6,393				
	B. 執行済額		5,976				
	うち交付金充当額		4,780				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		93.5%				
予算の状況の説明		委員謝金については、委員会開催回数及び外部委員の人数が共に予定より減ったことにより執行率55.4%にとどまった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	検討委員会の開催 5回	目標	(5回)	()	()	()	
		実績	4回				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	第1回 西崎運動公園有効活用に関する糸満市の事業との関係性及び今後の進め方について 第2回 西崎運動公園機能充実の方向性等及び施設の現状について 第3回 オリンピック・パラリンピック競技合宿等の誘致可能性調査、事業者へのヒアリング及び指定管理者募集要項の検討について 第4回 オリンピック・パラリンピック競技合宿等の誘致可能性調査、西崎研修センター用途変更等の検討及び指定管理者募集要項の検討について 以上の委員会で意見の合意形成が成されたため、4回の開催で終了となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	有効活用計画の策定	目標	()	(有効活用計画の策定)	()	()	()
		実績		調査報告書の作成			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	当初は西崎運動公園を一體的に総括する有効活用計画を策定する予定であったが、オリンピック・パラリンピック事前合宿等の受入を念頭に今後の活用法を検討したため、各施設ごとに個別の計画を策定(施設機能強化計画)する方がより効果的であると判断されたため、今回は、そのたたき台となる西崎運動公園有効活用調査報告書を作成した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>○市内における地域内の滞留人口を増やし、スポーツによる地域活性化を目指す観点から、域外からの合宿誘致に取り組むための機能を付加し、施設の利用価値向上を図る。</p> <p>○アマチュアスポーツのメッカとして、障がい者にも配慮した施設への機能改善を目指す。</p> <p>○施設の稼働を向上させるため市民利用の範囲を確保しつつ、合宿利用者との調整を図る。</p> <p>○多様な市民のスポーツ活動をサポートする施設として、引き続き他の施設ではできないような競技の受け皿としての機能維持を検討。</p> <p>○オリンピック・パラリンピック競技事前合宿誘致を検討。</p> <p>以上の点を推進するため各個別計画策定のたたき台となる西崎運動公園有効活用調査報告書を作成した。</p>	<p>○トレーニング室:選手のニーズに合うような機器の導入、障がい者に配慮した整備</p> <p>○陸上競技場:スタンド増設、スタンド下の雨天対応坂道走路・障がい者対応の施設整備</p> <p>○西崎球場:雨天時の練習環境の整備、バックネット・ラバーフェンス等の更新</p> <p>○庭球場:芝・照明灯の更新</p> <p>○西崎研修センター:障がい者対応シングルルームの増設、マッサージ機能・温浴施設等の充実、客室・空調設備の更新、バリアフリー・ユニバーサルデザイン・多言語への対応等を目指した施設の機能改善、アスリート宿泊を想定した機能・設備強化</p>

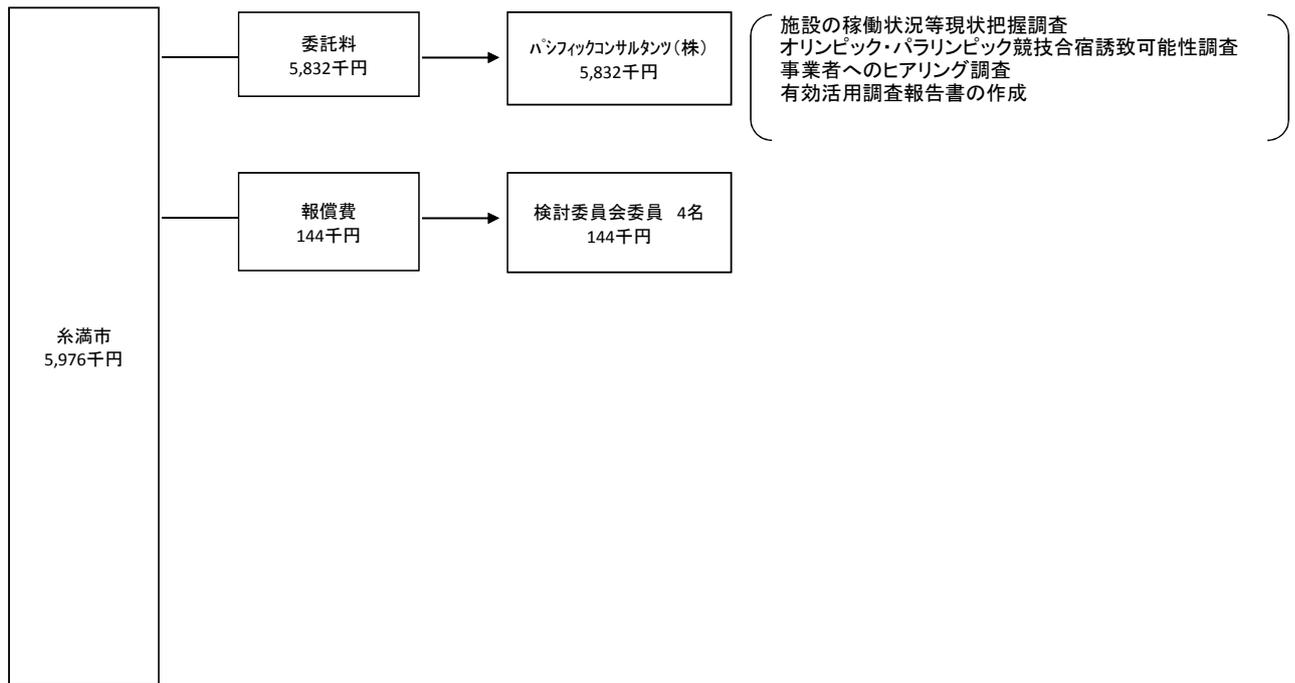
今後の取り組み方針

○選手ニーズ、障がい者に配慮した機器導入については、平成28年度からの次期指定管理者の自主事業において導入することを検討

○設備更新、機能強化については、本調査報告書を基に今年度補正予算で基本計画を策定し、次年度以降で整備していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,976	5,976	4,780	1,196	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザルにより選定しており、妥当であったと考える。 ○不用額は事業費の6%程度であり、入札による減であることから、適正な規模であった。 ○委員会の人数、開催回数については、予定よりは減ったものの調査報告書の作成に影響はなく妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	運動公園・体育施設機能強化事業					
担当部課名	建設部 都市計画課	事業実施（予定）年度 平成24～27年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 沖縄振興基本方針該当箇所					
事業内容	第3章-3-(6)-ア 沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出 Ⅲ-1-(1)						
事業内容	本市は、アマチュアスポーツのメッカのまちとしてPRLし、合宿や大会参加など県外から多くの選手を受け入れており、スポーツ観光の一層の充実を図るため、本市の拠点施設である運動公園・体育施設の機能強化に取り組む。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	25年度（繰越）	26年度	27年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	185,600	0	0	7,830	
		(b) 予算現額	185,600	279,054	0	7,830	
		(c) 増減額 (b-a)	0	279,054	0	0	
		(d) 前年度繰越額	—	—	186,900	—	
		A. 計 (b+d)	185,600	279,054	186,900	7,830	
		B. 執行済額	178,084	92,153	184,290	2,484	
		うち交付金充当額	142,467	73,722	147,432	1,987	
		次年度繰越額	0	186,900	0	0	
		執行率 (%) (B/A)	96.0%	33.0%	98.6%	31.7%	
予算の状況の説明	利用状況を鑑みながらの事業であったが、予定通りの事業を行うことが出来た。しかし、入札において落札率が低かった為、不用額が多く出ることとなった。						
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	陸上競技場の音響設備の整備	目標	(陸上競技場音響設備の整備)	()	()	()	
		実績	陸上競技場の音響設備を整備				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	平成26年度は陸上競技場の放送設備の機能強化を行った。予定通り機能強化を行うことが出来たが、平成25年度繰越事業における整備に伴う利用制限があった施設があり、利用者は減少となっている。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	音響設備整備の完了	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	平成26年度は、陸上競技場の放送設備の機能強化を行った。利用者、大会等の調整により年度末の執行となったが、事業の執行上は問題無かった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
<ul style="list-style-type: none"> 機能強化の整備を行う上で、利用者、指定管理者との調整が必要となり、特に利用者との調整には時間を要するが多い。 整備を行う施設は利用制限期間があるため、利用者数の減少は避けられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者との調整においては、計画的に行えるように早めの対応を行う。 整備に伴い、利用者の減少が避けられない施設があるので、運動公園全体の利用者数の減少を少なくする為に運動公園全体の取組として工夫を行う。

今後の取り組み方針

・工事期間中は、施設利用者への影響が少なくなるよう、工期毎の利用制限区域が利用者に明確にわかるよう、誘導案内を表示行う。
 ・機能強化が進んでいる施設においてはPRを行う。
 ・施設整備期間は利用者数の減少は避けられない課題であるが、運動公園全体としての利用者の減少を減らすために必要最小限の利用制限期間、利用制限区域の見直しを行い、部分的に利用出来るかを考えながら整備を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,484	2,484	1,987	497	0



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者、請負業者ともに少額を除き指名競争入札により契約を行っており妥当であったと考えられる。 △落札率が低くなった為、多くの不用額が出た。よって、物品購入の際は3者見積り以外の方法も検討する必要があると思われる。 ○費目、用途は委託、工事請負完成時に検査を実施しており、その段階で精査も行っているのが妥当であったと判断出来る。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 糸満市

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	観光地危険生物駆除事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部署名	市民健康部 市民生活環境課	事業実施(予定)年度	平成25～30年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容 本市に多くある慰霊碑や塔は、山間部や岩場等ハブなどの危険生物が生息する箇所に多く建立されており、そこを訪れる観光客等のハブ咬傷の危険性を除去し安全を確保するため、ハブ生息地域を把握し、ハブ捕獲・駆除及び注意喚起看板を設置する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	2,184	3,885			
	(b) 予算現額	2,184	3,885			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 前年度繰越額	—	—			
	A. 計 (b+d)	2,184	3,885			
	B. 執行済額	1,932	3,446			
	うち交付金充当額	1,545	2,756			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率 (%) (B/A)	88.5%	88.7%			
	予算の状況の説明	ハブ捕獲棒購入費については、ハブ捕獲器制作のため材料費として消耗品へ流用した。不要額453千円については、主な理由として車両購入の入札による残額である。				

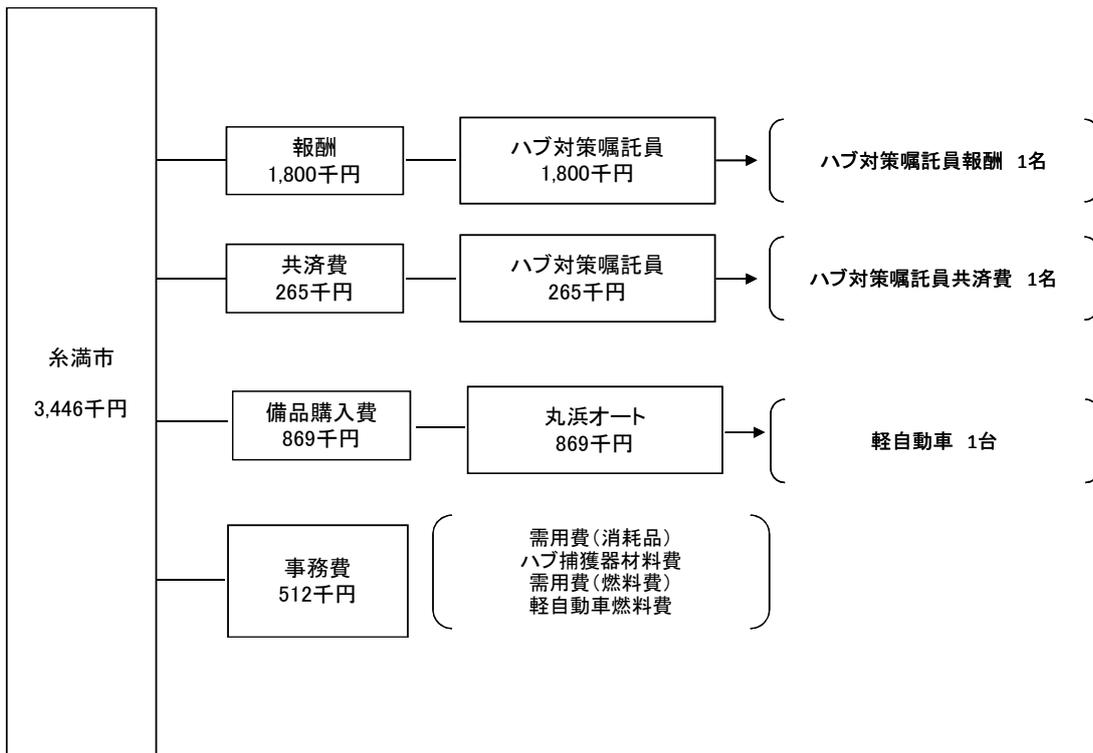
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
・糸満市ハブ対策地域連絡協議会の開催	目標	(開催)	()	()	()
	実績	未開催			
・ハブ対策講習会・講演会の開催	目標	(開催)	()	()	()
	実績	未開催			
達成状況説明	・ハブ対策地域連絡協議会は、昭和51年に本市米須地区の観光施設でサキシマハブ約100個体が盗難され野外に放されたことにより、その対策として発足した協議会だが、ハブ咬傷件数が平成24年7件、平成25年3件、平成26年2件と年々減少していることから、同協議会及びハブ対策講習会等の必要性が薄れてきた状況であったため、代替策として、自治会、学校へのハブ対策DVDの貸し出し及び毎月、市役所で行われる自治連絡員会議でハブ対策の周知、地域間のハブ対策の情報交換等を行い、ハブ対策の推進を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
			26年度	27年度	28年度	26年度
ハブ捕獲頭数1,000匹/年	目標	()	(1,000匹)	()	()	()
	実績		120匹			
	目標	()	()	()	()	()
	実績					
進捗状況説明	・目標値1,000匹で公表していたが、桁誤であったため、正しい目標値は100匹に対し120匹の実績で、目標値を達成している。 ・観光地である平和創造の森公園、米須グスク跡、白銀堂、大度海岸等でハブ、サキシマハブ120匹が捕獲され、ハブ咬症件数が平成24年7件、平成25年3件、平成26年2件と年々減少している。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本市に多くある慰霊碑や塔に訪れる観光客等のハブ咬傷の危険性除去及び安全確保のため、ハブ捕獲・駆除及び注意喚起看板を設置した。</p> <p>事業を実施する中で、ハブ捕獲器が壊され、又は人的被害があったためその対策が必要となった。</p> <p>①ハブ捕獲器にねずみが入っているため、ねずみを狙ってヤシガニやマンガースーによりハブ捕獲器が壊される被害や捕獲器からハブが抜き取られる人的被害があった。</p> <p>②本事業の実施により、ハブ咬症件数が24年度7件、25年度3件、26年度2件と年々減少しているが、観光客等の安心安全の確保のため、更なる取組が必要である。</p>	<p>①ヤシガニとマンガースーによる被害防止のため、ハブ捕獲器がひっくり返されないよう捕器に石を載せた。</p> <p>また、ハブが抜き取られる被害を防ぐため、捕獲器に警告の張り紙を貼り付けたり、定期的にハブ捕獲器の点検を行ったことにより、被害が減少している。</p> <p>②被害のあった場所を重点的に捕獲器及び注意喚起看板を設置する必要がある。</p>
	<p>①被害は減ったが、見回りの強化を行うなど、更なる被害件数抑制に努める。</p> <p>②観光地やハブ生息地にハブ捕獲器をハブ咬症被害があったところを中心に増設し、住民や観光客がハブの被害に遭わないよう安全を確保する。</p>	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,459	3,446	2,756	690	13



資金の 用途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○軽自動車購入は、一般競争入札で購入しており妥当である。
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	○不要額は、入札残によるものであり適正な規模であった。
	○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については、書類等で確認しており、目的に即し必要なものであったと判断した。

市町村名 糸満市

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	防災行政無線増設事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ
担当部署名	市民健康部 市民生活環境課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				災害に強い県土づくりと防災体制の強化
				Ⅲ-10-(2)

事業内容 本市は、観光客が多く訪れる地域であり、訪問先は海岸沿いやビーチが多い。海岸区域に防災無線が未整備な地域があり、防災行政無線を6基増設し、災害時に観光客や住民を防災行政無線により迅速に避難誘導を行う。

実施方法 ■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	28,156				
	(b)予算現額	28,156				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)前年度繰越額	-				
	A.計(b+d)	28,156				
	B.執行済額	26,352				
	うち交付金充当額	21,081				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	93.6%				
	予算の状況の説明	入札により執行額が抑えられたことで、不用額が事業費の6.4%となったが、適正な規模の範囲であるとする。				

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
		防災行政無線の6基増設	目標 (6基)	()	()
	実績	6基			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	西崎工業団地、美々ビーチ、元名城ビーチ入口、海洋センター(喜屋武)、大度海岸、真壁自治会広場に防災行政無線の子局(スピーカー含む情報発信設備一式)を整備した。整備後は、随時、市の情報発信を行っている。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		目標	()	(100%)	()	()	()
		実績		100%			
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	防災行政無線の6基増設により、必要とされていた主要観光地への災害情報を迅速に発信する事が可能になった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>主要観光地として多数の観光客が見込まれる同地域において、災害から生命、身体及び財産を保護する事を目的とする。</p> <p>外部環境の変化として、本市は主要観光地への大型ホテル等の整備を推進しているため、グローバル化が進み外国人観光客が想定されるが、現状は外国語による放送をおこなっていない。</p>	<p>外国人観光客に対する防災情報の提供として、例えば外国語等による放送を追加で行うことでより効果的な情報提供が可能となる。また、将来の技術革新等に対応できるよう、経済的な維持管理を行う。</p>

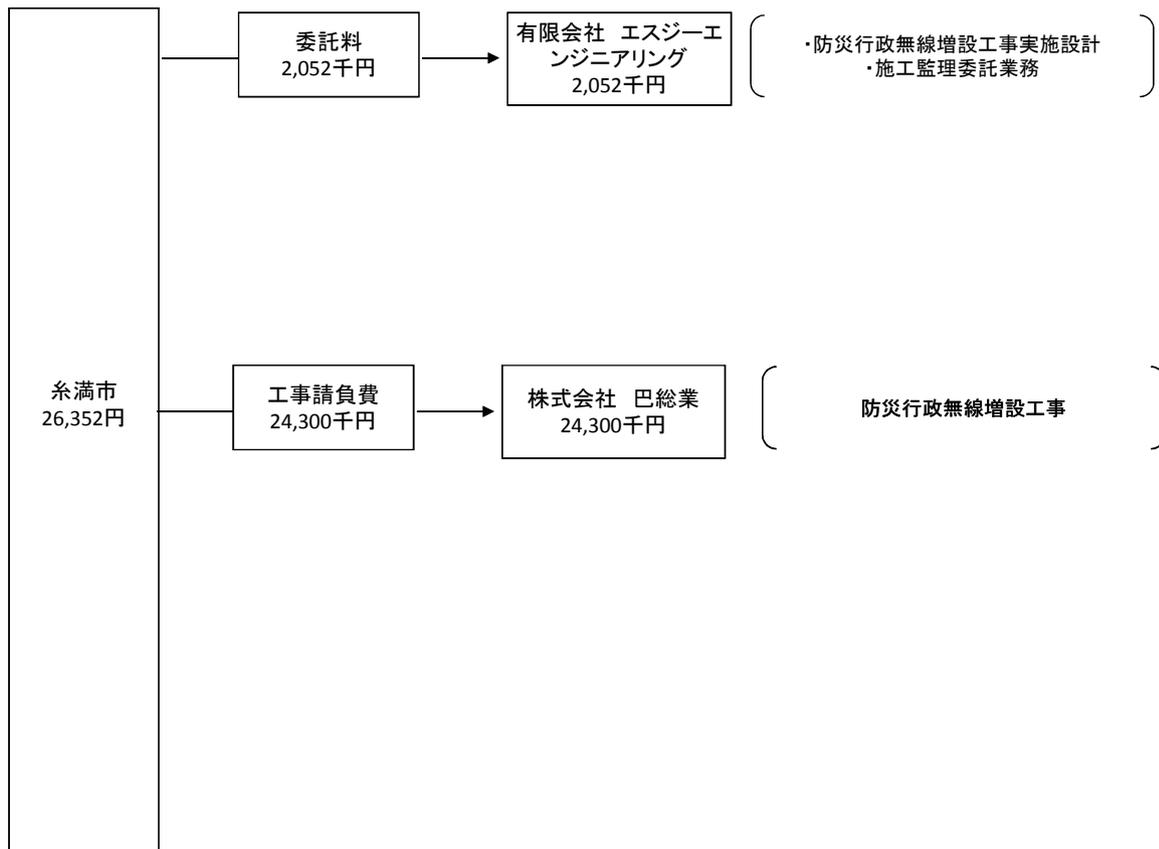
今後の取り組み方針

災害時に外国人観光客に対しても即座に情報提供できるよう、外国語に対応したテープ等を準備する。また、準備するだけでなく、主要観光地を含む当該機器の導入地域で、防災活動を円滑に行うことが可能となるよう、積極的に防災訓練等で活用し行政サービスの向上を図る。

また、当該機器の塩害による劣化を想定し、維持管理(例えば修理などが発生した場合)の際にはそれらに特化した新しい部品等を積極的に取り入れていく等、経済的な維持管理を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
26,352	26,352	21,081	5,271	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名業者入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は、事業費の6.4%であり、適正な規模の範囲であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、使途についても人命にかかわるものであり、必要であるものと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	多言語観光案内マップ作成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ
担当部署名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				圏域の特色を生かした産業の振興
				Ⅲ-1-(1)

事業内容	大型ホテルの営業に伴い増加傾向にある外国人観光客のさらなる誘客に向けて、外国人観光客の市内散策ができるよう、多言語マップ(ブック)を作成する。
------	---

実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()
------	---

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	5,000	2,500	2,787		
	(b)予算現額	5,000	2,500	2,787		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)前年度繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)	5,000	2,500	2,787		
	B.執行済額	4,242	2,370	2,624		
	うち交付金充当額	3,393	2,099	2,099		
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	84.8%	94.8%	94.2%		
	予算の状況の説明	予算額2,787千円のうち、案内マップ作成委託料として2,624千円で契約を締結し、契約どおり執行ができた。				

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
多言語観光ガイドマップ(ブック)の作成 韓国語版 1,000部	目標	(41,000部)	(1,000部)	(1,000部)	()
	実績	41,000部	1,000部	1,000部	
多言語観光ガイドマップ(ブック)の作成 中国語版1,000部	目標	()	(1,000部)	(1,000部)	()
	実績		1,000部	1,000部	
達成状況説明	増加しているアジアからの観光客のニーズに応えるため、これまでに作成した多言語ガイドブックに加えて、韓国語版と中国語(簡体字)版の観光ガイドブックを新たに作成した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
			多言語観光ガイドマップ(ブック)配布数 2,000部	目標	()	(21,000部)
	実績		21,000部	2,000部	2,000部	
	目標	()	()	()	()	()
	実績					
進捗状況説明	宿泊施設や観光関連施設などへ積極的に配布することにより、作成した2,000部全てを配布することができた。					

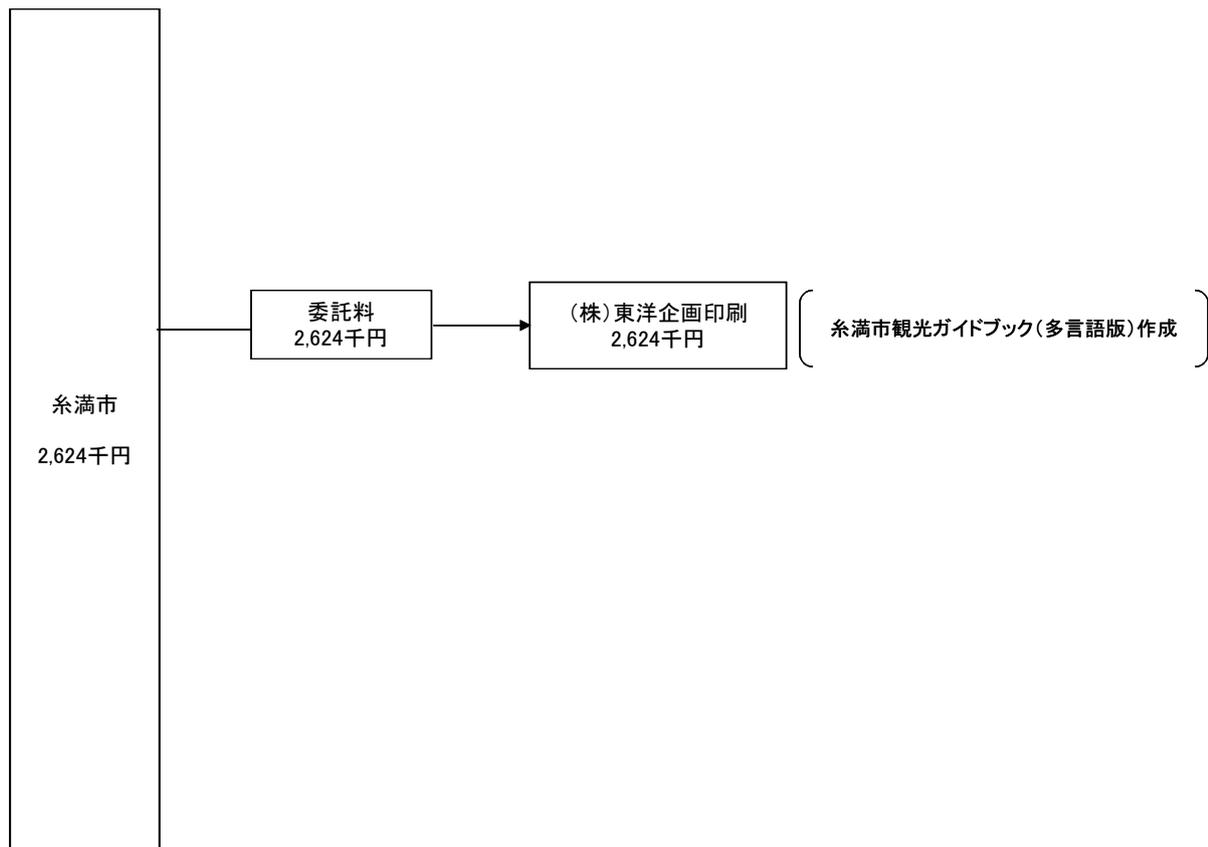
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・既成の日本語版ガイドブックを韓国語版と中国語版(簡体字)に翻訳したガイドブックを作成することにより国外観光客のニーズに対応した。 ・国内観光客と国外観光客では求めている情報が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内観光客と国外観光客では求めている情報が異なることから、必要とする情報の把握に努める。

今後の取り組み方針

・パンフレットの配布方法等も工夫して、観光客の誘客に繋がるような取組みを推進する。
 ・観光客のトレンドやニーズ調査を踏まえて、国内向け・国外向けのパンフレットの作成や、ウェブサイトやモバイル端末との連動性も考慮した内容に充実させる。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,624	2,624	2,099	525	0



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○昨年度作成を委託したガイドブックの翻訳であること、また糸満市の写真データを豊富に蓄積していることから、業者選定を行い随意契約をしたため、妥当であると考え。 ○不用額は予算額の5%程度であり、適正な予算規模である。 ○予算の使途は、ガイドブック作成にかかる委託料となっており書類等で確認し、事業目的に必要な支出に限定されている。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	糸満ふるさと祭推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ	
担当部署名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	ふるさと祭りを夏場の観光資源化と誘客力を高めるため、実行委員会へ補助金を交付する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	5,000	5,000	5,000		
		(b)予算現額	5,000	5,000	5,000		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0		
		(d)前年度繰越額	—	—	—		
		A.計(b+d)	5,000	5,000	5,000		
	B.執行済額		4,990	4,991	4,991		
	うち交付金充当額		3,991	3,992	3,992		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.8%	99.8%	99.8%		
予算の状況の説明		予算額5,000千円を行事の補助金として交付した。なお、事業の実績報告において不用額9千円が生じたことから、4,991千円で補助金の額を確定した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	糸満ふるさと祭りの開催	目標	(祭りの開催)	(祭りの開催)	(祭りの開催)	()	
		実績	祭りを開催	祭りを開催	祭りを開催		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	伝統文化の継承の機会を創出するために糸満ふるさと祭り実行委員会に対して補助金を交付し、市民ならびに観光客にも地域の行事を楽しむ場を提供した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	糸満ふるさと祭到来者(35,000人)	目標	()	(祭りの開催)	(33,000人)	(35,000人)	()
		実績		祭りを開催	49,369人	55,853人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	雑誌やSNSなどで祭りの情報を県内外へ周知できたことや、市内の観光リゾートホテルとタイアップし祭りを盛り上げる体制が構築が出来たことで平成25年度来場者は49,369人であったが、今年度は目標としていた35,000人を上回る55,853人の来場者があった。それにより、伝統文化や市民活動の融合など県内外へ発信できたと共に市内の飲食業などへの経済的波及効果に繋がった。					

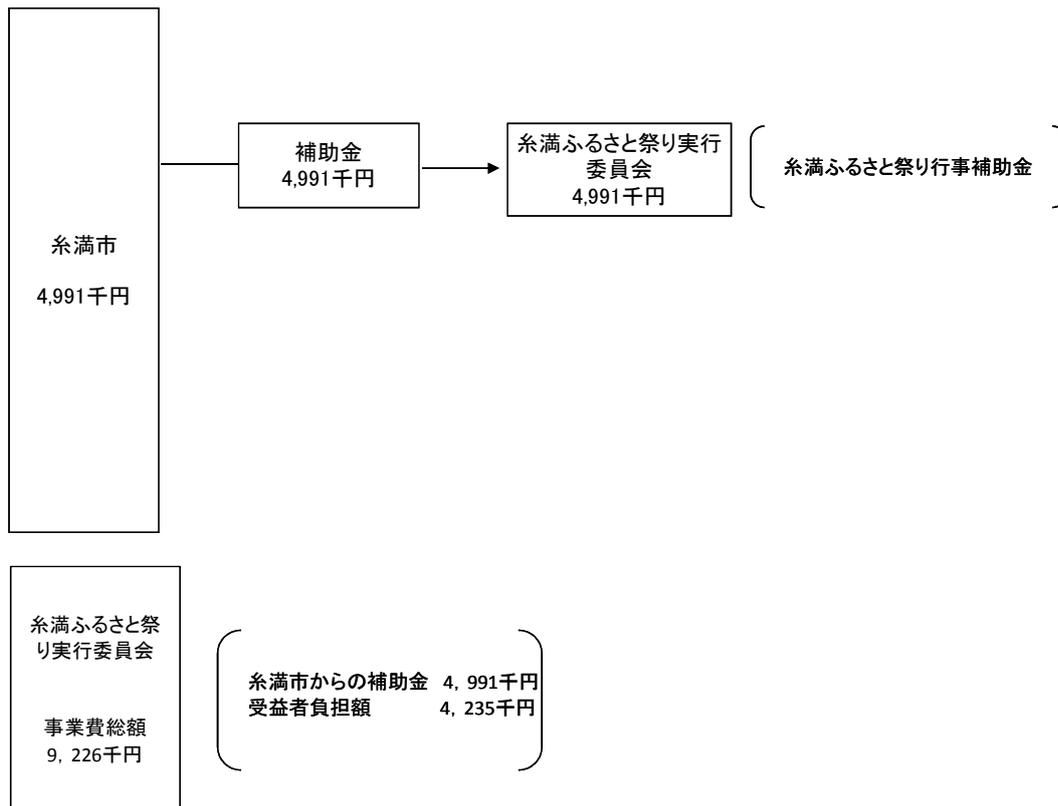
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 安全対策の一環として投光器を設置したものの、設置箇所が十分でなく薄暗いエリアが確認できたことから、来場者に支障を来した。 来場者が当初の目標を大幅に上回ったことから、トイレの待ち時間など来場者に不便さを与えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 薄暗い箇所の解消、来場者の安全確保のため、投光器を増設する等の対策が必要である。 来場者は年々増加傾向にあることから、仮設トイレの増設のみでは対応できない場合も考えられる。 来場者の動線を把握し、万が一行列ができて他の来場者に不便のないよう、効果的な仮設トイレの配置の検討が必要である。

今後の取り組み方針

- 臨時駐車場から祭り会場までの移動に支障を来さないよう投光器の設置箇所を増やすとともに、イルミネーションを活用してライトアップを図るなど来場者の安全性の確保を図る。
- 会場に設置する仮設トイレを増設することにより、来場者の利便性の向上並びに顧客満足度を高める取組みを推進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,991	4,991	3,992	999	0



資金の流れ、費目・費目の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会に委託することで直接事業実施を行えることから費用などにおいても妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費用額は予算の5%以内であり、適正な予算規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金4,991千円の用途は、会場設営費やイベント委託費など祭りの実施に必要な経費に限定して支出されている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については、補助金精算の段階で実績報告書等を確認し、目的に即し必要なものと判断した。

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-③	平和の光イベント推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ	
担当部署名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	冬場は本県並びに本市の観光客が閑散とするため、市内外の誘客を図るため、本県冬場の一大イベントである平和の光(イルミネーション)を実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	(a)当初予算額	30,000	10,000	10,818			
	(b)予算現額	30,000	10,000	10,818			
	(c)増減額(b-a)	0	0	0			
	(d)前年度繰越額	-	-	-			
	A.計(b+d)	30,000	10,000	10,818			
	B.執行済額	29,504	9,977	10,814			
	うち交付金充当額	10,447	7,981	8,651			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)	98.3%	99.8%	100.0%			
予算の状況の説明	予算額10,818千円のうち、事務補助員の賃金717千円、共済費105千円、行事補助金9,922千円を支出した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度		
	平和の光イベントの開催	目標	(イベントの開催)	(イベントの開催)	(イベントの開催)	()	
		実績	イベントを開催	イベントを開催	イベントを開催		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平和の光イベントは、糸満市観光農園で平和の祈りをイルミネーションに託して世界へ発信する事業を実施した(イベント期間:平成26年12月13日～平成27年1月3日)。 市内の小中学校にイルミネーションの市民作品の制作を呼びかけ、3団体から申し込みがありイベントを盛り上げた。 平和の柱イベントは、平和祈念公園で平和の祈りを5台のサーチライトで天空に光の柱を発信することで世界の平和を祈念する事業を実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	平和の光イベント来場者数 80,000人	目標	()	(79,000人)	(80,000人)	(80,000人)	()
		実績		76,184人	79,140人	90,637人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 冬場の一大イベントとして市内外に発信することにより、多くの方に来場いただきイベントの目的である平和の希求及び発信に繋がった。 市民参加型のイルミネーションの飾り付けやステージ演出の展開により来場者の満足度を高めた。 平和の柱イベントとの同時開催により、イベントの相乗効果や地域経済の活性化に寄与することに繋がった。 						

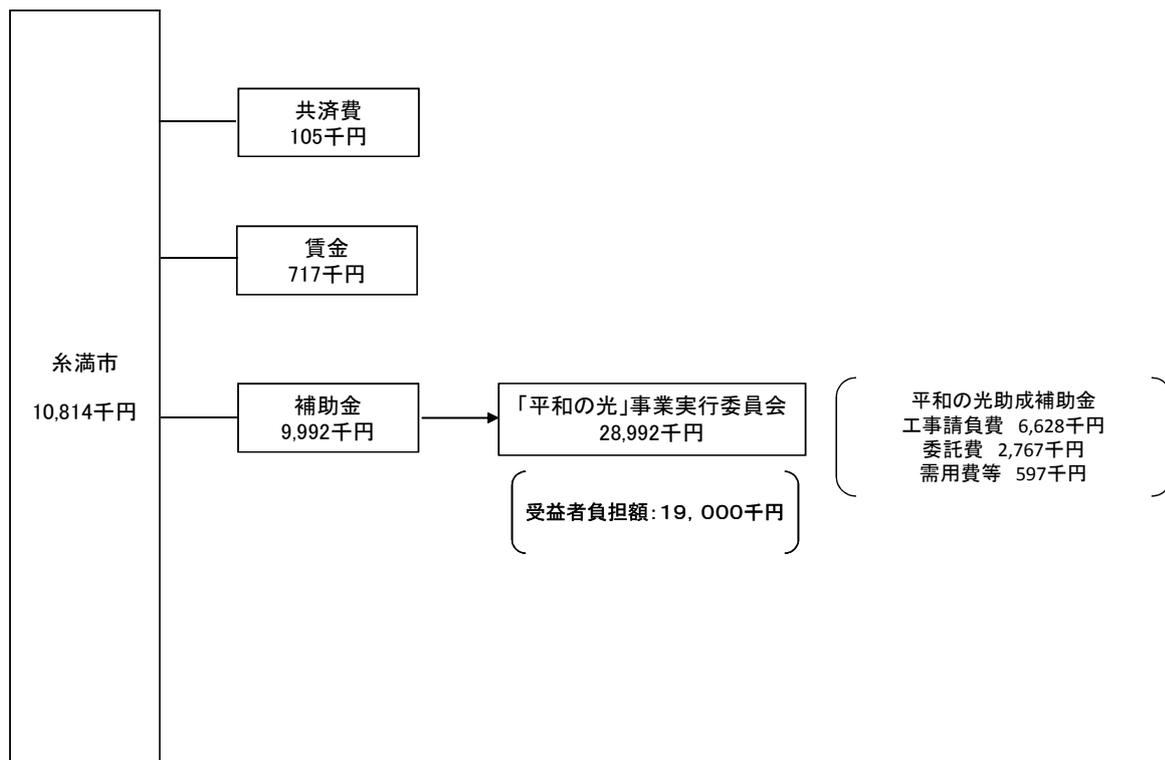
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	イベントはH26.12.13～H27.1.3の22日間開催したが、花火打ち上げのある12/25と12/31は来場者がそれぞれ5千人を超え、交通渋滞が発生するため、改善策を検討する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者のピーク時である12/25、12/31に利用できる臨時駐車場を増設し、シャトルバスの本数を増やす等の対策が必要。 ・来場者がスムーズに入園できるよう駐車場に警備員を配置し、交通渋滞の解消を図る。 ・公共交通機関の活用を検討する。

今後の取り組み方針

・警備員の増員や施設内外にカラーコーンの増設により、違法駐車や渋滞緩和に繋げる。
 ・那覇空港からの直行バス(いとちゃんバス)や糸満市内周遊バス(いとちゃんmini)の運行により、公共交通機関の利用を推進する。
 ・施設への入園が国道331号のみとなっていることから、平成27年度及び平成28年度事業で県道250号線へのアクセス道路の整備を検討する。
 ・過去に人気のあったイルミネーション作品を復活させるなど、毎年当該イベントを楽しみにしているリピーター層へアピールすることや、市民の作品や市民団体のステージ出演を増やすなど、市民参加型を実現することでさらなる発展を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

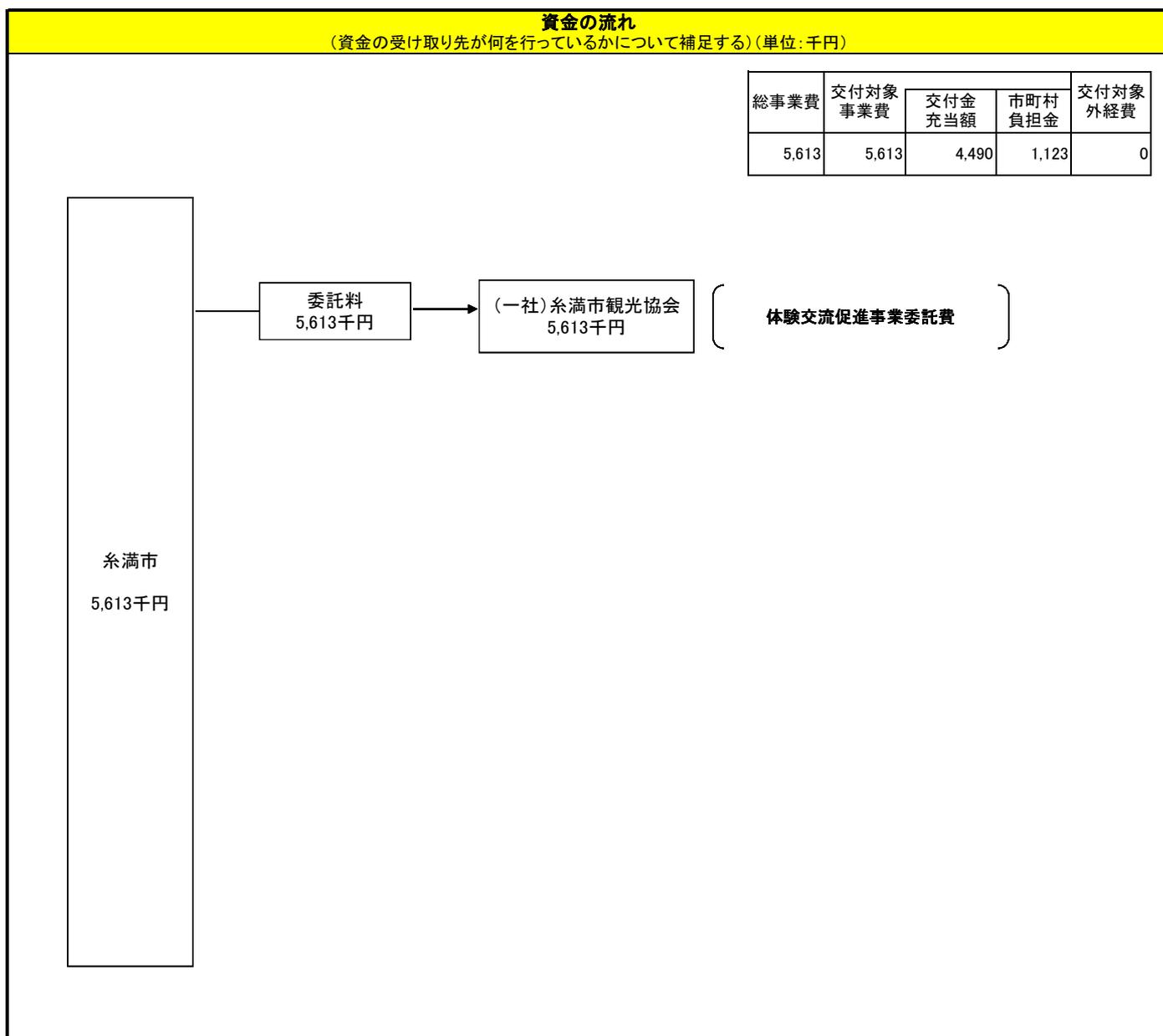
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
10,814	10,814	8,651	2,163	0



資金の用途の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会に委託することで直接事業実施を行えることから費用等においても妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は予算の5%以内であり、適正な予算規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金9,992千円の用途は、工事費や警備費及び清掃費などイベント実施に必要な経費に限定して支出されている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については、補助金精算の段階で実績報告書等を確認し、目的に即し必要なものと判断した。

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-④	体験交流促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ		
担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興		
事業内容	一次産業が盛んで体験型観光の最適地である本市の利点を生かし、観光客のさらなる誘客を図るため、体験型観光メニューの開発及び実施に取り組む。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	5,486	5,618	5,614		
		(b)予算現額	5,486	5,618	5,614		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0		
		(d)前年度繰越額	—	—	—		
		A.計(b+d)	5,486	5,618	5,614		
	B.執行済額		5,486	5,611	5,613		
	うち交付金充当額		3,291	4,490	4,490		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.9%	100.0%		
予算の状況の説明		予算額5,614千円のうち、体験事業の委託料として5,613千円で契約を締結し、契約どおり執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	体験交流指導員等の育成	目標	(指導員の育成)	(指導員の育成)	(指導員の育成)	()	
		実績	指導員の育成	指導員の育成	指導員の育成		
	体験交流イベントの開催 2回	目標	(イベントの開催)	(イベント(2回)の開催)	(イベント(2回)の開催)	()	
		実績	イベントの開催	イベント(2回)の開催	イベント(1回)の開催		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 体験交流指導員等の育成については、各種勉強会を実施し、これまでに育成した交流員の更なるスキルアップを行った。 体験交流イベントは、本市の観光拠点である「道の駅いとまん」へ会場を移して開催した。会場の変更によりイベントの規模が大きくなったことから、開催を1回にまとめ内容の充実を図った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	体験交流事業参加者数 200人	目標	(0人)	(100人)	(参加者200人)	(参加者200人)	()
		実績		140人	参加者2,903人	参加者7,500人	
	体験交流指導員等の育成 5人	目標	()	(-)	(5人育成)	(5人育成)	()
		実績		5人育成	15人育成	勉強会5回開催	
	体験観光メニュー開発 5個	目標	()	()	()	(メニュー開発5個)	()
実績					メニュー開発5個		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 体験交流指導員等の育成については、24年度で5人(成果目標設定なし)、25年度で15人育成し、26年度も5人育成を目標としていたが、事業を実施していくなかで、26年度は新たな指導員の育成よりも、育成した指導員の資質向上が重要と判断したため、26年度はこれまでに育成をした体験交流指導員等を対象とした座学やフィールドワークなどの勉強会を計5回開催し、延べ50名の参加があった。他地域の事例を学ぶことにより、本市の課題の抽出や交流員のスキルアップに繋がったと考えている。 体験交流事業参加者数について、参加企業の増加や、ウェブや紙面、フライヤーなどの宣伝効果で、当初の予定を大幅に上回る7,500名の参加者があった。 体験観光メニュー開発について、市内観光関連事業者や農・漁業者と連携し、市内資源を活かした計5つの体験メニューやまちあるきメニューを開発した。これまでに開発した体験メニューも織り交ぜることで、滞在時間の増加に繋がるメニューとなった。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・体験観光メニューについて、周知が十分でないため、利用実績が少ない。 ・体験交流事業について、想定外の参加者となったため、駐車場への誘導や参加者の誘導に支障を来した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光関連事業者等との連携や、ウェブサイトやチラシ等を活用することで、体験メニューの周知を行い利用実績の増加に繋げる。 ・イベントに支障が生じないように、スタッフや警備員を増やすことにより参加者の利便性向上に繋げる。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き市内観光資源の発掘に努め、観光関連事業者や農・漁業者等と連携し、体験交流指導員を活用した滞在型観光に繋がる体験メニュー開発を行う。そして、観光関連事業者等との連携や、ウェブサイトやチラシ等のを活用し、体験メニューの更なる周知を行うことにより利用者実績の増加に繋げる。 ・体験交流事業について、スタッフ増などの運営面を改善することで参加者の満足度を高める。 ・来年度からは「民泊受入体制強化事業」もこの事業で開催する。 		



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託事業者は、南部広域や観光関連事業所と連携して事業目的を達成できる団体であることを理由に、随意契約を行った。当団体への委託は妥当であったと考えている。 ○不用額はなく、適正な予算規模である。 ○支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市				
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	5-⑤	接客スキルアップ事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-イ
担当部署名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と商業の振興 Ⅲ-1-(1)
事業内容	商業及び商店街の活性化に向けて、糸満市を訪れる中国及び東南アジア観光客が商店街へ回遊した際の接客技術等の向上を図るため、販売促進講座等を開催する。					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a)当初予算額	2,000	2,000	2,000	
	(b)予算現額	2,000	2,000	2,000		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)前年度繰越額	—	—	—		
	A.計(b+d)	2,000	2,000	2,000		
	B.執行済額	1,995	1,999	1,999		
	うち交付金充当額	1,596	1,599	1,599		
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	99.8%	99.95%	99.95%		
予算の状況の説明	中国語セミナーを9回行い、委託費として1,999,998円を支払った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況				
		24年度	25年度	26年度	27年度	
	講習会の実施 (中国語セミナー、戦略セミナー、印象アップセミナー及び接客マナーセミナー)	目標	(16回、3回)	(19回)	(8回)	()
		実績	11回、4回	8回	9回	
目標(指標)	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・プロポーザルで公募し、随意契約にて事業を委託して中国語セミナー、戦略セミナー、印象アップセミナー及び接客マナーセミナーを開催した。 ・中国語セミナーを6回、戦略セミナーを1回、印象アップセミナーを1回、接客マナーセミナーを1回、中国語を対象に糸満工業団地館で行った。 ・基礎的な講座からはじまり、接客に関する対応方法や心構えなどを習得した。 ・外国人観光客が訪れそうな市内企業33社を訪問したり、市の広報にチラシを折り込んだり、ラジオで広報するなど周知を図った。 ・委託の仕様書では開催回数は8回以上を目標に設定していたが、企業の提案により9回以上の開催となった。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		目標	()	(70人)	(160人)	(8回 160人)
	実績		166人	57人	9回 163人	
	目標	()	()	()	()	()
実績						
進捗状況説明	平成25年度と比較し、上記記載のとおり広く周知したこと、講習会回数を9回に増やしたことにより、受講人数の増加につながり実績値が増加した。ほとんどの受講者がアンケートによりよく理解できたと回答しており、満足度も高かった事が伺える。					

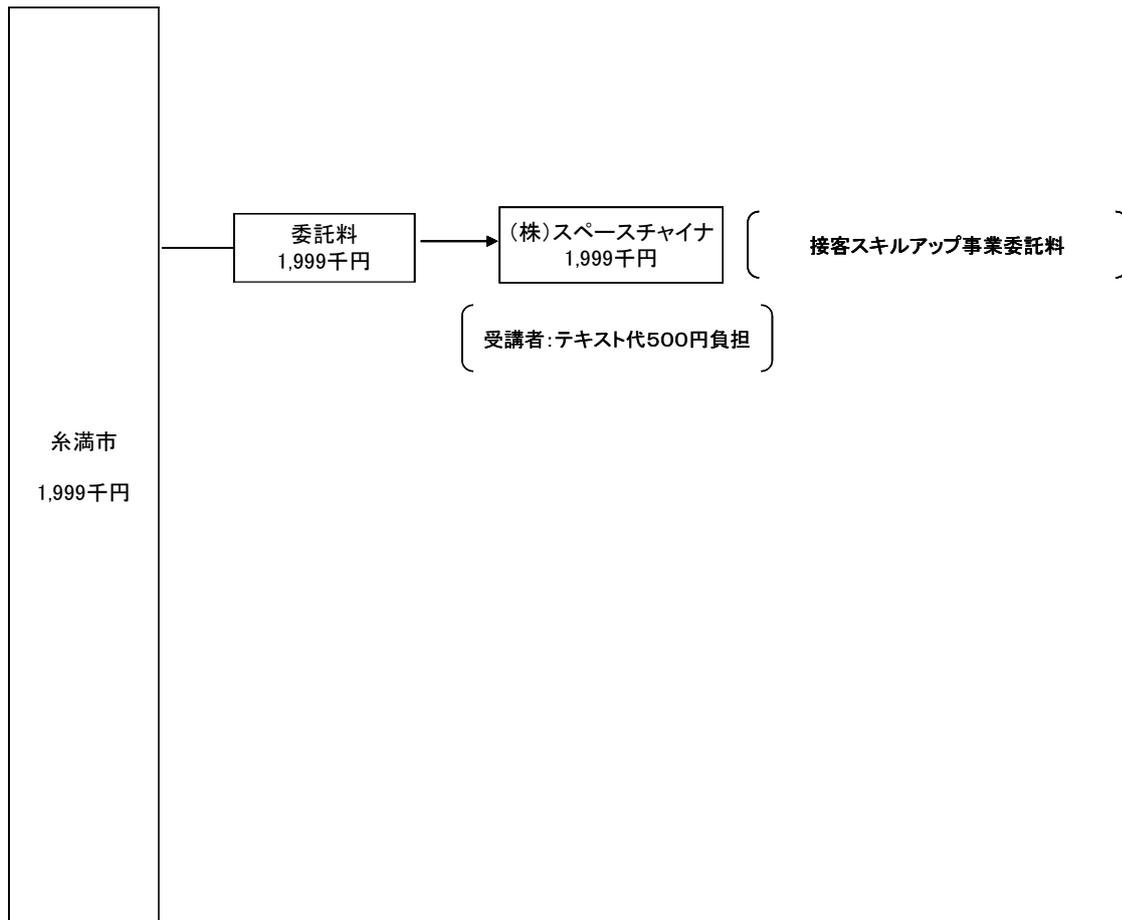
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	外国人観光客が右肩上がりで増加しており、それに伴いその総消費額も増加してきている。接客は消費させる機会やリピートするかどうかを左右する重要な要因となっているが、外国語を話せる方はまだ十分に充足しているとは言いがたい。	平日の午前中に開かれる講座であったため、参加している企業の従業員から夜間の開催ならもっと参加しやすかった等の声があり、夜間開催であればより参加者増が見込めたかもしれない。開催時期も企業が参加しやすい時期をより考える必要がある(年度末を避ける等)。

今後の取り組み方針

・セミナー受講生が現場でその知識を活用できているのか、糸満市観光協会にフォローアップをお願いし、中国語圏観光客に対応できるよう協力していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,999	1,999	1,599	400	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○プロポーザル方式により受託者を決定したため、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく、適正な予算規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担は、テキスト代を自費購入しているため妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○規模、費用、使途については、確定時において支出などに関する書類により確認し、適正であった。

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑥	伝統行事観光化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ	
担当部署名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	市内の伝統行事を市内外からの観光客の誘客に活用するため、誘客マネジメント、観光客用観覧席の設置を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	(a)当初予算額	14,850	4,326	9,091			
	(b)予算現額	14,850	4,326	9,091			
	(c)増減額(b-a)	0	0	0			
	(d)前年度繰越額	—	—	—			
	A.計(b+d)	14,850	4,326	9,091			
	B.執行済額	13,059	3,241	8,708			
	うち交付金充当額	10,447	2,593	6,966			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)	87.9%	74.9%	95.8%			
予算の状況の説明	予算計上について概ね執行できたが、マネジメント費用について予算額より安価で契約することができたため不要額が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度		
	誘客マネジメント(観覧席設置)	目標	(観覧席等の整備)	(観客席の設置体験ツアーの実施)	(観覧席設置)	()	
		実績	整備を実施した	観客席を設置した体験ツアーを実施した	観覧席設置		
	観光動向調査 2回	目標	()	()	(2回)	()	
実績				0回			
達成状況説明	・観覧席の設置により、観光客へ誘客に向けた高付加価値サービスの提供により300人の利用実績に繋がった。 ・観光動向調査については当初2回計画していたが、行事運営に時間を割かれたことと糸満市観光協会との調整が十分に図れなかったことから動向調査の実施には至らなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	誘客マネジメント(糸満ハーレー、糸満大綱引行事観覧席設置 観覧席数180席)	目標	()	(90人)	(2回90人)	(180席)	()
		実績		24人	2回90人	390席	
	観光動向調査 2回	目標	()	()	()	(2回)	()
		実績				0回	
進捗状況説明	・観覧席の設置により、観光客へ誘客に向けた高付加価値サービスの提供により300人の利用実績に繋がった。 ・観光動向調査については当初2回計画していたが、行事運営に時間を割かれたことと糸満市観光協会との調整が十分に図れなかったことから動向調査の実施には至らなかった。						

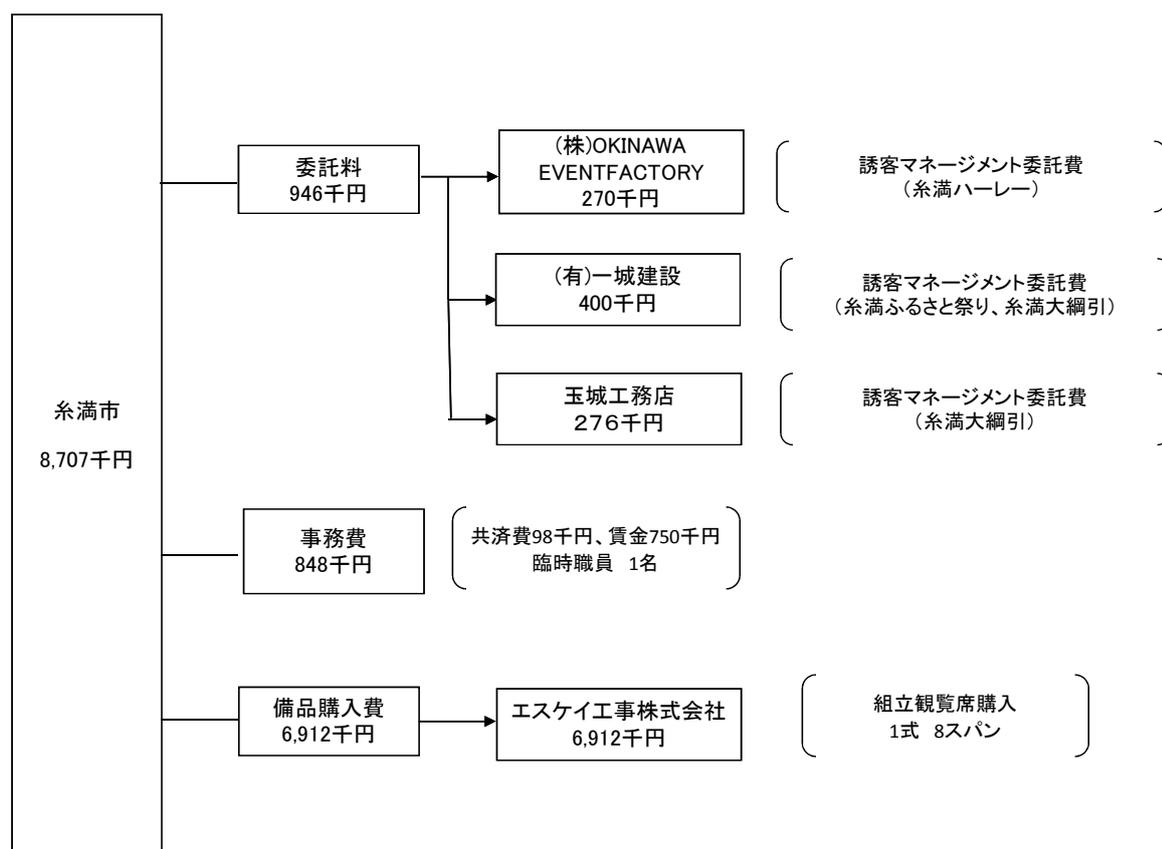
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・観覧席を設置するには費用が発生するため、行事の主体者と財源捻出にかかる仕組みづくりを調整したが、料金設定において課題が残っている。 ・行事運営にあたり、観光協会との情報共有やスケジュール調整が十分に確保できなかったことから観光動向調査の実施に至らなかった。 ・観光動向調査が実施できなかったことから、観光客の誘客効果や利用者の満足度等の定性的な評価が得られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に観覧席が設置できるための料金設定に関する仕組みづくりを行事の主体者と更なる調整に努める。 ・観覧席利用者を中心としたアンケートの実施により、今後の事業運営に反映させる。 ・各行事委員会と早期に情報共有化を図り、観光協会にフィードバックすることにより観光動向調査の実施に努める。

今後の取り組み方針

- ・糸満市観光協会と県内の宿泊施設と連携をとりながら滞在中の観光客へ周知を図る事により付加価値の高いサービスを提供するとともに、観光動向調査の実施により需給のマッチングを分析する。
- ・観覧席設置に係る費用を安定的に確保するために受益者負担に関する画一的基準を設ける必要がある。
- ・各行事委員会にて観覧席を有効活用できるよう指導・助言を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,708	8,708	6,966	1,742	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託業者の選定については、見積合わせにより選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は予算の5%以内であり、適正な予算規模であった。
	△	受益者との負担関係は妥当であるか。	○観覧席の利用料金については、行事の主体者と更なる調整が必要である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。	○費目・使途について支出等に関する書類により確認し適正であったものとする。

市町村名	糸満市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-⑦	民泊受入体制強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ
担当部署名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				圏域の特色を生かした産業の振興
				Ⅲ-1-(1)

事業内容
市を訪れる観光客のさらなる増加を目指し、民泊事業の市民への周知と受け入れ世帯の開拓による教育旅行の拡充を図るため、安心・安全な受け入れに向けた研修や知識向上などの民泊受入体制の整備に取り組む。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 〔「交付金」+「市町村負担」ベース〕	(a)当初予算額	3,000	2,766	3,000		
	(b)予算現額	3,000	2,766	3,000		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)前年度繰越額	—	—	—		
	A.計(b+d)	3,000	2,766	3,000		
	B.執行済額	2,850	2,756	2,999		
	うち交付金充当額	2,280	2,204	2,399		
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	95.0%	99.6%	100.0%		
	予算の状況の説明	予算額3,000千円のうち2,999千円を委託費として契約締結し、契約どおり執行できた。				

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
民泊受入民家向け講習会の開催数 6回	目標	(講習会の開催)	(6回)	(6回)	()
	実績	講演会の開催	7回	8回	
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全な受入に繋がる防災・救命講座や、民泊受入時の知識向上に繋がる歴史・文化講座・料理講習会などを計8回開催した。 年度初めに講習会の日程を民泊受入民家へ通知し、また各講習会の前にも改めて通知をすることで、民泊受入民家への周知および参加を促した。 				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
			・民泊受入民家向け講習会受講者数(延)150人	目標	(0人)	(150人)
	実績		185人	203人	141人	
・民泊受入世帯数 65世帯	目標	()	()	()	(65世帯)	()
	実績				70世帯	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 受講者数に関して、開催日時や開催内容が受講者のニーズに即していない部分があったため、目標数に達しなかった。しかし、体験メニュー勉強会や食物アレルギー勉強会など、民泊受入時に有益であると民泊受入世帯から要望が高い勉強会を開催しているため、講習会の一定水準を達していると考え。 民泊受入世帯数に関しては、地域などでの説明会の開催や、日頃の活動に関心を持った方からの問合せにより、新規民泊受入世帯を10件獲得し、合計70件となった。 					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会の開催にあたり、目標数を達成できるよう民泊受入世帯との調整が必要。 ・民泊受入世帯数に関して、登録はしているものの活動していない世帯も含まれていることから、登録数と実際に活動している世帯数が合わない。 ・修学旅行生の受入は、簡易宿所営業許可の取得が必須となっていることから、民泊登録世帯70世帯のうち26世帯しか受入ができない状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会の開催時期・時間帯の見直しを行い、また、引き続き民泊受入世帯の要望を聞くことにより、多くの民泊受入世帯に参加してもらうよう努める。 ・民泊受入世帯の受入実績を整理することにより、受入数の平準化を図るとともに新規民泊受入世帯の獲得に向けた取り組みを行う。 ・簡易宿所営業許可申請については、営業許可を取得していない民泊受入世帯を対象に条件等を説明することにより、簡易宿所営業許可の取得を促す。

今後の取り組み方針

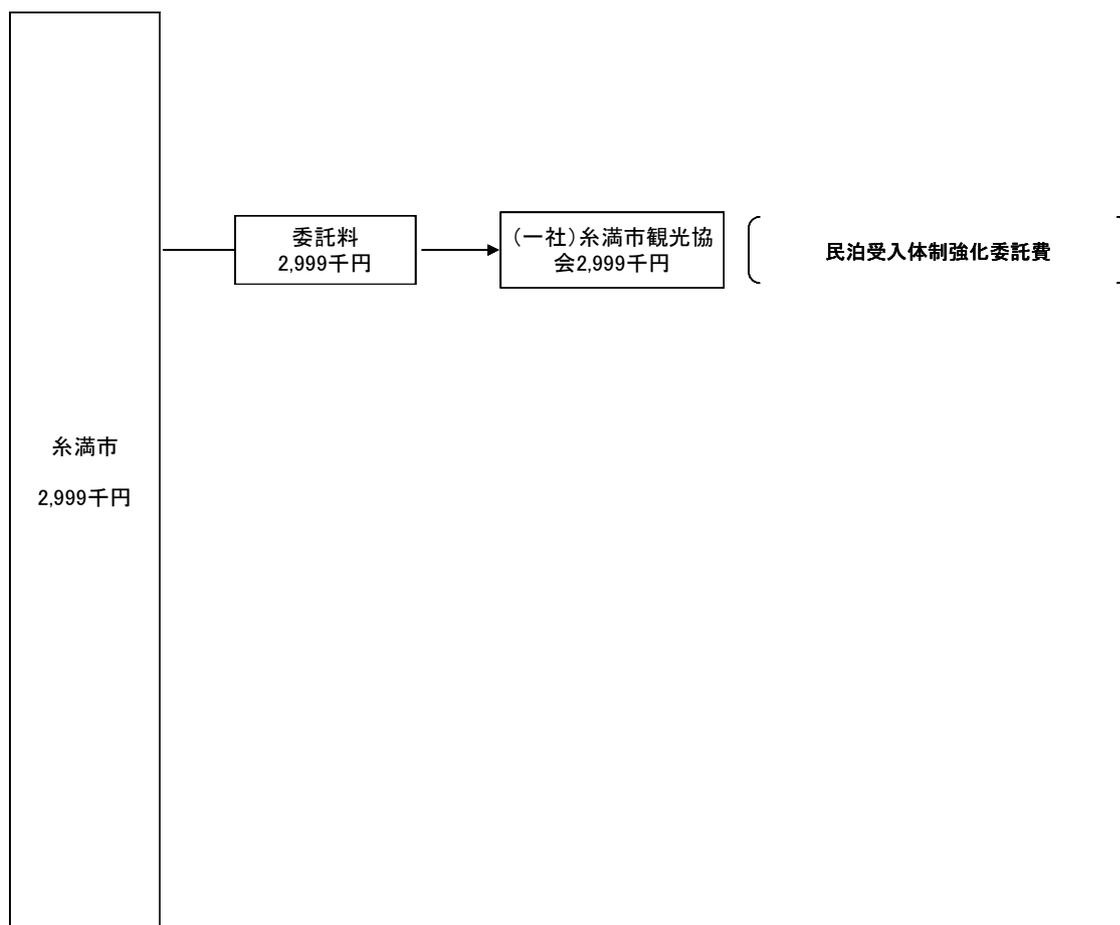
・講習会に関して、民泊を希望する修学旅行生に知りたいことや伝えたいことなど個々のニーズに応えられるよう、講習会を行っていく。その際、講習会の内容を適宜見直しするとともに、多くの民泊世帯が参加できるように糸満市観光協会と開催日程等の調整を行う。

・民泊受入世帯数に関して、説明会などの周知活動を強化することにより、受入体制が確立している世帯の確認に努める。

・簡易宿所営業許可申請の方法を簡潔に説明することにより、営業許可申請の支援を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,999	2,999	2,399	600	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、南部広域や観光関連事業所と連携して事業目的を達成できる団体であることを理由に、随意契約を行った。当団体への委託は妥当であったと考えている。 ○不用額はなく、適正な予算規模であった。 ○支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑧	道の駅いとまんアーケード上屋建築事業					
担当部署名	経済観光部 商工観光課	事業実施（予定）年度 平成25～26年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 商店街・中心市街地の活性化と商業の振興 沖縄振興基本方針該当箇所 Ⅲ-1-(1)					
事業内容	観光客のさらなる誘客を目指し、市内で最も多くの観光客が来場する「道の駅いとまん」と周辺施設との連携強化を図り、雨天時や強い直射日光を避けて周辺施設の移動が可能となるよう、アーケード上屋の設置のため同施設管理組合を支援する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,000	94,500			
		(b)予算現額	4,000	94,500			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)前年度繰越額	—	—			
		A.計(b+d)	4,000	94,500			
		B.執行済額	0	94,500			
		うち交付金充当額	0	75,600			
		次年度繰越額	0	0			
		執行率(%) (B/A)	0.0%	100.0%			
予算の状況の説明	・平成25年度に「道の駅いとまんアーケード上屋建築設計」の補助金として、4,000,000円を交付、平成26年度に「道の駅いとまんアーケード上屋建築工事」の補助金として、94,500,000円を交付し、建設工事が完了した。						
活動目標（指標） 及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	アーケード上屋建築工事業補助金交付	目標	(補助金の交付)	(補助金の交付)	()	()	
		実績	補助金の交付	補助金の交付			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・「道の駅いとまん施設管理組合」に平成27年2月に49,680,000円、3月に44,820,000円の合計94,500,000円を「道の駅いとまんアーケード上屋建築工事」の補助金として交付した。						
成果目標（指標） 及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
	アーケード上屋建築工事業の完了	目標	()	(設計完了)	(建築工事完了)	()	()
		実績		設計完了	工事完了		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	「JAファーマーズマーケットいとまん・うまんちゅ市場」、「糸満漁協お魚センター」、「糸満市物産センター遊・食・来」と「障害者就労支援施設イノー」に天候に左右されず、お客様に各施設を回遊してもらうことを目的に建設された「道の駅いとまんアーケード上屋建築工事」が平成27年2月28日に完成し、その後、3月11日に糸満消防署による消防設備検査、12日に沖縄建築確認検査センターによる完成検査、13日に糸満市による完成検査を受け、合格し完了した。					

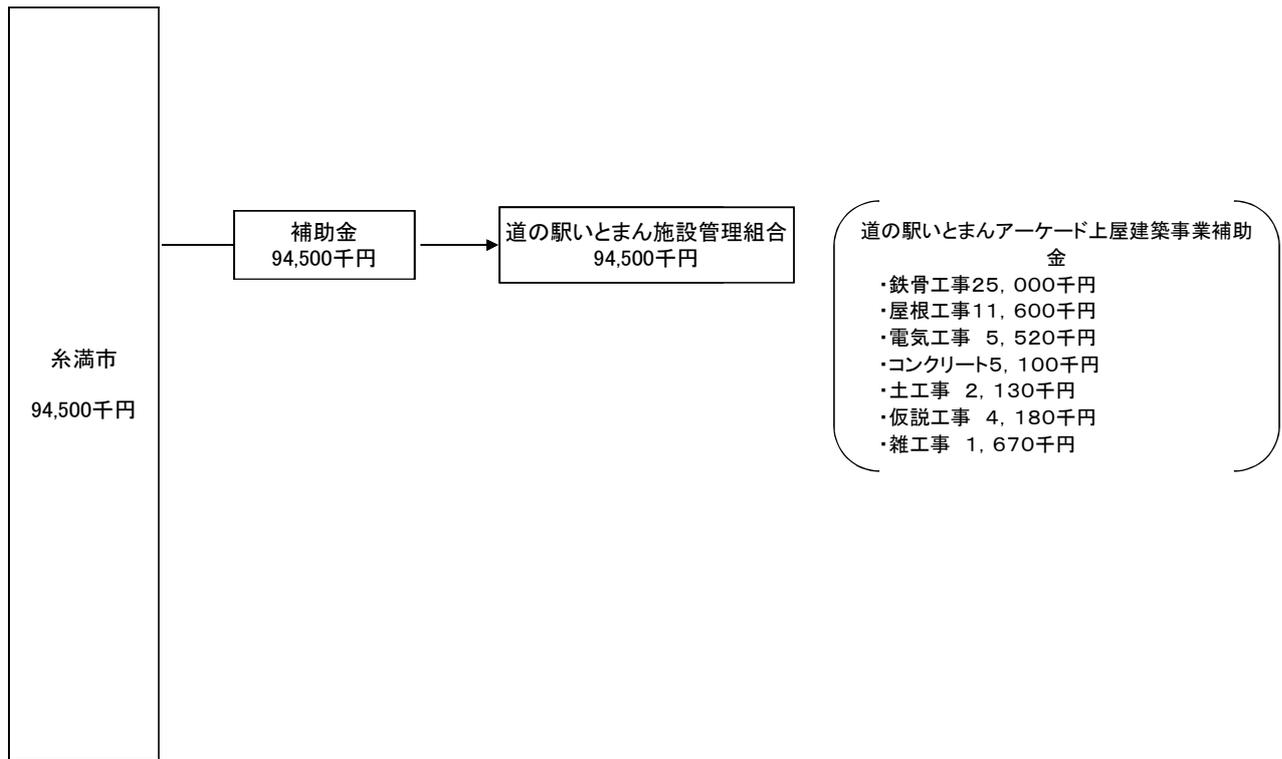
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・アーケード上屋建築工事中は、各施設利用者の安全確保を考慮し、最小限の工事影響区域を設定、工事を進めたが「JAファーマーズマーケットいとまん」のみ、年末のイベント開催が出来ず、来場者に迷惑を掛けた。</p>	<p>・アーケード上屋が完成したことにより、悪天候時でも各施設の移動には傘を差す煩わしさが無くなった一方、屋根に掲げられた施設名称(看板)が見づらくなった施設も有るので、施設名称(看板)の設置を検討する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

・道の駅いとまん施設管理組合において、中央アーケードを活用し、毎月集客イベントや地元エイサー団体によるエイサー演舞会を開催し、県内外の来場者、観光客誘致に活用する。
隣接する「情報館」は、災害時の一時避難場所でも有ることから、情報発信と災害時避難場所として周知に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
94,500	94,500	75,600	18,900	0



資金の用途の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○ファーマーズマーケットいとまん、糸満物産センター遊食来、お魚センターの3施設をアーケードで繋ぐことで、観光客に優しい施設を提供することができ、相乗効果が期待できる。そのためには、3施設組合で構成する、道の駅いとまん施設組合に補助金を交付し、整備・管理させることは妥当である。</p> <p>○3施設を覆う高さ6mの施設で悪天候に対応出来る施設であり、不用額もないことから適正な予算規模であったと考える。</p> <p>○屋根と柱の構造のため不特定多数の来場者が使用するため、3施設使用者以外も使用できることから負担関係は妥当と考える。</p> <p>○費目・用途等は、事業の活動・成果目標の達成状況及び完成検査等を考慮し、適正と考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑨	文化交流・情報発信拠点施設整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部署名	企画開発部 政策推進課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
事業内容	観光客のさらなる誘客と訪れる観光客の市内回遊を高めるため、地域の歴史的魅力や文化芸術活動等を内外に発信する文化交流・情報発信拠点施設を設置する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	17,287	23,384			
		(b)予算現額	15,137	24,131			
		(c)増減額(b-a)	▲ 2,150	747			
		(d)前年度繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	15,137	24,131			
	B. 執行済額		14,959	23,898			
	うち交付金充当額		11,915	19,118			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		98.8%	99.0%			
予算の状況の説明		増減差額については、当初予算計上のなかった建設予定地取得(県有地)にかかる不動産鑑定評価手数料を補正増額したため。その他、計画した事業内容については全て実施したため適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	○管理運営基本計画の策定 ・管理運営基本方針 ・事業計画 など	目標	(計画策定)	()	()	()	
		実績	計画策定完了				
	○展示基本計画の策定 ・展示資料の把握 ・配置計画 など	目標	(計画策定)	()	()	()	
		実績	計画策定完了				
達成状況説明	文化交流・情報発信拠点施設整備事業に向けて、整備基本計画で示された施設規模や機能をもとに、建設候補地での施設配置、施設構成及び建物配置等の考え方を整理した。また、有識者等で構成する各種委員会を設置して、整備基本計画における施設の目的や使命を実現するための事業・運営体制や波及効果等と施設全体の展示に関するコンセプトや機能等について意見を取りまとめ、「糸満市文化・平和・観光振興センター管理運営基本計画書」、「糸満市文化・平和・観光振興センター展示基本計画書」を策定した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	○管理運営基本計画のとりまとめ	目標	()	(計画のとりまとめ)	()	()	()
		実績		計画のとりまとめ			
	○展示基本計画のとりまとめ	目標	()	(計画のとりまとめ)	()	()	()
		実績		計画のとりまとめ			
	進捗状況説明	文化交流・情報発信拠点施設整備事業を進めるにあたり、各種委員会において施設整備の使命、施設構成・規模・配置、管理運営、展示・活用等について議論・検討を重ね、最終的に「糸満市文化・平和・観光振興センター管理運営基本計画書」、「糸満市文化・平和・観光振興センター展示基本計画書」をとりまとめた。おおむね目標の成果が得られた。					

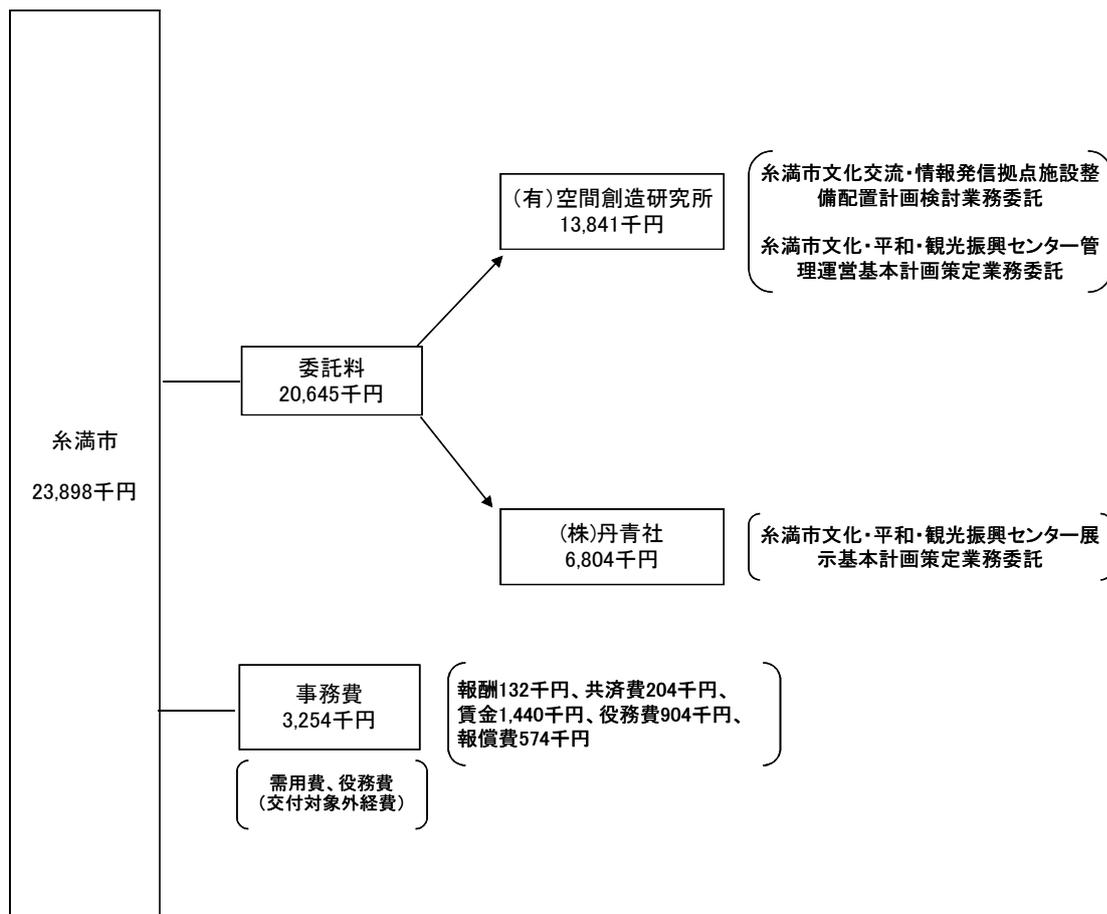
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 建設候補地の用地取得費の基準とするために不動産鑑定評価を実施した。国有地については無願埋立地であることから、可能な限り取得価格の低減を図るよう調整を行う。 展示基本計画書において、地域発信エリアの展示コンセプトや展示展開と手法等を検討した。市が保有する歴史資料の現状把握を行い、基本設計、実施設計に組み込んでいく。 展示基本計画書において、施設エリア内での市民や観光客との交流、周辺施設や関係機関との事業連携を検討した。基本設計、実施設計において、実現性を考慮して精査していく。 管理運営基本計画において、事業費規模及び管理運営経費が検討されたことにより、今後具体的な規模・経費等を確定させる必要がある。 	<p>現状における課題解決に向けて、より詳細な手法を検討するにあたり、以下の項目について、次年度以降検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 用地取得に向けた調整 建設工事及び開館プレ事業に向けて準備室を設置する。 関係機関を含めた各エリアの利用計画、事業計画の検討 専門的知見を有する外部識者等で構成する委員会を設置し、建設基本設計及び展示基本設計それぞれに反映させる。 施設整備費及びランニングコスト等が大規模なものになるため、市民等の意見を反映した意思決定過程を検討する。

今後の取り組み方針

本年度策定した「糸満市文化・平和・観光振興センター展示基本計画書」、「糸満市文化・平和・観光振興センター管理運営基本計画書」に基づき、上記の検証内容に留意しながら、展示(ガイダンス施設や企画展示等)に関する基本設計及び施設全体に関する建築基本設計を策定して、用地取得、実施設計につなげていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
23,898	23,898	19,118	4,780	0



資金の流し、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託費の支出先の選定については、関連業務の実績があり、専門性の高い業者との随意契約や公募型プロポーザル方式により選定されていることから妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり、適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模・費目・使徒等は、事業の活動・成果目標の達成状況及び確定検査等を考慮すると適正だと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-⑩	糸満漁港整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア
			観光リゾート産業の振興	
担当部署名	経済観光部 海人課	事業実施(予定)年度 平成25～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容
海水交流の促進による水質の改善及び施設の利便性向上のため、糸満漁港ふれあい地区内ビーチを浚渫するとともに、養浜・通路・波除堤を整備する。また、観光漁業の推進を図るための調査及び施設整備を行う。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	36,374	114,648			
	(b) 予算現額	18,596	132,642			
	(c) 増減額(b-a)	▲ 17,778	17,994			
	(d) 前年度繰越額	—	—			
	A. 計(b+d)	18,596	132,642			
	B. 執行済額	18,595	131,789			
	うち交付金充当額	0	105,431			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.4%			
予算の状況の説明	当初予算に不足が生じた為、12月補正で17,994千円増額し浚渫工事を完成させた。					

活動目標(指標)及び達成状況		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度
		糸満漁港ふれあい地区内のビーチ浚渫に伴う工事の実施	目標 (浚渫工事の実施)	()	()	()
	実績	浚渫工事の実施				
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	ビーチ運営に支障が出ないようにシーズンオフに浚渫工事を行った。結果、潮の流れも良くなり水質水質改善も図られ海開きには、無事遊泳者を迎えることが出来た。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	糸満漁港ふれあい地区内のビーチ浚渫に伴う工事の完了	目標	()	(浚渫工事の完了)	()	()	()
		実績		浚渫工事の完了			
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	26年度は磁気探査、浚渫工事を行った。27年度は、波除堤、通路(浮棧橋)、浚渫残土運搬、28年度は養浜工事を行う。						

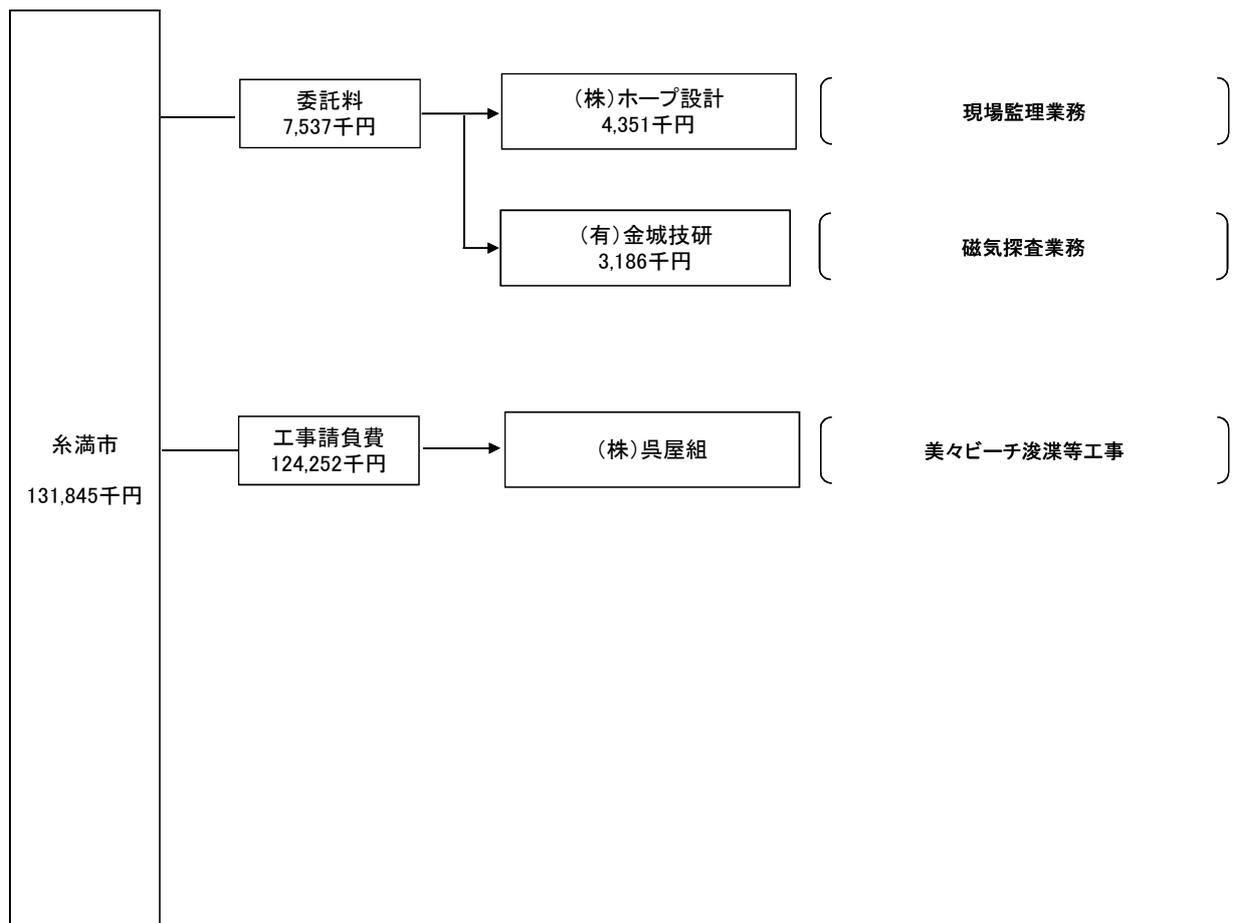
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>4月～10月はオンシーズン中の為、市民、観光客、ホテルに迷惑を掛けるので工事が出来ない。その為に工期内の工事に多少の影響はあるが、11月～3月のオフシーズンに工事を行った。又、周辺施設(ホテル)は通年観光客がおり騒音、粉塵等で迷惑をかける恐れがある為、散水等での粉塵対策や徐行による騒音対策に心掛けた。迷惑をかけることなく工事ができ海開きを迎える事ができた。</p> <p>浚渫土砂については、那覇空港滑走路増設工事へ処分先を予定しているが、那覇空港滑走路増設工事の進捗状況によっては受け入れ時期が変更になる恐れがある。</p>	<p>平成28年度までの事業であり、シーズンオフでの施工を行い、その都度工程表の見直し検討を行い、市民、観光客、周辺施設(ホテル)迷惑をかけることなく、散水による粉塵対策、騒音等、環境に留意し事業を進める。</p> <p>浚渫土砂処分について受け入れ機関と調整を密にし進めるていくが、別の方法での処分も合わせて検討する。</p>

今後の取り組み方針

今後も市民並びに観光客、周辺施設(ホテル)等、へより一層、粉塵、騒音等の環境対策に留意し、波除堤、通路(浮桟橋)工事を進める。又、浚渫土砂の処分について那覇空港滑走路増設工事関係機関と受け入れ時期の調整を密にし自由処分も視野に入れて取り組んで行く。最終的には平成28年度完成に向け事業に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
131,789	131,789	105,431	26,358	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事、委託事業者は指名競争入札で選定しており妥当であつてと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であつた。 ○費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的を即し、必要なものであつたと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	糸満市水産振興センター設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部署名	経済観光部 海人課	事業実施(予定)年度	平成24～32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	「漁業のまち」、「海人のまち」として市内外に知られ、市の発展に大きく貢献してきた水産業の振興に向けて、新たな水産技術の習得と応用による養殖・水産加工業等の新たな水産業の確立のための施設を整備する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a)当初予算額	168,541	14,748	215,670		
		(b)予算現額	168,541	14,748	28,621		
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲187,049		
		(d)前年度繰越額	—	—	—		
	A. 計(b+d)		168,541	14,748	28,621		
	B. 執行済額		116,022	13,144	28,028		
	うち交付金充当額		92,818	10,515	22,422		
	次年度繰越額		—	0	0		
	執行率(%) (B/A)		68.8%	89.1%	97.9%		
予算の状況の説明		・餌料施設入居候補者募集を平成26年8月11日から8月29日まで期間、市HP、広報で行ったが応募者がなく、26年度に予定していた餌料施設建築工事等を延期し、入居事業者の選定後に施設整備を行うこととなったため、9月、12月補正で委託料8,415千円、工事請負費178,642千円を減額した。 ・年度途中の社会保険料改定により、臨時職員の共済費に不足が生じたため、役務費(交付金対象外)から8千円流用した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	・敷地造成工事の実施	目標	(造成工事の実施)	()	()	()	
		実績	造成工事の実施				
	・外構工事の実施	目標	(外構工事の実施)	()	()	()	
		実績	外構工事の実施				
	達成状況説明	平成26年10月17日から平成27年3月13日の期間、敷地造成工事、外構工事について予定通り、平成27年3月13日に工事が完成する事が出来た。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	・敷地造成工事の完了	目標	(—)	(敷地造成工事の完了)	()	()	()
		実績		敷地造成工事の完了			
	・外構工事の完了	目標	()	(外構工事の完了)	()	()	()
		実績		外構工事の完了			
	進捗状況説明	今年度の計画は敷地造成工事、外構工事、餌料養殖施設の工事を計画していたが、平成26年8月11日から8月29日までの期間、ホームページ、市広報で行った結果、応募者がなく、餌料養殖施設工事を見送ったが、敷地造成工事、外構工事については、予定通り工事が完成する事が出来た。今年度は再度募集を行い、第1期工事、餌料養殖施設の整備、第2期工事、魚類養殖施設、海藻養殖施設、サンゴ養殖施設、加工施設、第3期工事カフェレストラン、体験施設の整備を順次行う。					

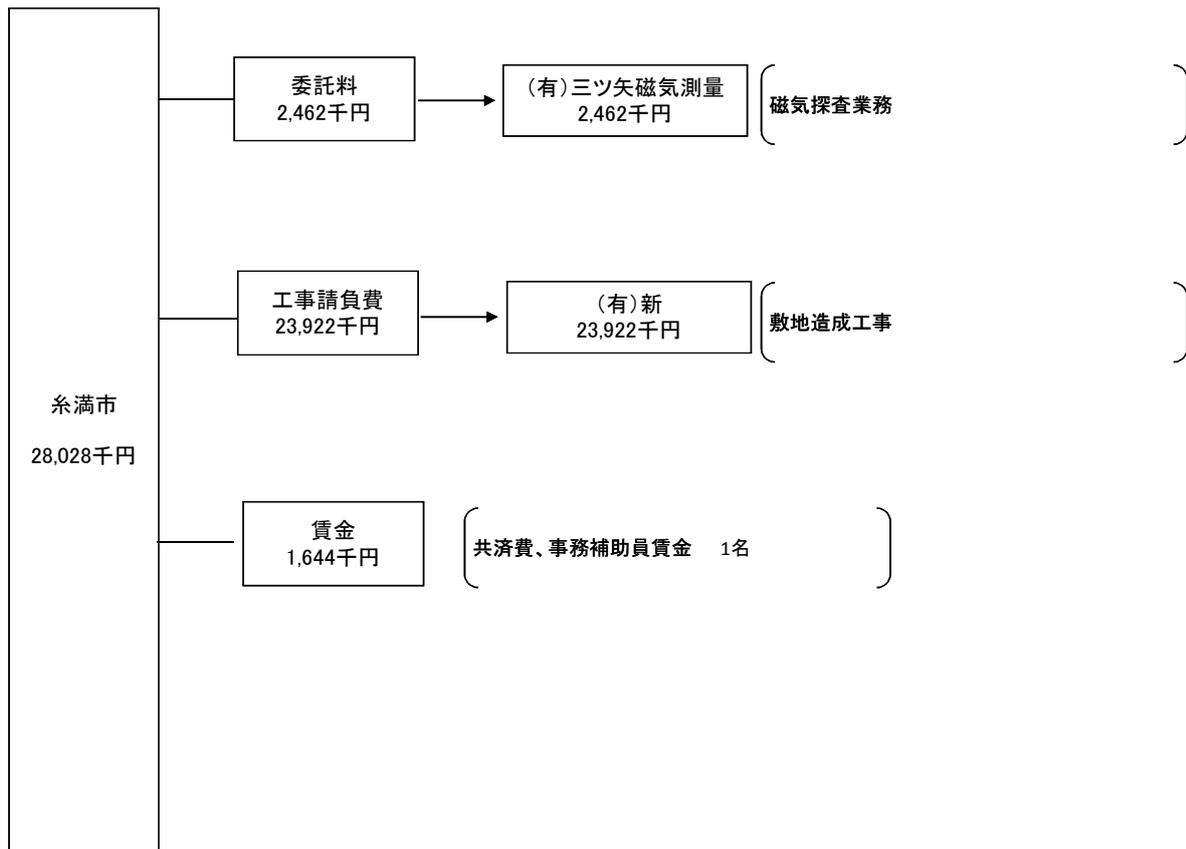
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	餌料養殖施設整備の為、餌料養殖施設への入居候補者を市広報、ホームページに掲載し募ったが、応募者がなく、入居事業者の選定には至らなかった。今後は、再度募集を行い候補者の決定後に餌料養殖施設の整備に取り組む。	入居者の募集にあたっては、県内に周知出来る方法として新聞広告方法も含め再検討が必要であるが、今後は募集条件等の見直しも踏まえて、事業を進める必要がある。

今後の取り組み方針

平成26年度は餌料養殖施設入居候補者の募集をホームページ、市広報で、約1ヵ月間行ったが応募事業者がなく、選定には至らなかった。平成27年度は募集期間を長くし、ホームページ、市広報の他に、地元新聞社2社に広告掲載し、募集を行う。その後入居候補者が決定した後に、入居候補者の意見を取入れながら、第1期整備の餌料養殖施設整備に取り組み、その後、第2期整備「魚類養殖施設、海藻養殖施設、サンゴ養殖施設、加工施設」、第3期整備(カフェレストラン、体験学習施設)の整備に向けて慎重に取り組んでいきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
28,028	28,028	22,422	5,606	0



資金の 用途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事、委託事業者は指名競争入札で選定しており妥当であつてと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であつた。 ○費用、用途については精算段階で検査を実施しており、目的を即し、必要なものであつたと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 糸満市

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (6-2, 糸満和牛群改良整備事業), 沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所, 第3章-3-(7)-ウ, 担当部署名 (経済観光部 農政課), 事業実施(予定)年度 (平成24~29年度), 沖繩振興基本方針該当箇所, III-1-(6)

事業内容 農家の経営の安定化に向けて、仔牛のブランド化を進めるため、優良母牛導入に向けて支援を行う。

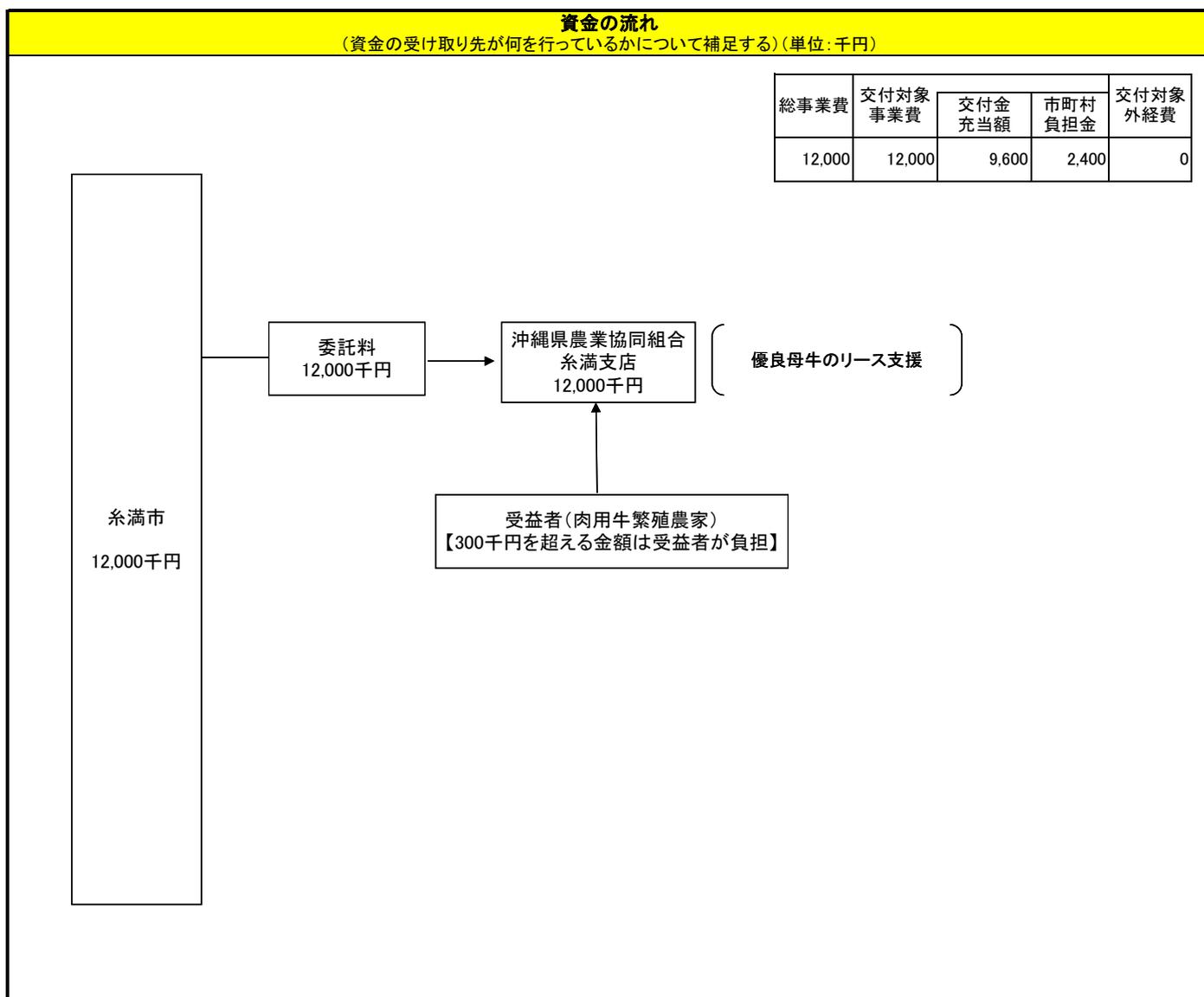
実施方法 □直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()

Table with 7 columns: 24年度, 25年度, 26年度, 27年度, 28年度. Rows include: 予算額・執行額 (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額, (d)前年度繰越額, A.計, B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率 (B/A), 予算の状況の説明

Table with 5 columns: H26活動目標(指標), 24年度, 25年度, 26年度, 27年度. Rows include: 優良母牛のリース:40頭 (目標, 実績), 達成状況説明

Table with 7 columns: H26成果目標(指標), 基準値(年度), 24年度, 25年度, 26年度, 目標値(29年度). Rows include: 優良母牛導入率:41%→55% (目標, 実績), 進捗状況説明

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	繁殖基盤を強化する目的で40頭の優良な母牛(素牛)の導入が出来たが、近年は国内の飼養頭数の減少により出荷頭数が減少し、セリ値が年々上昇傾向にある。	母牛(素牛)の導入にあつては最終目標頭数の達成に向けて、早期実施(事業計画の前倒し等)の検討が必要である。
今後の取り組み方針		
受益者負担もあることから農家の経営状況と関係があるため、農家との連携も図りながら28年度以降事業計画の前倒しによる事業実施を検討する。		



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先のJAIは、和牛改良組合の事務局として農家の実情を把握しており、適切指導が可能であることから、委託先として妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく、適正な予算規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○導入牛のうち、最低価格の487,000円でも受益者負担が約4割であり妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については、契約検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	糸満市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-③	小規模農家支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ
担当部署名	経済観光部 農政課	事業実施(予定)年度	平成24~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				農林水産物の安全・安心の確立
				Ⅲ-1-(6)

事業内容
小規模農家の作業の効率化と農家経営の安定化に向けて、減農薬、減肥料及び鳥獣対策を推進するため、簡易パイプハウスの施設整備支援を行う。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	70,500	33,150	38,750		
	(b)予算現額	141,000	165,000	210,350		
	(c)増減額(b-a)	70,500	131,850	171,600		
	(d)前年度繰越額	—	—	—		
	A.計(b+d)	141,000	165,000	210,350		
	B.執行済額	140,663	134,811	176,421		
	うち交付金充当額	112,530	107,849	141,136		
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	99.8%	81.7%	83.9%		
予算の状況の説明	市場から要望の多いキュウリ、ナスを対象品目に追加し、それを支援する為、委託費171,600千円(農業飛散防止ネットで13,069㎡分、パイプハウスで33,777㎡分)の増額を行った。しかし、希望農家の事業量縮小や受益者負担分の資金調達等の困難等により辞退者が相次いだため、執行残が生じた。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
		防風ネット設置及び簡易パイプハウス設置	目標 (防風ネット設置及び簡易パイプハウス設置)	目標 (防風ネット設置及び簡易パイプハウス設置)	目標 (防風ネット設置及び簡易パイプハウス設置)
	実績	実績	実績		
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	農業飛散防止ネット及びパイプハウスの整備は行えたが、増額分のすべての整備はできなかった。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)		
			・農業飛散防止ネット整備数 32箇所 ・整備率100%	目標 ()	(36箇所)	(10箇所)	(32箇所)	()
				実績	36箇所	29箇所	47箇所 整備率:146.8%	
			・パイプハウス整備数 46基 整備率100%	目標 ()	(35基)	(33基)	(46基)	()
	実績	35基	29基	45基 整備率:97.8%				

進捗状況説明
目標値に対し、農業飛散防止ネットは15箇所増、パイプハウスについては1基減となった。整備数は概ね目標に近い形で執行は行えたが、事業規模縮小や辞退者により執行残が生じた。

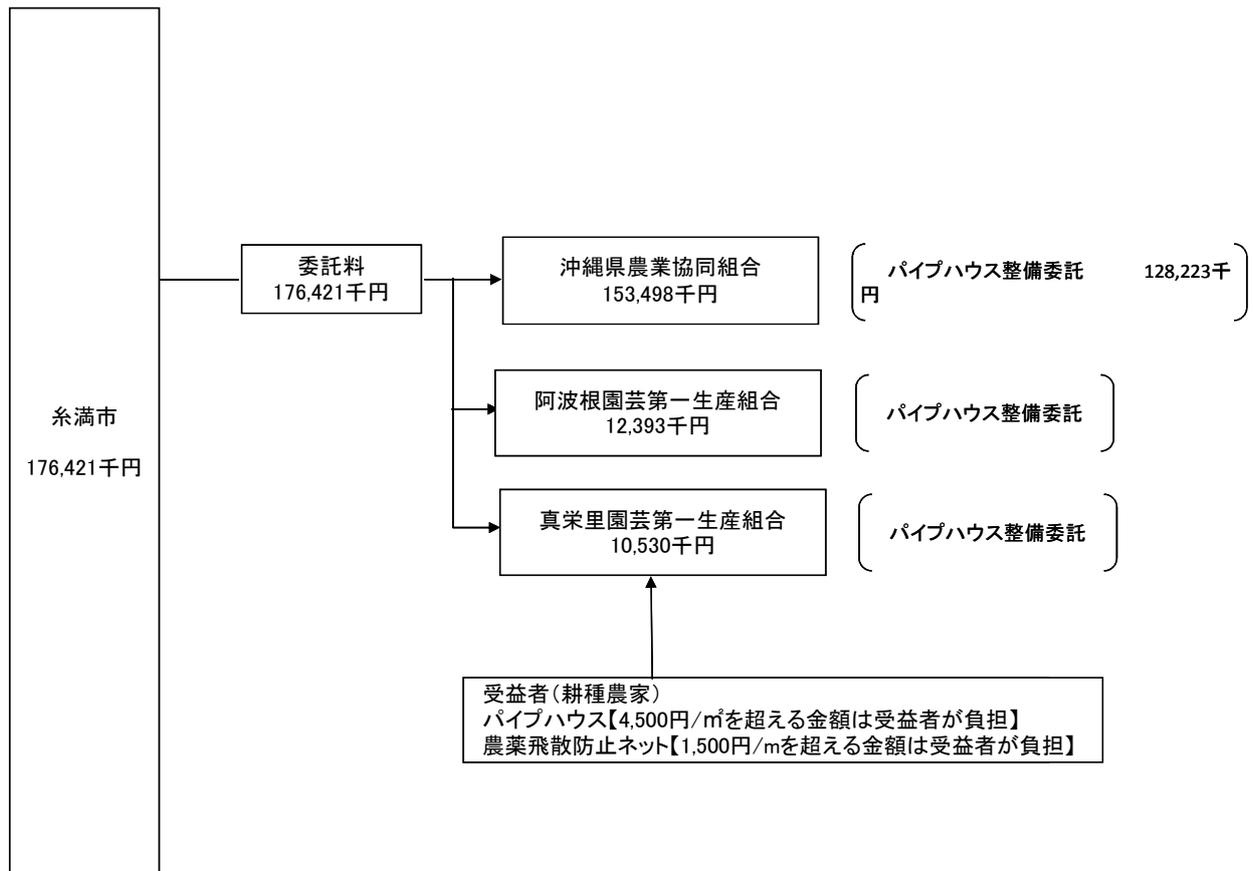
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>小規模農家の作業の効率化と農業経営の安定化に資する目的で支援(農業飛散防止ネットで13,069m、パイプハウスで33,777m)を行ったが、希望農家の事業量縮小や受益者負担分の資金の準備が困難等による辞退者が出たため、執行残が生じた。</p>	<p>導入希望農家の選定の段階で正確な事業量、受益者負担分の資金の準備状況を的確に把握する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

事業導入予定者の辞退が生じないよう事業工程や事業導入者の受益者負担分の資金の準備状況等の確認作業を見直し、委託先との連携強化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
176,421	176,421	141,136	35,285	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○農業協同組合員以外の農家への事業導入も行われたので、ニーズに応じた事業遂行ができた。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	△前倒し執行の為、増額補正したが、事業量縮小や辞退者が生じたことにより執行残が生じた。適正な事業量把握に努める。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担がパイプハウスで約23%、農業飛散防止ネットで22%であり妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	糸満市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-④	島ヤサイ生産拡大及び消費拡大事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ 第5章-3-(3)-イ
担当部課名	経済観光部 農政課	事業実施(予定)年度	平成26～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				農林水産物の安全・安心の確立 圏域の特色を生かした産業の振興
				Ⅲ-1-(6)

事業内容
 沖縄の観光資源にもなっている独特の食文化を継承し、流通及び消費拡大に繋げるとともに農家所得の向上を図るため、島ヤサイ栽培の実証用の防虫対策ハウスの設置と消費拡大に取り組む。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	11,050				
	(b)予算現額	11,050				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)前年度繰越額	-				
	A.計(b+d)	11,050				
	B.執行済額	11,050				
	うち交付金充当額	8,840				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%				
	予算の状況の説明	・生産量の向上を図るための葉野菜用アーチパイプ整備、調理方法紹介等の普及啓発活動及び食材提供による利用促進活動の費用を計上し、予算計上どおり執行した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
防虫ハウスの設置	目標	(防虫ハウスの設置)	()	()	()
	実績	防虫ハウスの設置			
料理教室の開催	目標	(料理教室の開催)	()	()	()
	実績	料理教室の開催			
学校給食への食材提供	目標	(学校給食への食材提供)	()	()	()
	実績	学校給食への食材提供			
レシピ開発	目標	(レシピ開発)	()	()	()
	実績	レシピ開発			
アンケート調査	目標	(アンケート調査)	()	()	()
	実績	アンケート調査			
達成状況説明	野菜生産農家にアーチパイプ整備による生産基盤整備を行った。 学校給食や保育所等へ食材提供を行い地産地消や食育を含め給食で使用できるよう検討してもらった。 直売所等におけるイベント時に料理教室や料理実演を実施し、開発したレシピで料理や試食を行い、家庭での利用を提案し普及啓発を行い消費を促した。また、その際にアンケート調査を行い実態の把握等を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
			26年度	27年度	28年度	26年度
防虫ハウスの設置:20基 0.7ha	目標	()	(20基、0.7ha)	()	()	()
	実績		8基、0.23ha			
料理教室の開催:5回→参加人数 述べ100人	目標	()	(5回 100人)	()	()	()
	実績		2回 20人			
学校給食への食材提供:2回	目標	()	(2回)	()	()	()
	実績		40回			
レシピ開発:5品目	目標	()	(5品目)	()	()	()
	実績		13品目			
アンケート調査:5回	目標	()	(5回)	()	()	()
	実績		9回			
進捗状況説明	アーチパイプの整備について、島ヤサイがマイナーな野菜のため、販路等の不安等もあり目標値を下回った。 料理教室は直売所のみで開催となり、子育て支援施設等とも調整を行ったが日程等の都合により実施できず目標値を下回った。 食材提供は、学校給食の他、保育所等へも範囲を広げ地産地消や食育も絡めながら実施したことにより目標値を上回った。 レシピ及びアンケートは、直売所等でのイベントで実施し、地元の野菜ソムリエ等の協力も得て、目標値を上回った。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>防虫対策による生産安定、農家の所得向上のため、葉野菜用アーチパイプ整備を行ったが、対象品目を市主要推進品目の3品目としたこと、島ヤサイがマイナーな野菜のため、販路の不安等から整備が目標を下回った。</p> <p>料理教室の開催について、直売所以外の所で実施に向けて関係機関との調整を行ったが実施に至らなかった。</p>	<p>葉野菜用アーチパイプ整備は、対象品目の再検討や生産農家の不安を払しょくできるよう販路確保の対策が必要。</p> <p>料理教室の開催については、自治会や子育て支援施設等で実施できるよう事業工程を見直す必要がある。</p>

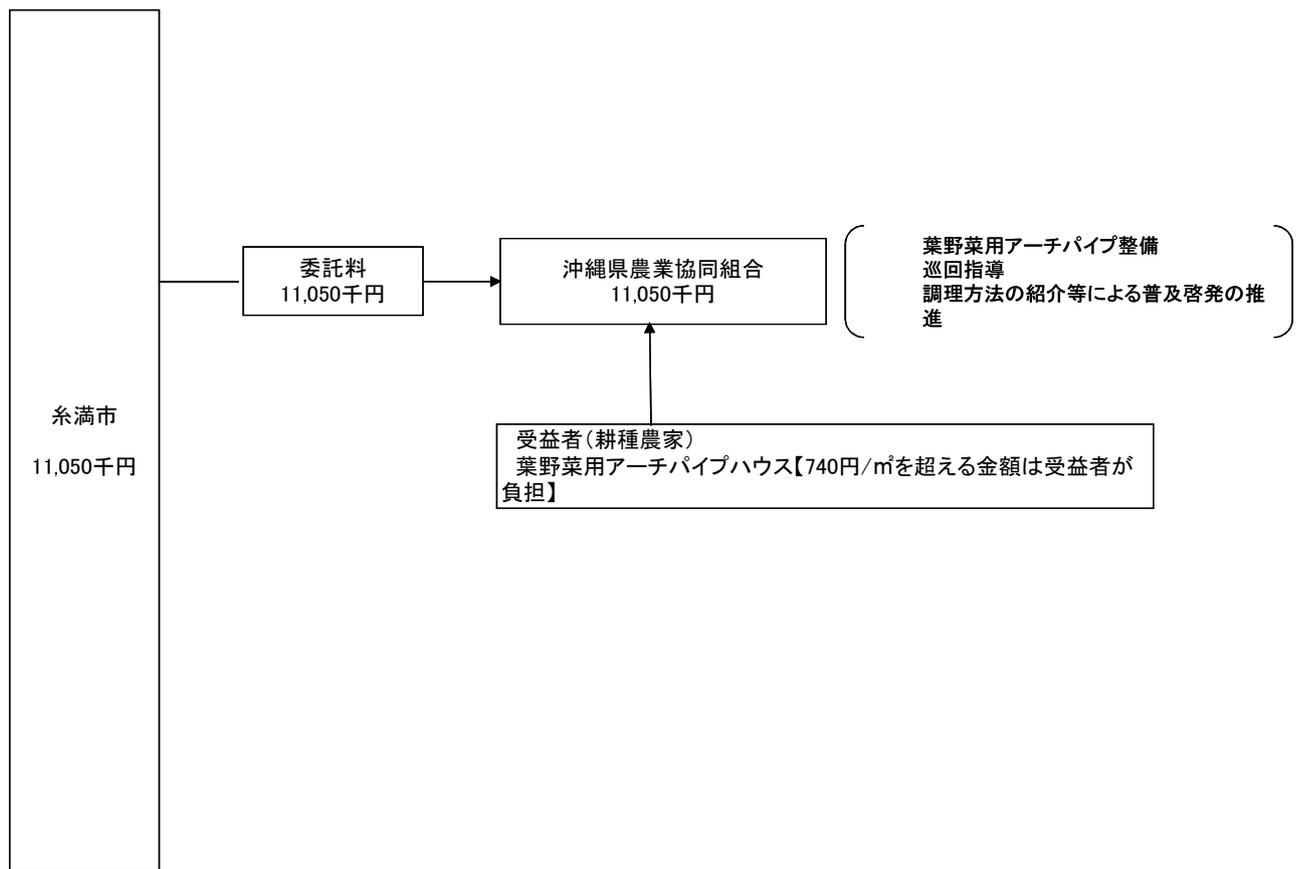
今後の取り組み方針

葉野菜用アーチパイプ整備について、需要や生産量を踏まえ、主要推進品目以外の品目も追加も行う。また、市商工観光課や商工会と連携を図り、飲食業におけるレシピ提案による島ヤサイメニューの追加等、あらゆる方向から販路確保に繋げ、農家の生産意欲を高める。

各自治会や子育て支援施設等を対象に、また食生活改善推進協議会等とも連携を取りながら料理講習会の実施により家庭等で島ヤサイを食する環境を推進したい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,050	11,050	8,840	2,210	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先のJAおきなわは、「4月8日島ヤサイの日」を制定し、島ヤサイの活動に取り組んでいることや農産物の生産、流通、販売等精通しており最善の委託先と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく、適正な予算規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○アーチパイプハウスは受益者負担割合が25%であり妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については契約検査を実施しており、目的に即し、必要なものであった。

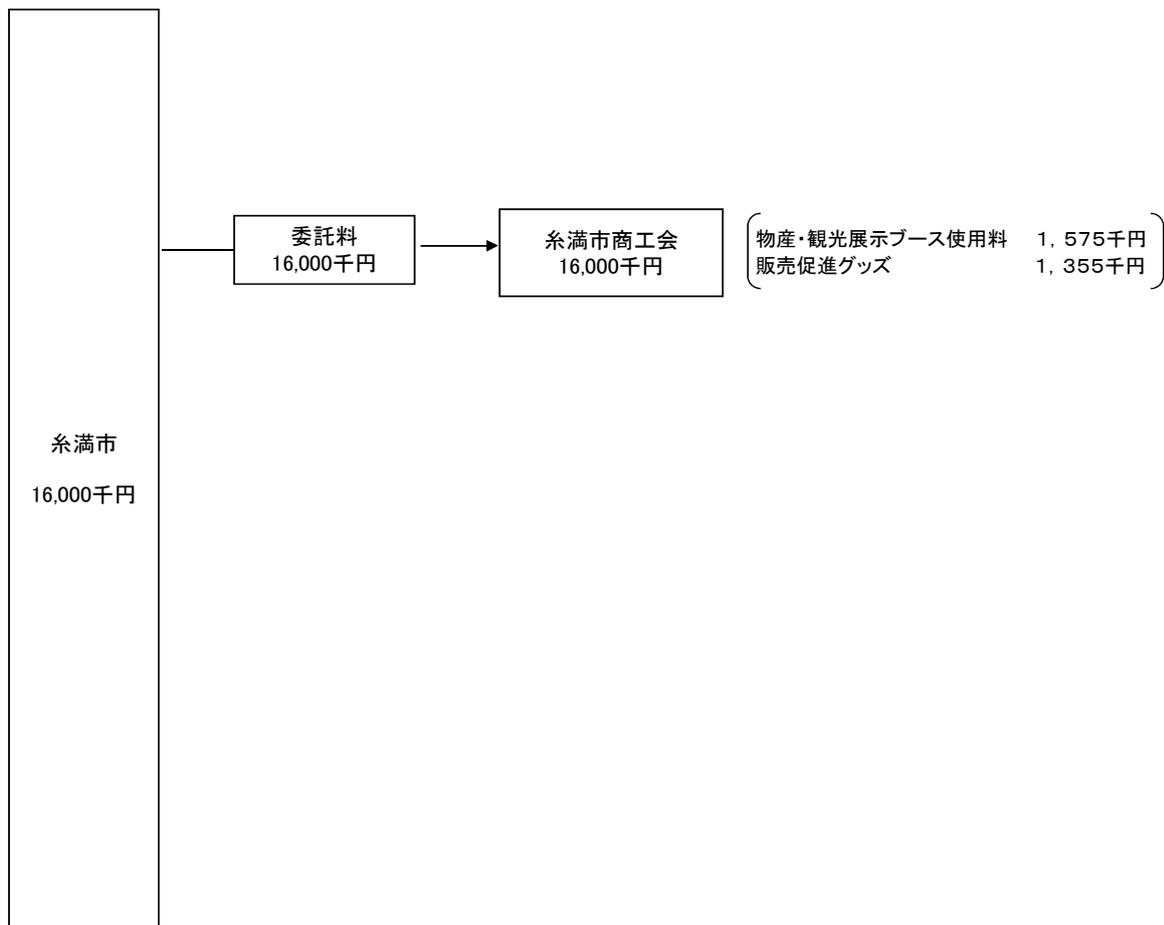
市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-⑤	地場産品販路拡大事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ		
担当部署名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化		
事業内容	地場産品の販路が脆弱なため、姉妹都市・友好都市及び県内外において販路拡大を目的とした物産展を開催する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	16,000	16,000	16,000		
		(b)予算現額	16,000	16,000	16,000		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0		
		(d)前年度繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	16,000	16,000	16,000		
	B.執行済額		13,000	16,000	16,000		
	うち交付金充当額		10,400	12,800	12,800		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		81.3%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		宮崎県、愛知県、神奈川県、東京都、北海道の物産展において特産品商談会及び販売促進委託費として、16,000千円を支払った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	物産展の開催:5回	目標	(5か所)	(6回)	(5回)	()	
		実績	5か所	7回	8回		
		目標	()	()	()		
		実績					
達成状況説明	<p>・随意契約にて糸満市商工会へ事業を委託して、以下の業務を行った。</p> <p>(1)糸満市の物産観光展・商談会の開催 物産観光展として計8回(物産展8回うち観光展併設6回・内外区分としては、県外6回・県内2回)開催することができた。 上記物産観光展における商談会併催は計6回開催、商談会支援としては宮崎県都農町道の駅つとの商談会、東京都内小布施町アンテナショップとの商談会支援を実施した。</p> <p>(2)販路拡大を目的とした研修会の開催:上記物産観光展前に昨年度までの成果課題を共有する事前研修会を計6回開催。</p> <p>(3)地場産推奨キャラ着ぐるみ、糸満市観光PR媒体として団扇やクリアファイルを製作し、物産観光展においてPRを実施した。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	物産交流会参加事業者数(延) 60事業者	目標	()	(18事業者)	(60事業者)	(60事業者)	()
		実績		49事業者	41事業者	66事業者	
	物産交流展来場者数(延) 30,000人	目標	()	(300,000)	(30,000)	(30,000)	()
		実績		313,000	209,000	338,673	
	商談会実施回数 6件	目標	()	()	()	(6回)	()
実績					8回		
商談成立 3件	目標	()	()	()	(3件)	()	
	実績				4件		
進捗状況説明	<p>(1)参加事業者説明会を行った結果、物産観光展参加事業者が延べ66事業者となり、成果目標を達成できた。</p> <p>(2)東京、神奈川、兵庫の大都市圏で事業を行ったことで、物産交流展来場者数(延)は、33万人余となり全体数として目標達成ができた。</p> <p>(3)物産展を8回参加することができ、商談会実施回数も計8回実施することができた。</p> <p>(4)商工会、物産センターから県外からの引き合いが多い地場産品を展示したことで、H26年度商談会において商談成立した件数として少なくとも4件の成約確認ができています。</p> <p>(5)物産交流展来場者数(延)目標数30,000人は、300,000人の記載ミス。</p>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・H24～26年度まで商工会を通じて実施することで、一定の成果とともに課題として、糸満産をよりPRできる物産観光展としての認知度(ブランド化)が図られるかが今後の課題として挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集客力や商談会の有効性を高めるためにも、物産観光展自体に「糸満ブランドイメージの普及・定着化」を目指した内容へと改善していく必要がある。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・糸満ブランドイメージの普及・定着化を目指すために、地場産品推奨キャラクター「いとちゃん」を活用し、糸満市の物産観光展を開催する。 ・小規模取引を想定した物産・観光展の開催場所等の選定及び商談会の開催 ・商工、農漁業の関係者会議を開き、各事業者の商品を糸満の地場産品としてパッケージし、事業者が販路先の開拓を行う際の情報収集、連絡調整等の支援をする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,000	16,000	12,800	3,200	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○糸満市商工会は、糸満市小規模事業者等の会員ネットワークがあり、また糸満市の商業の現状をもっとも把握している団体であり、効果的に事業を遂行でき、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、物産展参加人数、開催期間中の必要経費は、必要最小額となっており、不用額もないことから、事業内容に見合った適正な規模となっている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担に関しては物産展等の事業者負担を適宜徴しており適切である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○規模・費用・用途については、確定時において支出などに関する書類により確認し、適正であった。

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-⑥		糸満フェア開催事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ	
	経済観光部 商工観光課		事業実施(予定)年度	平成25~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化	
担当部課名						Ⅲ-1-(7)	
事業内容	本市の商工業の振興に向けて、多くの市民並びに県民へ地場産品をアピールし販路拡大を図るため、糸満フェアを開催する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		(a)当初予算額	5,000	5,000			
	(b)予算現額	5,000	5,000				
	(c)増減額(b-a)	0	0				
	(d)前年度繰越額	-	-				
	A.計(b+d)	5,000	5,000				
	B.執行済額	0	4,999				
	うち交付金充当額	0	3,999				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	0.0%	99.98%				
予算の状況の説明	・糸満市内及び沖縄県内で開催した糸満フェア委託料に、4,999千円を支払った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況					
		25年度	26年度	27年度	28年度		
	糸満フェアの開催:1回	目標	(1回)	(1回)	()	()	
		実績	1回	1回			
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・糸満ブランドイメージの発信を意図した糸満フェアを開催した。 ・糸満ブランドイメージの普及・定着を目指したイベントへリニューアルするため、糸満フェア期間を複数日間開催に切り替えた。 ・公開ラジオ放送とのタイアップにより集客拡大を図った。 ・出展事業者による地場産品の紹介をラジオ等メディアを通じて紹介することで、糸満の物産イメージの拡大を図った。 ・フェア開催中、クイズラリーを実施することで来場者の満足度向上を図るとともに、糸満のブランドイメージに対するギャップ調査を実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	参加事業者数 20事業者	目標	()	(10)	(20)	()	()
		実績		20	25		
	糸満フェア来場者数 26,000人	目標	()	(10,000)	(26,000)	()	()
		実績		25,000	22,000		
H26年売上高 1,650,000円	目標	()	()	(1,650,000)	()	()	
	実績			11,536,000			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・出展事業者・協賛事業者として計25事業者の参加協力をいただくことができた。(出展13、協賛賞品協力15、うち出展重複2事業者、計25) ・大規模イベントでの集客から複数日(フェア期間)開催に切り替え、県外芸能人を活用したイベントの開催を行わなかったため、来場者数はフェア初日及び2日目のみを抽出すると22,000人。(フェア期間合計では約120,000人) ・フェア期間中の売上高については、来場者数同様にフェア初日及び2日目で見ると、主要施設の売上高は11,536千円で、目標値を大きく超える結果となった。(なお、主要店舗の前年同日比(同週末比)でも1070千円以上の売上増加となった。) 						

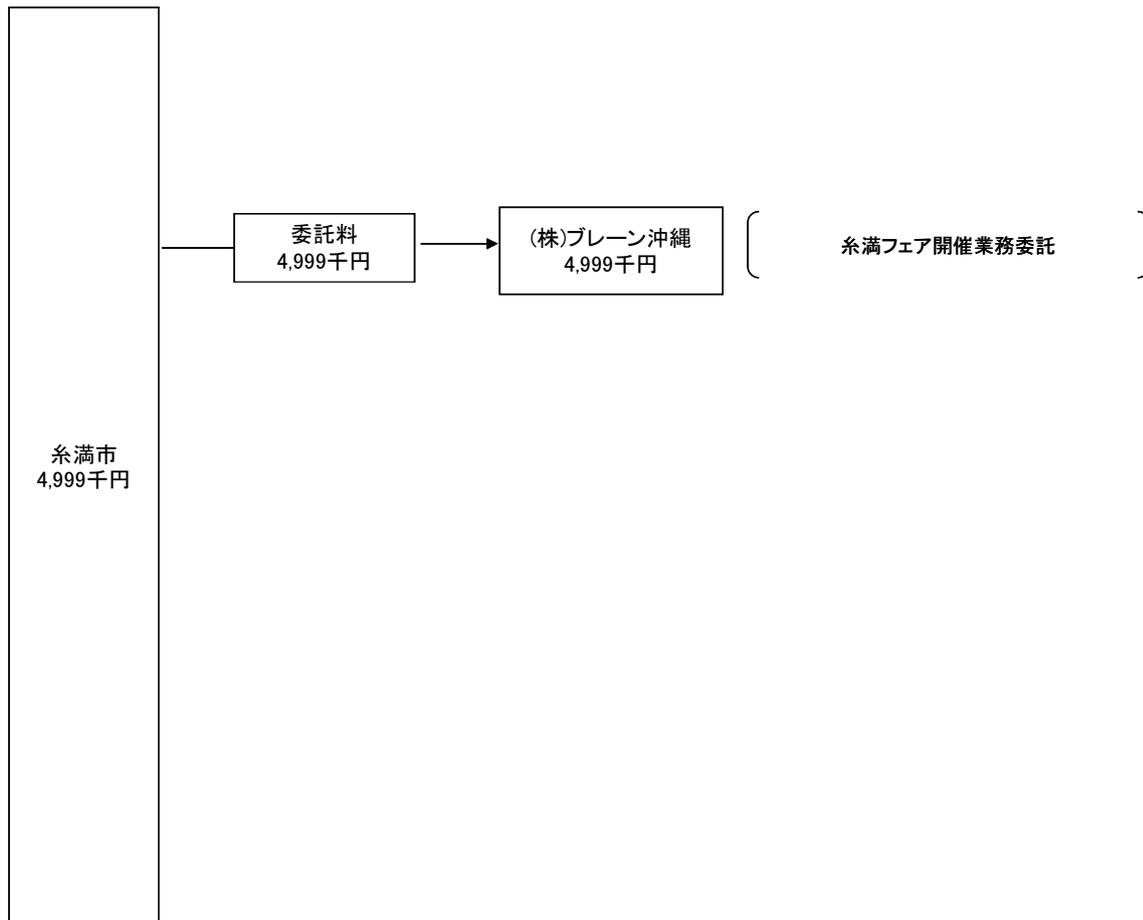
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・糸満地場産品販売促進のため、主に県内・市内在住者向けのフェアとして開催したが、フェア開催期間の設定が長かったため、出展事業者における販売店員人件費等の負担があった。 ・今回は、糸満ブランドイメージの発信に重点を置いた取り組みへとリニューアルしたため、ブランドイメージの構築といった部分で専門的知見のある事業提案者へと委託する必要があり、6-⑤地場産品販路拡大事業を受託する商工会との連携の部分で、十分な相乗効果を発揮させることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェア開催期間を長期にした場合、出展業者の販売店員を一時雇用するなど人件費増となり、販売額が低いと会社経営にも支障を来す可能性があることと、短期に開催した場合は、誘客が少ないことから売り上げにも影響を及ぼすことから各事業者間の開催期間と販売額を比較した損益分岐点を確認しながら、今後の開催期間を検討する。 ・糸満フェア開催事業を販路拡大事業へと統合し、ブランドイメージの構築と発信を県内外に向けて一体的に取り組むなどの検討が必要。

今後の取り組み方針

・フェア開催期間を長期に行った場合の事業者の販管費の負担の増加と、短期に行った場合の売り上げ減少との損益分岐点の改善に取り組む。
 ・平成27年度以降においては、糸満フェア開催事業を6-⑤地場産品販路拡大事業に統合して実施することで、県内外に向けた糸満地域ブランド「いとちゃん」発信に取り組む。
 ・糸満ブランドイメージの発信・普及・定着化拡大を軸とした物産観光展として、「いとちゃん」を観光体験メニュー、地場産品の包装紙等へロゴ、イメージ画像を印刷し、視覚認識による地域ブランドの強化に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,999	4,999	3,999	1,000	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ブランドイメージの拡充拡大といった専門的知見の導入を図るため、公募プロポーザルで事業者を選定しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、糸満フェア開催の情報発信業務を専門家に委託して行い、不用額もないことから、ブランドイメージ周知を図る事業内容の規模として適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者においても、会場使用料の施設使用料負担があり妥当である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○規模・費用・用途については、確定時において支出などに関する書類により確認し、適正であった。

市町村名	糸満市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-⑦	衛星船舶電話購入設置補助事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(5)-イ
担当部課名	経済観光部 海人課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				圏域の特色を生かした産業の振興
				Ⅲ-1-(6)

事業内容	漁業者の遠方操業における安全を確保し、緊急時の通報体制を強化するため、広域通信が可能な衛星船舶電話機の設置補助を行う。
------	---

実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）
------	--

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	54,090				
	(b)予算現額	34,222				
	(c)増減額(b-a)	▲19,868				
	(d)前年度繰越額	—				
	A.計(b+d)	34,222				
	B.執行済額	34,222				
	うち交付金充当額	27,377				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%				
予算の状況の説明	54,090千円(59隻分)を予算措置したが、船舶電話導入を辞退する漁業者が相次いだため、3月補正で19,868千円(14隻分)を減額した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
衛星船舶電話の整備 対象漁船59隻	目標	(59隻)	()	()	()
	実績	45隻			
	目標	()	()	()	()
	実績				

達成状況説明	当初は59隻予定していたが、沿岸海域での漁業者や高齢化、後継者問題により、漁業を継続できない漁業者がおり目標には届かなかった。
--------	---

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
			対象漁船に対する整備率 100%	目標	()	(100%)	()
	実績			76.3%			
		目標	()	()	()	()	()
実績							

進捗状況説明	沿岸海域漁業者や高齢化、後継者がいないなど、今後は漁業を継続できない状況から、漁船への船舶電話を希望しない漁業者がいたため、1目標の整備率100%が達成できなかった。
--------	---

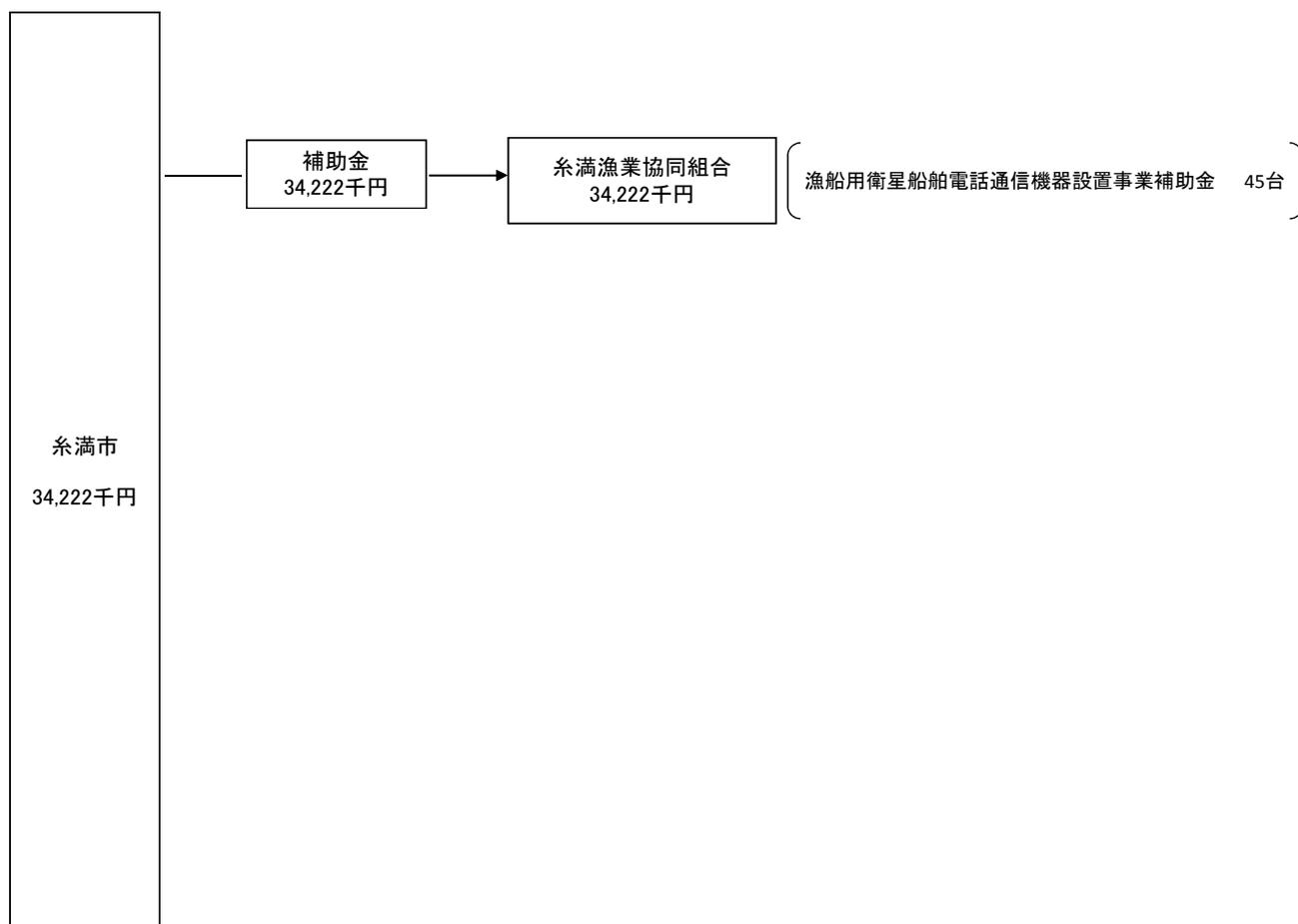
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	漁業者の遠方操業における安全を確保し、緊急時の通報体制を強化するため事業であるが、高齢化や後継者がいないなど、今後漁業を継続できない状況から漁船への船舶電話を希望しない漁業者がいた。	募集の時点は59台の要望があったが、執行の段階では高齢化や後継者がいない等の理由により辞退が相次ぎ、45台になってしまった。導入希望漁業者の把握の段階で正確な船舶電話の導入量状況を的確に把握する必要があった。

今後の取り組み方針

漁業者の遠方操業時における緊急時通報体制の強化を目的としているため、全ての漁業者(漁協組合員)へ衛星船舶電話を導入する必要があるが、導入辞退の理由に、漁業者の高齢化や後継者不足による漁業継承の厳しい状況が挙げられており、今後はその課題に対して支援策の検討をしていくとともに、未導入船舶への安全配慮について、糸満漁協との連携強化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
34,222	34,222	27,377	6,845	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助団体は漁業者の実情等を把握している漁業組合であり、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく、予算規模は適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○漁業者は税抜事業費の10%と消費税分を負担しており、妥当受益者負担と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的を即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	平和の語り部育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-ウ		
担当部署名	企画開発部 秘書広報課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際交流・貢献等の推進		
事業内容	戦争を身をもって体験した語り部が減少する中、苛烈を極めた地上戦が行われた沖縄県糸満市として、平和の尊さと戦争の悲惨さを後世に継承するために、新たな「平和の語り部」を育成する。 併せて、広く市民等に平和の啓発・発信するため、平和講演会並びにイベントを実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	5,687	9,998	12,242		
		(b)予算現額	5,687	9,998	12,268		
		(c)増減額(b-a)	0	0	26		
		(d)前年度繰越額	—	—	—		
		A.計(b+d)	5,687	9,998	12,268		
	B.執行済額		5,435	8,296	12,110		
	うち交付金充当額		4,347	6,632	9,688		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		95.6%	83.0%	98.7%		
予算の状況の説明		講演会増額:出演する学校のバスを借用する予定であったが、バスが修理となったため、借り上げ料として26,000円を増額。 執行率も98.7%であり、概ね予定通り執行できたと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	語り部育成研修会の開催数 第1課程:3回/年 第2課程:3回/年 第3課程:10回/年	目標	(研修会・講演会開催)	(第1課程:3回 第2課程:3回 講演会:1回)	(第1課程:3回/年 第2課程:3回/年 講演会:1回)	()	
		実績	研修会・講演会開催	第1課程:3回 第2課程:3回 講演会:1回	第1課程:3回/年 第2課程:9回/年 第3課程:9回/年		
	講演会開催数:1回	目標	(講演会:1回)	(講演会:1回)	(講演会:1回)	()	
		実績	講演会:1回	講演会:1回	講演会:1回		
達成状況説明		第1課程:事前研修1回(2日間)、広島研修1回(3日)、事後報告会1回の計3回 第2課程:事前研修1回(2日間)、長崎研修1回(4日)、事後報告会1回、実践ガイド研修9月～2月の計6回、合計9回 第3課程:事前研修1回(2日間)、鹿児島研修1回(3日)、事後報告会1回、実践ガイド研修9月～2月の計6回、合計9回 第3課程の開催回数が減少した理由:当初計画では、実践ガイド研修は第3課程のみとしており、台風やインフルエンザを考慮した計画策定でなかったが、実態として回数よりも参加人数や実践ガイド内容等から、研修会の成果があったと認識している。 講演会:平成26年8月30日(土)「親子平和コンサートinいとまん」字摩文仁平和祈念堂 内容:体験者講話、絵本読み聞かせ、コンサート(市内小学校合唱部、平和の語り部第1～3課程他) 語り部研修会に関しては概ね達成。講演会については達成できたと考えている。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	語り部育成研修会受講人数 第1課程:18名 第2課程:15名 第3課程:13名 計46名	目標	(0人)	(15人)	(35人)	(46人)	()
		実績		18人	36人	46人	
	講演会来場者:400名	目標	()	()	(400人)	(400人)	()
		実績			400人	400人	
	進捗状況説明		語り部育成研修会は、目標達成と判断する。 講演会は、参加者の1/4の方々がアンケート記入を行い、大変好評であった。内容としても、平和の語り部第1～3課程の36人が参加し、絵本読み聞かせも市内中学生が行うなど「次世代への継承」という目的に沿った事業展開ができたと感じている。またこの事業は夕方ニュースで放映され、多くの県民に周知できた。				

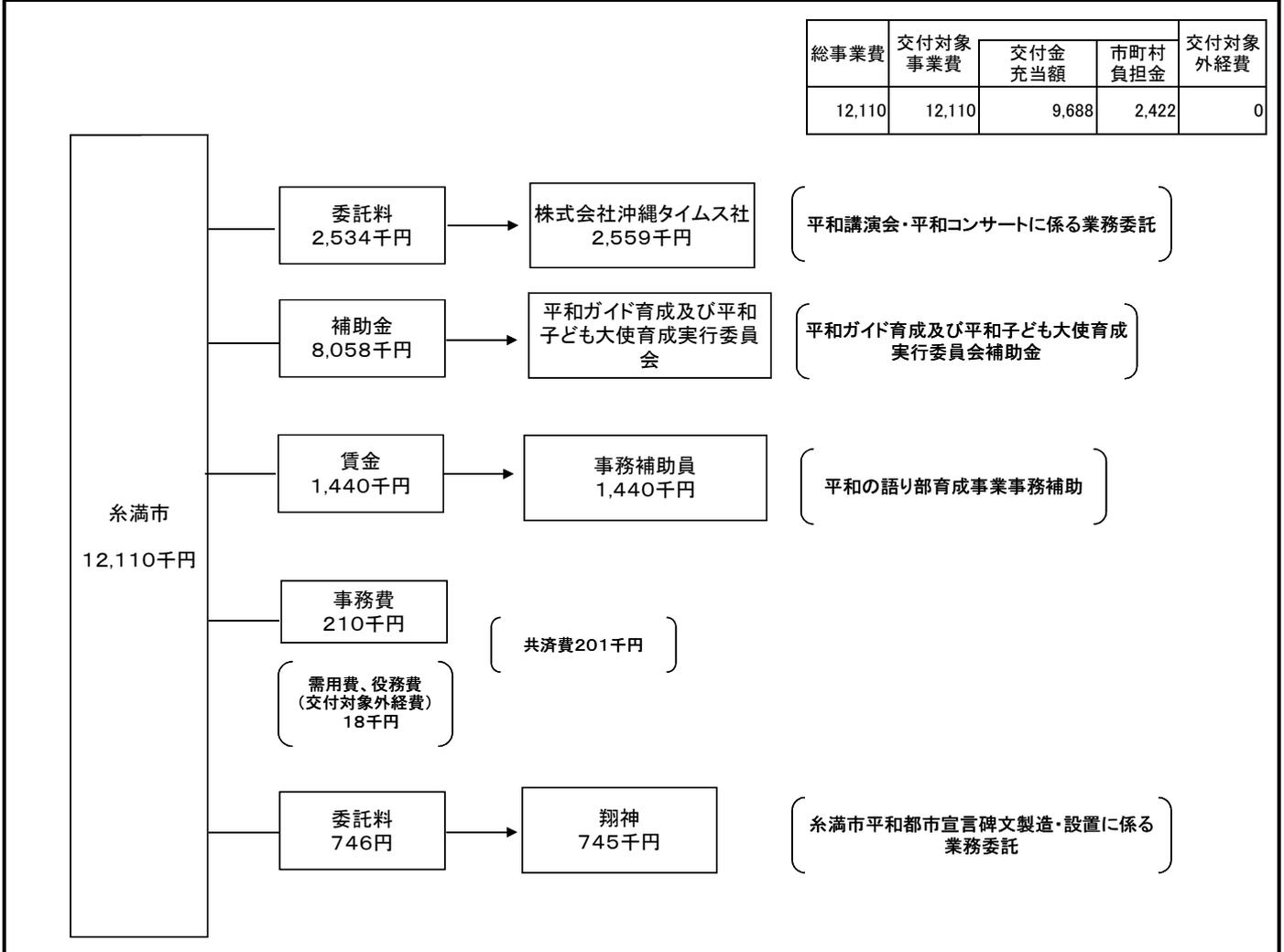
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>平和の語り部については、昨年を基本に以下①、②を事業に網羅した。</p> <p>①「平和の語り部」事業の内容整理 ②「語り部としての意識づけ」に関する工夫</p> <p>結果:これまでの研修中心から実践ガイド研修を組み込み「地元を」学ぶ「地元で」学ぶ事にシフトさせた。また本市平和事業での出演者やスタッフとして活用する事により「平和の語り部」としての自覚や意識も醸成されていると感じる。→講演会は46人中36人の参加あり。</p> <p>講演会については「大衆性」と「正当性」のバランスを保つ事を考えた。 結果:今年は「次世代への継承」とテーマに、児童生徒向けの内容や参加を行った結果、多くのアンケートは好評でありまたニュース放映で周知出来た。 平和都市宣言碑文は、多くの目に触れる市庁舎設置で、常に「平和都市」を意識していただき、平成30年度の平和都市宣言25周年へと歩む。</p>	<p>①実践的ガイド研修は、第1課程から導入し、第3課程まで継続して行う ②これまでの実行委員会方式の廃止 ③中学生は1校2名、小学生は1校1名とする ④鹿児島県への研修を取りやめて、沖縄県内研修へと切り替える</p>

今後の取り組み方針

平和の語り部については

①研修生たちが年齢を重ねるにつれ「部活や進路」等で、今後の活動制約が予想されるため、その危機への対策として、第1課程からの実践ガイド研修を行う。
②これまで市内小中学校長を中心とした実行委員会であったが、アンケートを行った結果、学校側における平和の語り部研修生の学校事業での活用はなされておらず、今後も困難との回答が多くあり、実行委員会を検討した結果、実行委員会方式を廃止し、本市が直接行う事とした。
③実行委員会廃止検討の中でも、各学校1名は活用しづらい事、小学生と中学生との研修中の体力差や安全確保等を踏まえ、中学生中心の研修生へとシフトする。
④沖縄戦や糸満市との繋がりが不明瞭であった、鹿児島研修から沖縄県内の研修へと変更を行う。
今後は、県外研修中心から地元における「戦の課程」を学ぶことにより、地元の歴史や地元の記憶を共有できるような「地元への愛着」に繋がる学びを展開する。
また「平和の語り部(平和ガイド)研修生」を本市平和事業で、スタッフや出演者として活用する事により、より「地元」に根差した活動や意識の醸成を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>①契約形態: 平和講演会・イベント→プロポーザル実施 平和都市宣言碑文製造・設置→随意契約 糸満市契約規則に従って、契約締結を行った。 ②委託に関しては、検査を行い成果を確認した。 ③補助金は、糸満市平和の語り部育成事業(平和ガイド育成及び平和子ども大使育成)補助金交付要綱に従い、実績報告後確定を行った。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②	糸満市戦争遺構保全・活用整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-ウ		
担当部署名	企画開発部 秘書広報課	事業実施(予定)年度	平成26～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際交流・貢献等の推進		
事業内容	<p>現在、市内に点在する避難壕や戦争で被害を受けた構築物は、かつての戦争の時代を物語る遺跡であり、後世に伝えることで歴史の生きた教材になりうる。 調査、保全・整備と段階を経て作業を行い、本市の平和教育・観光に役立つ資源として活用する。</p>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,128				
		(b) 予算現額	7,128				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	7,128				
	B. 執行済額		6,804				
	うち交付金充当額		5,443				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		95.5%				
予算の状況の説明		一般競争入札を行ったため、324千円の残額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	戦争遺構保全・活用整備検討委員会開催数3回/年	目標	(3回)	()	()	()	
		実績	0回				
	保全・活用整備調査対象数30カ所	目標	(30カ所)	()	()	()	
		実績	30カ所				
達成状況説明	<p>検討委員会開催実績が0回という結果は、当初検討委員会は基礎調査の結果を踏まえて行うとされたが、今回基礎調査の開始時期を6月頃から11月へと変更した事である。変更理由として、ガマという環境は、夏場はハブなどが活発に活動するためであり、机上の計画ではその部分が認識不足であった。 よって、平成26年度は検討委員会を開催する事は出来なかったが、現状を踏まえて完成までの全体スケジュールを検討した結果、戦争遺構の状況から縮小・変更等が予想されるため、平成27年度は検討委員会の開催を6月頃からは、その後測量調査等でのスケジュールに対応可能と判断を行った。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	戦争遺構保全・活用基礎調査報告書	目標	(1冊)	(1冊)	()	()	()
		実績		1冊			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	報告書については、2月下旬に印刷製本を行い、完成後(電子データを含)納品された。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>事業における推進上の問題として以下が挙げられる。</p> <p>沖縄戦激戦地の本市には、当時住民や軍関係者が利用していた「ガマ」と称される自然洞穴が存在する。その主成分は琉球石灰岩であり、戦後70年の風化により、その形状維持が困難となってきている。</p> <p>しかしこの「戦争遺構(自然洞穴等)=物言わぬ戦の証人」は、当時の様子を現在に伝え「場所のリアリティー」としての有形無形の価値を有している。</p> <p>よってそれを数多く有する本市は、自然物の保全と歴史的価値の継承という難しい取り組みに直面している。</p>	<p>①戦争遺構(自然洞穴等)における平和学習体験者等の安全性への留意</p> <p>②戦争遺構(自然洞穴等)→自然物であるが故に「保全」と「朽ちる(風化)」判断 アンビバレントで基準確立が困難。</p> <p>自然のまま(あるがまま)⇔自然を補完(覆う)</p> <p>③戦争遺構=物言わぬ戦の証人の歴史的価値の継承</p>

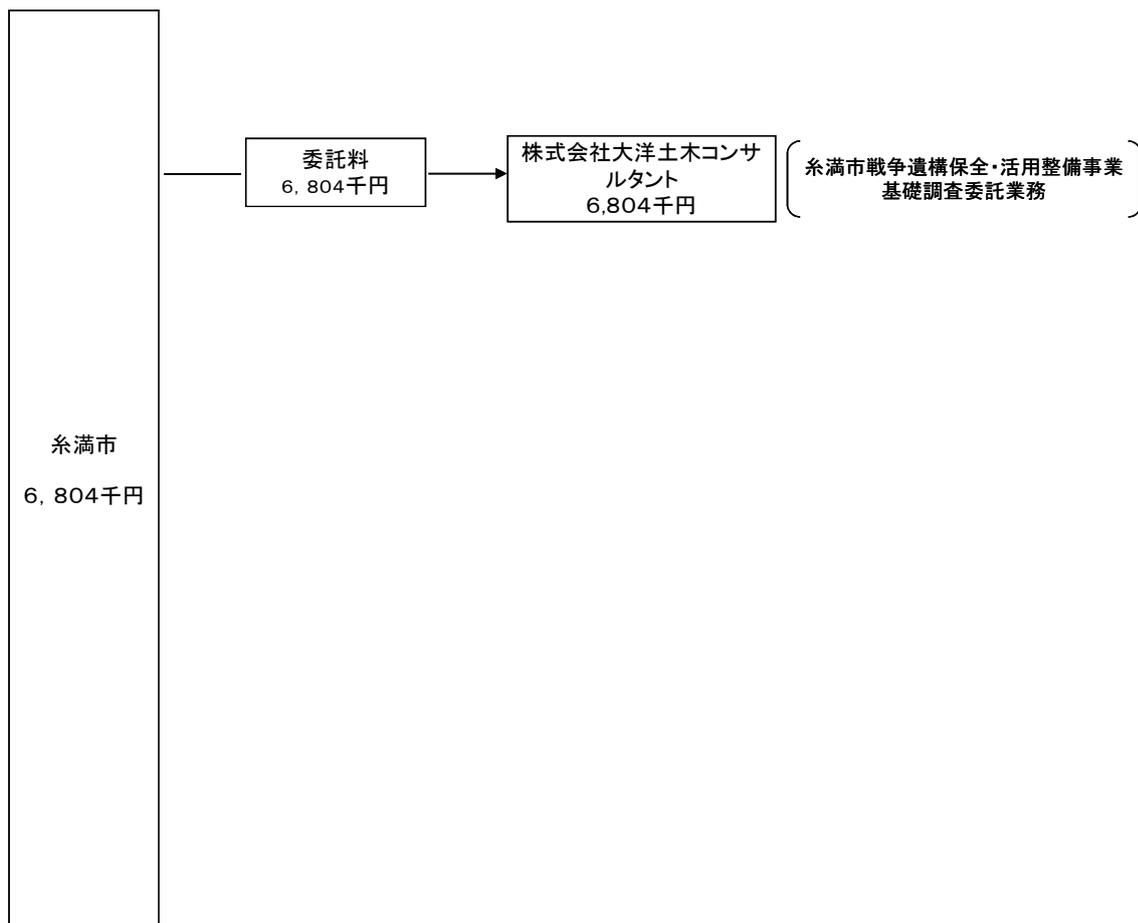
今後の取り組み方針

戦後70年の歳月により、戦争遺構=物言わぬ戦の証人は体験者が高齢化している今、その「場所のリアリティーを伝える」存在として、歴史的価値が大きくなっている。よって本市が、他市に先駆けて本事業を展開する意義は大変大きい、しかしその「時間の壁」がもたらした結果として「戦争遺構の風化・劣化」という現象がある。

そのため今後は、平和学習における安全性に留意し、検討員会等の意見を基に「沖縄戦を語る 物言わぬ証人」である戦争遺構の整備・活用を行い、本市における未来への碑としていきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,804	6,804	5,443	1,361	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	①一般競争入札を行い、糸満市契約規則に従って契約締結を行った。 ②不用額は事業費の5%以内であり、適正な規模であった。 ③報告書に関しては検査を行い、成果品を確認した。 ※報告書の内容としては、次年度検討員会のベースになる内容を網羅している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	確かな学力を育むサポート事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部署名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	学習の遅れからくる劣等感等で不登校になる事案もあり、学習支援や学校生活への不適応の児童生徒を指導するなど学力向上と登校復帰を図るため、学校現場へ学習・自立支援員を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	23,575	23,681	24,315		
		(b) 予算現額	23,575	23,681	24,123		
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲192		
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	23,575	23,681	24,123		
	B. 執行済額		22,919	21,922	22,673		
	うち交付金充当額		12,052	17,538	18,138		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		97.2%	92.6%	94.0%		
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。 不用額1,451千円は当初配置予定2校について急遽退職となった者や、適当な人材がいなかったことで4月～8月の配置が行えなかったことによるもの。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	学習指導等支援員配置数 小学校:5人、中学校:6人	目標	(16名)	(16名)	(16名)	()	
		実績	18名	23名	18名		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	学習支援を必要とする児童生徒に対し学校現場へ学習指導等支援員を配置・支援し課題解決を図った。 年間を通して市内10小学校へ11名、6中学校へ7名の学習指導等支援員を配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	学習指導支援児童数 小学校:175人 生徒数 中学校:107人	目標	(16校)	(16校)	(小175人 中107人)	(小175人 中107人)	()
		実績		16校	小161人 中130人	小165人 中124人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・支援児童生徒数 小学校165人、中学校124人 ※目標値と実績値の増減があるのは各学校の判断により複数の生徒を支援する場合や、個別に支援する必要のある場合等による状況の変化によるものである。 ・学習指導等支援員配置効果 平成25年度と比較し平成26年度は県到達度調査における教科の総合計において県平均に小学校で12.7ポイント、中学校では5.4ポイントと差がついた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	本事業は、昨年に続き学習指導等支援員を各学校へ配置し、児童・生徒への学習指導等の充実を図ってきたが、今回の県到達度調査において、県平均との差の改善にはいたらなかった。	各学校の実情や規模に合わせ、支援員の柔軟な配置を検討していく。主に支援員の支援時間数を4時間と7時間45分とに区分し、授業支援・放課後支援と実情に合わせ配置。また問題のある学校へは更に支援員を1名追加し対応していく。

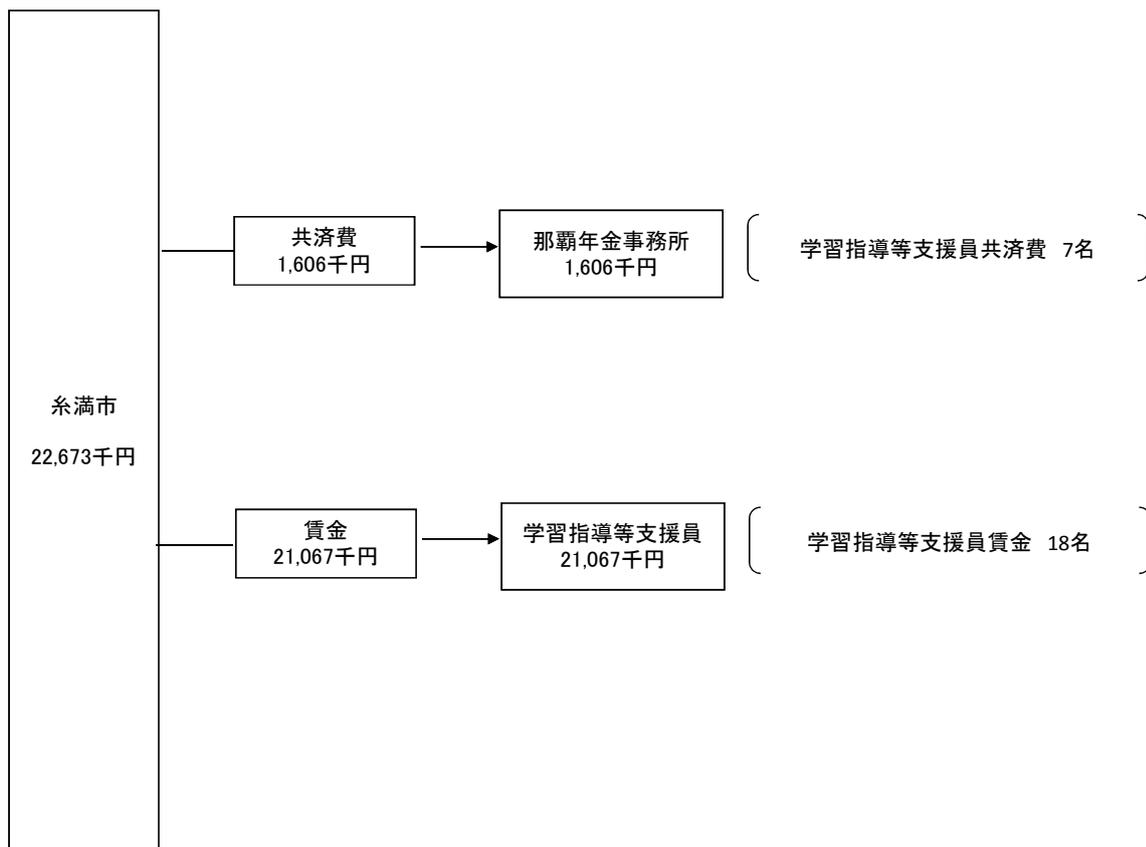
今後の取り組み方針

県到達度調査において県平均を目標に、引き続き、
 ・学習指導等支援員研修会開催(年3回程度)
 ・各学校の実情・規模に合った支援員の適正配置

また、各学校における学校計画(補習計画)に基づく学級担任と連携した補習指導の充実を推進。市学力向上担当者研修会等において情報を共有し、各学校との連携を図っていく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,673	22,673	18,138	4,535	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○不用額1,451千円は当初配置予定2校について急遽退職となった者や、適当な人材がいなかったことで4月～8月の配置が行えなかったことによるもの。予算規模は適正であったと考えているが、退職などの補充の対応が課題である。 ○学習指導等支援員の公募・選考を行い、適切な人材と考えている。 ○費目・用途について支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-②	英語指導事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア	
担当部署名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	英語指導を通じたコミュニケーション能力と国際感覚を身につけた人材育成を図るため、小中学校の英語授業における英会話指導、発音指導や学級での質の高い英語指導をサポートする英語指導助手を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	21,291	21,389	21,845		
		(b) 予算現額	21,291	21,389	21,845		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	21,291	21,389	21,845		
	B. 執行済額		21,245	21,196	21,510		
	うち交付金充当額		10,856	16,957	17,208		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		99.8%	99.1%	98.5%		
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	英語指導助手配置数 小学校:4人、中学校:3人	目標	(7人)	(7人)	(7人)	()	
		実績	7人	7人	7人		
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 市内小学校・中学校へ英語指導助手の配置を行った。 H26年度:小学校 4名 中学校 3名 (H25:小学校 4人 中学校3人) 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	英語指導助手配置クラス数 小学校:45クラス、中学校:61クラス	目標	(16校)	(16校)	(106クラス)	(106クラス)	()
		実績		16校	106クラス	103クラス 小学校:42クラス 中学校:61クラス	
	【参考指標】 英語指導助手1人当たりの指導児童数 (延べ人数/週)	目標	()	()	()	()	()
		実績				小学校347人/週 中学校681人/週	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 計画どおり市内16校への配置ができた。106クラスから103クラス(小学校:42クラス、中学校:61クラス)への減は学級数の減に伴うものである。 英語指導助手1人当たり指導児童数としても延べで小学校347人/週、中学校681人/週が実現できた。 県到達度調査(英語)における県平均との差 H23:2.4点 H24:1.8点 H25:2.1点 H26:0点 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	学習指導要領・年間指導計画に沿って小学校英語を行っている中、現状として実際に外国語を使つてのコミュニケーションの場面設定が不足している。 ・学級担任及び英語担当教諭の授業力の向上及び効果的なAETの活用 の必要性 ・AETの授業スキルの向上	英語に慣れる環境づくりとして小学校教員を対象にした研修 ・授業で使える教材づくり研修会 ・他校の取組を情報交換 小学校と中学校の連携として ・小中連携計画の作成 ・中1小6の授業参観見学、中学校教員による小学校への出前講座

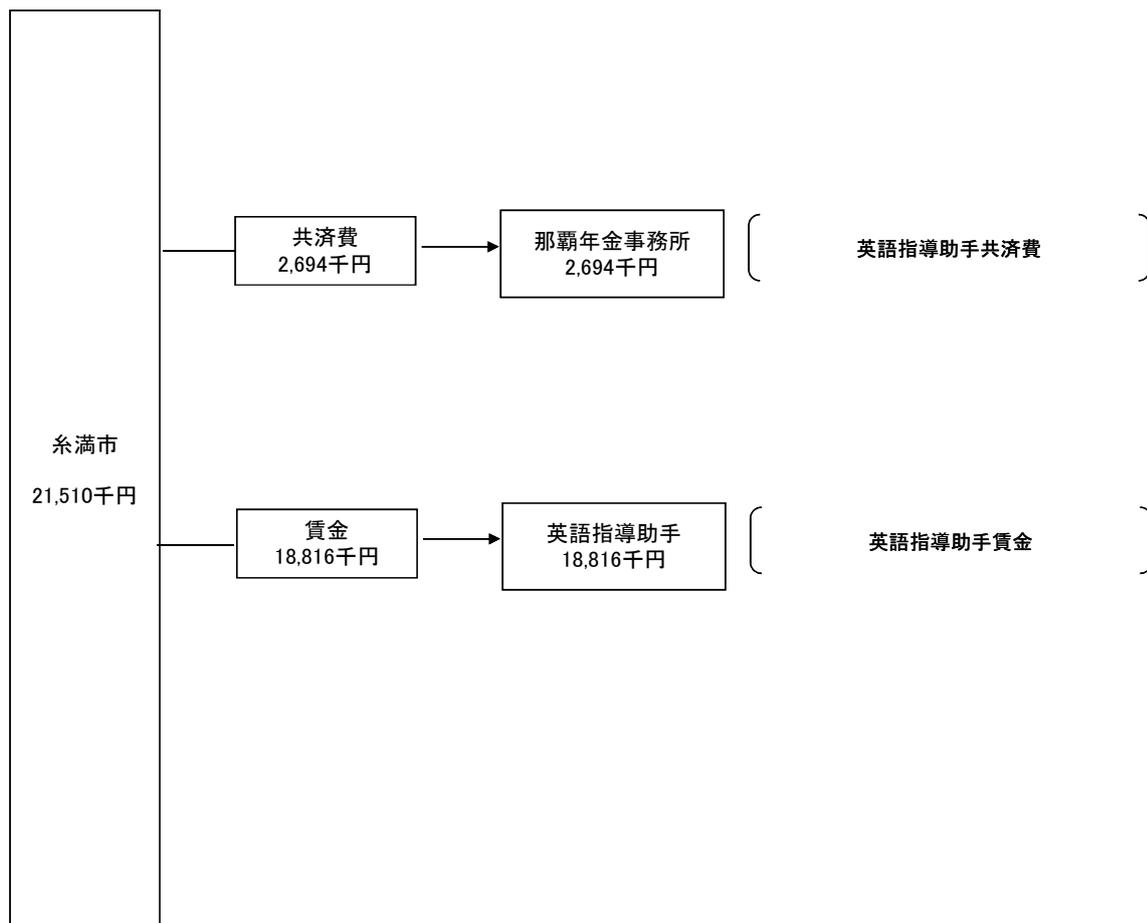
今後の取り組み方針

各学校と連携し、国際社会に通用する社会人育成のため、国際語である英語へ慣れる環境の整備。
 ・小学生の頃から、英語に親しませ、英語の楽しさを伝え、コミュニケーション能力の素地を養う。
 ・小学校英語活動と中学校英語の円滑な接続。

前年度の反省を踏まえつつ、次年度以降も同事業を継続・英語指導助手の活用及び国際理解教育・英語活動の推進を目指す。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
21,510	21,510	17,208	4,302	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○不用額は335千円であり、予算の5%以内であるため適正な予算規模であったと考えている。 ○公募・選考を行い適切な人材と考えている。 ○費目・使途について支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 糸満市

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-③	障害児支援ヘルパー派遣事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ
担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖繩振興基本方針該当箇所
				豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
				Ⅲ-3-(1)

事業内容 発達障害を含む様々な障害を持つ児童生徒に支援ヘルパーを配置するとともに、ヘルパーの資質向上を目的とした研修会を開催する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	19,855	42,295	42,294		
	(b)予算現額	43,553	47,627	46,891		
	(c)増減額(b-a)	23,698	5,332	4,597		
	(d)前年度繰越額	—	—	—		
	A.計(b+d)	43,553	47,627	46,891		
	B.執行済額	42,085	43,214	43,214		
	うち交付金充当額	10,225	34,571	34,571		
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	96.6%	90.7%	92.2%		
	予算の状況の説明	予算計上通りに概ね執行できた。 不用額3,678千円は幼稚園5人配置予定が8人配置となり、人員増による勤務時間の減により、3名分の社会保険料が不要なり、残(667千円)がでたこと。また1人のヘルパーで複数児童をみる体制を1学期行い、真に個別支援が必要な児童や、学級運営等に支障がでる場合に2学期以降支援員を増員したことによる賃金残(3,271千円)がでている。				

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況				
		24年度	25年度	26年度	27年度	
	障がい児支援ヘルパーの配置 幼稚園:5人、小学校:22人、中学校:3人	目標	(25人)	(35人)	(30人)	()
		実績	25人	42人	37人	
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 市内幼稚園・小学校・中学校へ障がい児支援ヘルパーの配置を実施。 H26年度:幼稚園10人、小学校25人、中学校2人(H25:幼稚園13人、小学校26人、中学校3人) 学期ごとに研修会の開催 3回/年 					

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
			支援園児・児童・生徒数 幼稚園:11人、小学校:61人、中学校:2人	目標	(15校(園))	(15校(園))	(50人(15校(園)))
	実績			15校(園)	66人(19校(園))	93人(19校(園)) 幼:24人、小:67人、中:2人	
	目標	()	()	()	()	()	
実績							
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 当初の計画を上回り、市内19校(園)(幼稚園:24人、小学校:67人、中学校:2人)へのヘルパー配置が可能となった。 ヘルパー1人当たりの対応児童数としても延べ30.1人/年のサポートが実現できた。 ヘルパースキルアップのための研修会についても開催した。 						

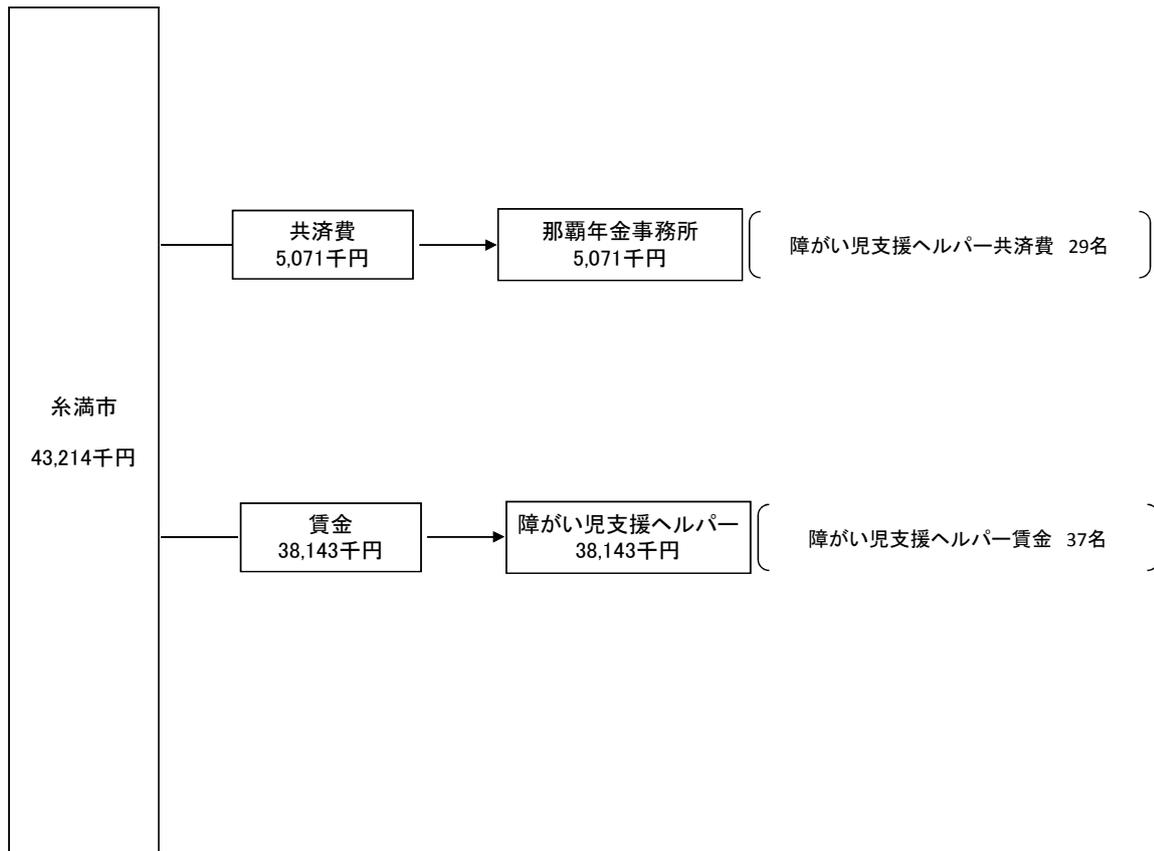
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	支援を要する幼児児童生徒は年々増加している。 早い段階(幼少期)で支援することで、障害の程度の改善を図ることが必要。 保育所(園)・幼稚園・小学校・中学校と継続・連携した支援体制が必要。	早い段階からの適切な指導・支援を重点的にいき、改善を図る。 保育所(園)・幼稚園・小学校・中学校間で連携することで、要支援者の現状を共有し、スムーズな支援体制を構築する。

今後の取り組み方針

特別支援コーディネーター・特別支援学級担任及び障害児支援ヘルパー及び障害児支援ヘルパー配置学級担任への研修会の実施(年3回程度)。
障害児支援ヘルパーの配置基準を作成し、適正な人員を配置する。
早い段階からの支援を重点的に行えるよう早期発見に努める。
学校間での連携強化。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
43,214	43,214	34,571	8,643	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○不用額3,678千円は幼稚園5人配置予定が8人配置となり社保の残(667千円)がでたこと。また1人のヘルパーで複数児童をみる体制を1学期行い、真に個別支援が必要な児童や、学級運営等に支障がでる場合に2学期以降支援員を増員したことによる賃金残(3,271千円)がでている。概ね適正な予算規模であったと考えている。 ○障がい児支援ヘルパーの公募・選考を行い、適切な人材と考えている。 ○費目・使途について支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-④	学びの体験事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部署名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	学力調査で全国一低い沖縄県の状況を改善するため、学習に対する心構えや学校生活・放課後の過ごし方など、先進地の学校における“学び”を体験し、派遣元の生徒や地域に波及させ、学力向上を図るため、学力向上で成果を上げている秋田県に直接児童等を派遣する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	(a) 当初予算額	0	5,495	5,883			
	(b) 予算現額	5,495	5,495	5,883			
	(c) 増減額 (b-a)	5,495	0	0			
	(d) 前年度繰越額	—	—	—			
	A. 計 (b+d)	5,495	5,495	5,883			
	B. 執行済額	5,378	5,491	5,836			
	うち交付金充当額	4,301	4,393	4,668			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率 (%) (B/A)	97.9%	99.9%	99.2%			
予算の状況の説明	予算計上通りに概ね執行できた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	同交流参加者数 55人 (小学生20人、中学生16人、幼小中教諭14人、団長1人、看護師1人、事務局3人)	目標	(交流事業の実施)	(交流事業の実施)	(55人)	()	
		実績	交流事業を実施	交流事業の実施	55人		
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地体験交流事業を実施した。 ・同交流事業への参加者数 55人/H26年度となった。交流事業終了後は、先進事例発表会を実施し、経験したことのフィードバック及び発表会を通じた発表表現力等の向上を図った。 						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	・報告会の開催(実践発表・報告書作成により派遣生徒等の意識向上。)	目標	(-)	()	(報告会開催)	(報告会開催)	()
		実績			報告会実施	報告会実施	
	・報告書の配布(1,000部 学力向上における先進地の取り組みを周知する。)	目標	()	()	(1,000部)	(1,000部)	()
		実績			500部	200部	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地体験交流参加者数55人(小学校20人、中学校16人、引率19人(教諭14人・団長1人・看護師1人・事務局3人)、当初計画どおり実施。 ・先進事例発表会参加者数 548人/H26 当初目標値の1,000部(報告会に参加した方に配布予定)を、市内各学校と関係機関に配布する方法へと変更したため、必要部数を200部に抑えることができた。 ・報告書の配布1,000部を当初目標値にしていたが、補助団体の予算作成時(H26.4)に先進地派遣52人の旅費負担が重いため、印刷製本費を減とし、旅費の確保を行った予算となった。その為報告書の作成が200部となった。 						

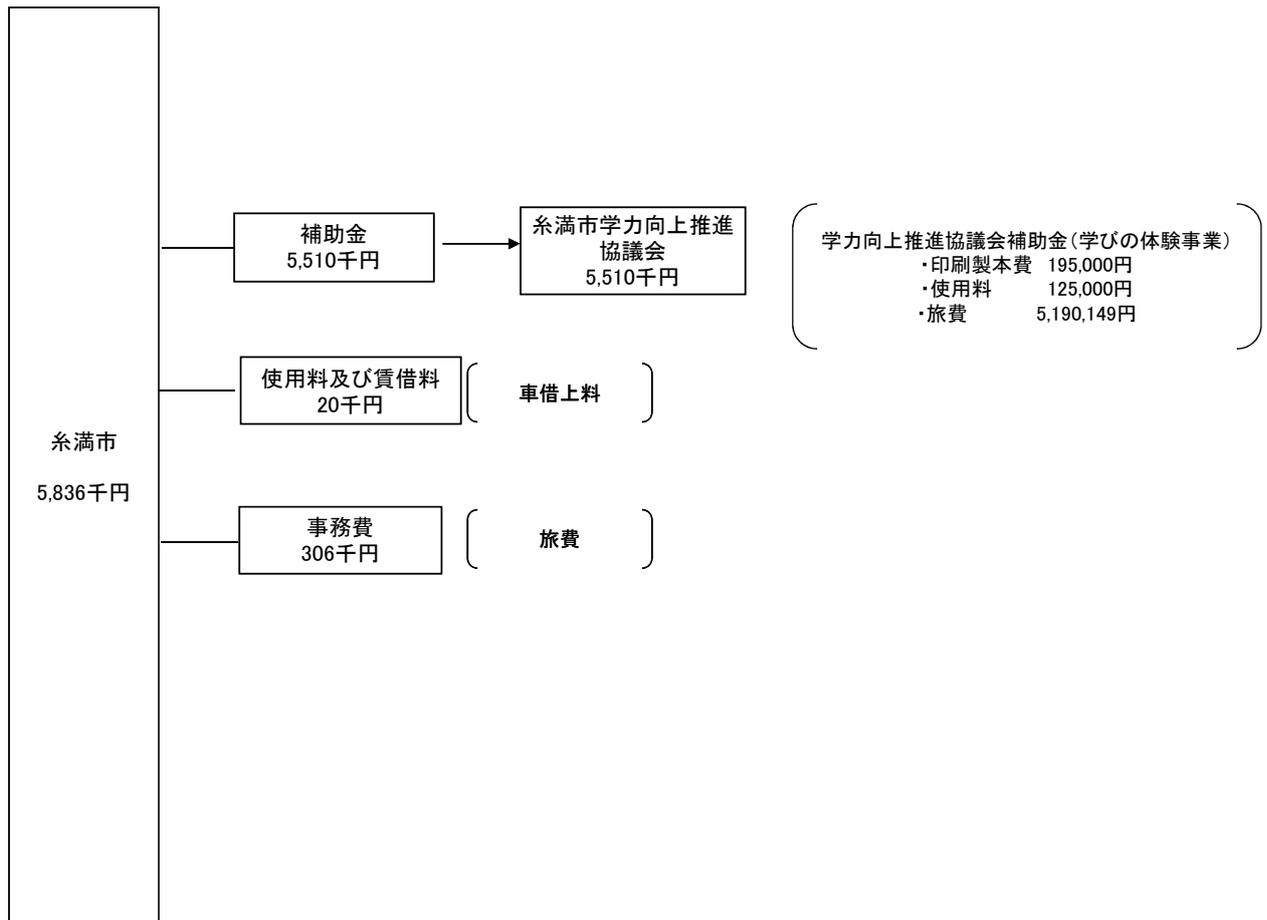
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・県到達度調査において、沖縄県平均には至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県大仙市と糸満市の違い ①児童生徒の勉強する姿勢(教員の指示・指導無) ・授業が始まると同時に全ての児童生徒が席に着いている ・教科書等教具も準備済み、先生を受け入れ・勉強する体制が整っている ②教員の授業経営・児童生徒に対する対応 ・児童生徒にすぐ答えを求めるのではなく、物事の成り立ちなどについて考え納得するような自力解決・自学学習が浸透した授業 など違いを実際に体験したことは大きな成果であった。このことを日頃から心がけ、継続していくことは学力向上へとつながっていく。 ・秋田県との交流事業で学んだ勉強方法や授業経営のノウハウを広く普及していくとともに、他事業(確かな学力を育むサポート事業等)に力を入れ、県平均を達成していきたい。

今後の取り組み方針

・平成24年度～26年度の3年計画による秋田県との交流事業では、児童生徒の勉強方法や教員の授業経営のノウハウを学ぶことができた。今後は学んだことを市全体に広く普及していくよう、市定例校長研修会、市定例教頭研修会、市学力向上担当者研修会、学習指導等支援員研修会、その他教員研修会等で活用していきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
5,836	5,836	4,668	1,168	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金支出団体は市の学力向上推進を目的としており、組織・実績等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は予算の5%以内であり、適正な予算規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金5,836千円の使途は、派遣旅費や報告書印刷費など体験事業の実施に必要な経費に限定して支出されている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名	糸満市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-⑤	特別支援教育指導コーディネーター配置事業					
担当部署名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度 平成25～29年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 沖縄振興基本方針該当箇所					
事業内容	障がいのある児童生徒に関し、保育所等他機関との連携や学校での取り組みなどを多方面から支援する特別支援教育を行うため、特別支援教育指導コーディネーターを配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	(a) 当初予算額	1,644	1,644				
	(b) 予算現額	1,644	1,644				
	(c) 増減額 (b-a)	0	0				
	(d) 前年度繰越額	—	—				
	A. 計 (b+d)	1,644	1,644				
	B. 執行済額	1,624	1,589				
	うち交付金充当額	1,299	1,271				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率 (%) (B/A)	98.8%	96.7%				
予算の状況の説明	費用弁償に残額が発生したが、報酬は予算計上どおりに執行。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	特別支援教育指導コーディネーター配置1人	目標	(1人)	(1人)	()	()	
		実績	1人	1人			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	特別支援教育指導コーディネーターを1人配置した。市内各幼小中学校等からの要請を受け派遣。幼稚園のみならず、保育所からの要請も受ける。特別支援教育研修会を開催。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値 (23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年度)	
	市内幼稚園・小中学校・保育園及び保護者への指導・相談 年120回	目標	(—)	(120回)	(120回)	()	()
		実績		152回	138回		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	学校・幼稚園・保育園及び保護者からの派遣申請・相談依頼等を受け、指導・観察・相談を138回実施。支援対象児童生徒幼児(H26:145人)					

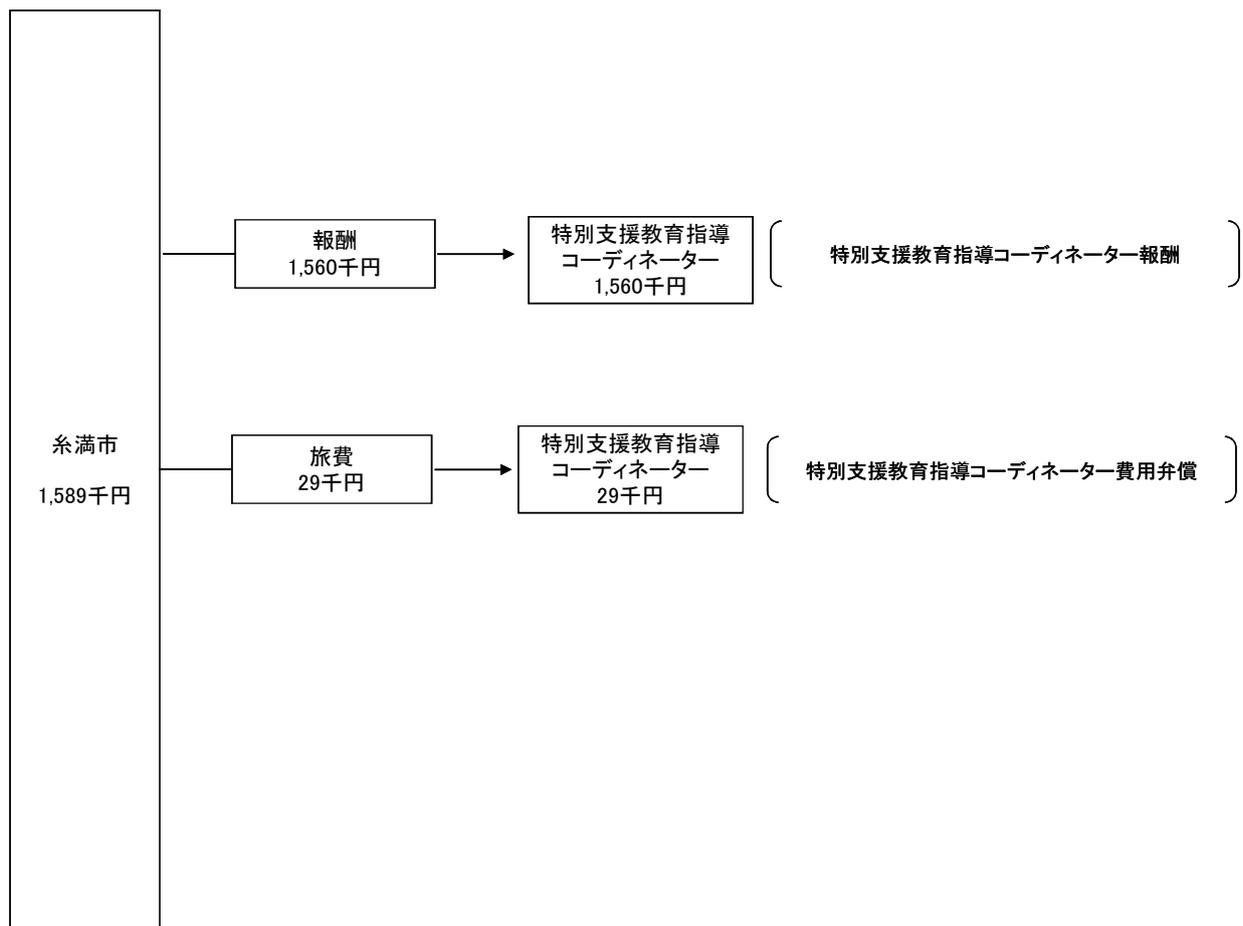
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>早い段階(幼少期)で支援することで、障害の程度の改善を図ることが必要。 保育所(園)・幼稚園・小学校・中学校と継続・連携した支援体制が必要。 障害者差別解消法(平成28年4月1日施行)等、支援を要する環境も変化し、更に特別支援教育コーディネーターのニーズが多様化されていく。</p>	<p>障がいの程度に応じた支援体制の確保を行う。 保護者及び教員への相談体制の確保を行う。 教員、障害児支援ヘルパーの資質向上のための、研修会等を行う。 保護者、学校等との連携の充実を図る。</p>

今後の取り組み方針

・特別に支援を必要とする子ども1人1人の能力や可能性を最大限に伸ばし、社会的自立を図り生きていく力を培えるよう、特別支援教育の一層の充実と発展を目指していく。
 ・関係機関(保育所(園)・幼稚園・小中学校・教育委員会等)との連携を強化し、特別な支援を必要としている子どもたちの早期発見、早期理解、早期教育を支援する体制を充実させていく。
 ・教員、障害児支援ヘルパー等の資質向上を図り、発達障がい等へのより早期・効果的な支援を行うことで、問題悪化など二次障がいにつながらないよう取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,589	1,589	1,271	318	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援学校校長経験者であり、書類審査、面談により適切な人材と判断した。 ○不用額は予算の5%以内であり、適正な予算規模である。 ○費目・使途について支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-⑥	教育用コンピュータ整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	学校のICT環境整備を行うことでパソコン・校内LANを通じたインターネットの活用等により、分かりやすい授業の実現、子どもたちの情報活用能力の育成を図るため、コンピュータを導入する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	18,796	27,939			
		(b) 予算現額	66,184	27,939			
		(c) 増減額 (b-a)	47,388	0			
		(d) 前年度繰越額	—	—			
		A. 計 (b+d)	66,184	27,939			
	B. 執行済額		62,013	27,151			
	うち交付金充当額		49,610	21,720			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		93.7%	97.2%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	教育用コンピュータ整備:小学校3校(123台)	目標	(103台)	(123台)	()	()	
		実績	338台	123台			
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	教育用コンピュータ等を市内小学校(糸満小学校41台・西崎小学校41台・潮平小学校41台)へ整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	市内小中学校における教育用コンピュータの整備率:43%	目標	(-)	(16%)	(43%)	()	()
		実績		55%	45%		
			目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	教育用コンピュータ等を市内小学校(糸満小学校41台・西崎小学校41台・潮平小学校41台)へ整備した。コンピュータ等を授業に活用することでICT教育環境の充実を図った。					

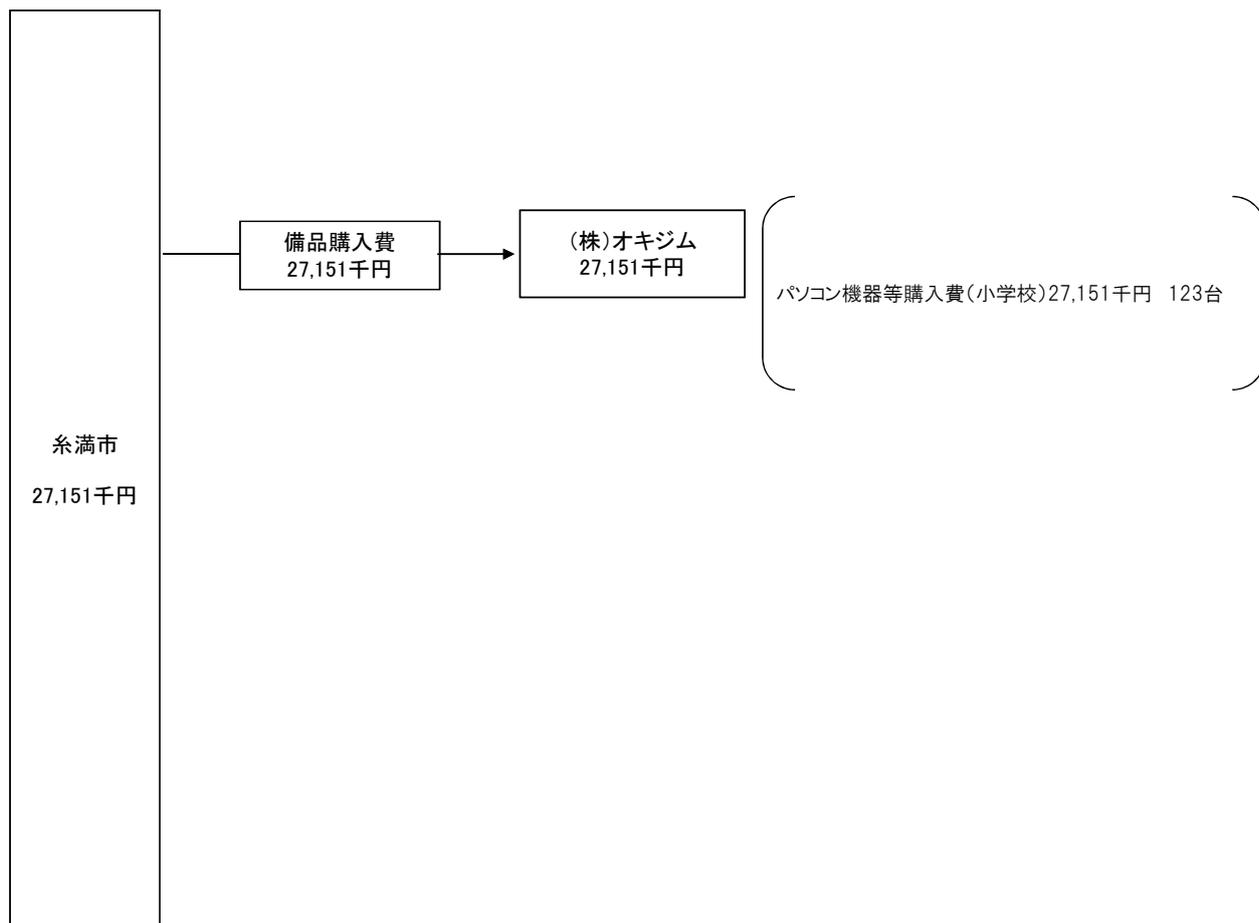
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	電子黒板やタブレット端末等を活用した学習活動へ向けたICT環境が未整備となっている。	無線LANや電子黒板、タブレット端末等を整備しICT環境が充実することで、デジタル教材等を活用した更に幅の広い学習活動が可能となるため、ICT環境の整備充実を図る必要がある。

今後の取り組み方針

無線LANや電子黒板、タブレット端末等のICT環境を整備し、デジタル教材等を活用した更に幅の広い学習活動を行っていきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
27,151	27,151	21,720	5,431	0



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札を実施した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は予算の5%以内であり、適正な予算規模である。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-⑦	適応指導教室設置事業					
担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度 平成25～29年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 沖縄振興基本方針該当箇所					
		第3章-5-(3)-イ 豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)					
事業内容	心理的・情緒的要因による不登校の児童生徒の登校復帰を図るため、適応指導教室を設置し、授業支援・登校支援及び教育相談を実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	(a) 当初予算額	4,926	6,119				
	(b) 予算現額	4,926	6,119				
	(c) 増減額 (b-a)	0	0				
	(d) 前年度繰越額	—	—				
	A. 計 (b+d)	4,926	6,119				
	B. 執行済額	4,709	6,057				
	うち交付金充当額	3,760	4,845				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率 (%) (B/A)	95.6%	99.0%				
予算の状況の説明	予算計上どおりに概ね執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	適応指導教室 主任教諭配置数:1人 補助教諭配置数:1人 教育相談員:2人	目標	(3人)	(4人)	()	()	
		実績	3人	4人			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	適応指導教室主任担当者1名、補助担当者を1名配置。 教育相談員を2名配置。 児童生徒が社会性を身につけ、学校生活へ適応できるよう体験活動や学習指導、教育相談等の支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値 (23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年度)	
	サポート児童生徒の平均登校日数:80日	目標	(-)	(80日)	(80日)	()	()
		実績		80日	80日		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	平成26年度における適応指導教室への入級者数は、小学生(男子1人、女子1人)、中学生(男子5人、女子6人)の計13人であった。このうち、中学3年生の3人が高校等へ進学するなど改善がみられた。他の児童生徒についても、所属学校へのチャレンジ登校ができるようになったり、学校復帰など改善がみられた。					

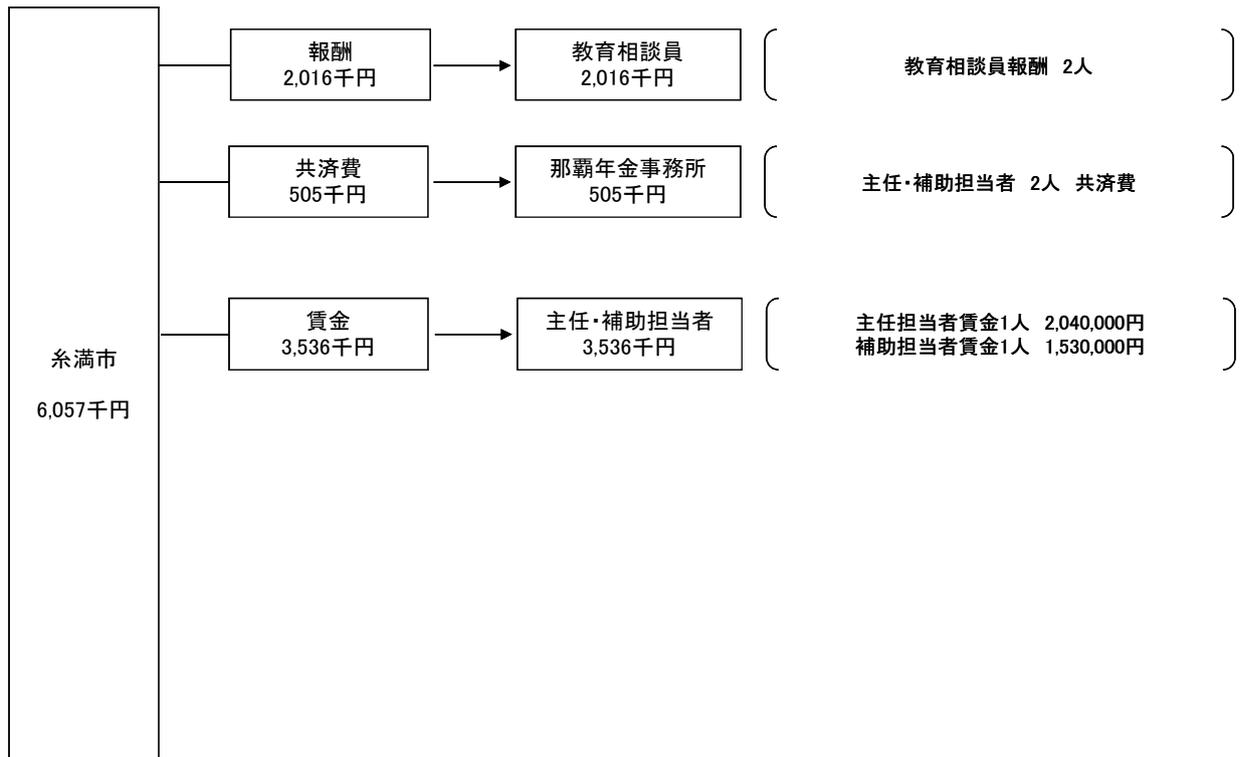
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	基礎学力の不足から学習について行けないことやコミュニケーション能力の不足等が人間関係上のトラブルにならないために、学習支援や体験活動の充実に留意する。	主任担当者、補助担当者、教育相談員を配置し関係機関との連携、学習と心の教育(対人関係等)の充実を図り、学校復帰へ向けた各担当者等の活用方法の再確認が必要となる。

今後の取り組み方針

- ・学校復帰に向けて、学習意欲や個に応じた個別支援を行う。
- ・沖縄県適応指導教室連絡協議会などの関係機関との連携によるスポーツ交流会や体験活動の充実を図る取り組み。
- ・学校や市教育相談員、臨床心理士、要対協等との連携による不登校支援や児童生徒及び保護者との相談会の充実を図る取り組み。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,057	6,057	4,845	1,212	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○教育相談員: 小学校教諭を退職した経験のある人材を採用。主任・補助担当者: 教諭経験と他市町村での適応指導教室運営経験のある人材を採用している為、適切な人材と考えている。 ○不用額は予算の5%以内であり、適正な予算規模である。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-⑧	情報教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部署名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進		
事業内容	児童生徒のコンピュータ授業支援及び教諭に対するコンピュータ教育の指導及び支援を行い、情報化時代に対応しうる人材を育成する情報教育を推進するため、市内小・中学校に情報教育支援員を派遣する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	(a) 当初予算額	3,296	2,751				
	(b) 予算現額	3,296	2,751				
	(c) 増減額 (b-a)	0	0				
	(d) 前年度繰越額	—	—				
	A. 計 (b+d)	3,296	2,751				
	B. 執行済額	1,592	2,732				
	うち交付金充当額	1,273	2,185				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率 (%) (B/A)	48.3%	99.3%				
予算の状況の説明	報酬・共済費ともに予算計上どおりに概ね執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	情報教育支援員配置1人	目標	(1人)	(1人)	()	()	
		実績	1人	1人			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	市内各小中学校から月別の派遣申請を受理。派遣申請を基に月派遣計画を作成。計画に基づき情報教育員を派遣。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値 (23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年度)	
	市内小中学校16校へ派遣	目標	(-)	(16校へ派遣)	(16校)	()	()
		実績		16校へ派遣	16校		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	情報教育支援員を各小中学校へ巡回派遣し、PC教室で授業を行う教員の支援や児童生徒へ直接支援することで、教員や児童生徒の情報リテラシーの向上が図れた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	情報教育支援員を配置することにより、情報教育についての理解が深まり授業の中で積極的に活用する場面が増えた。 しかし、全小中学校からの派遣要請に情報教育支援員1名で対応するには限度があり、いかにして授業支援を充実させるかが今後の課題である。	・教員のICT活用力を向上させ、教員単独で行う情報教育の充実を図り、その活用力向上を情報教育支援員が行う。

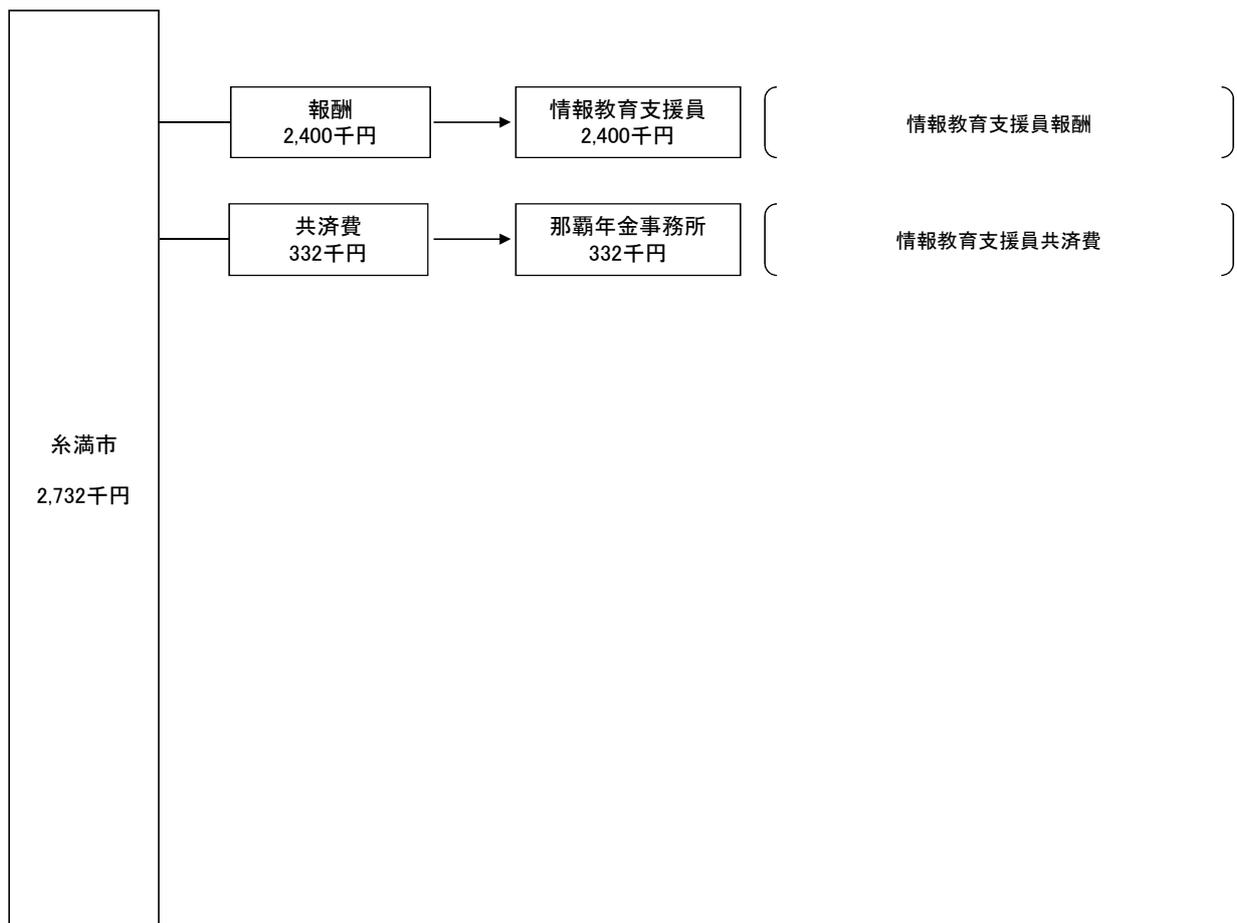
今後の取り組み方針

基本的な情報教育支援員の活動については26年度の活動を強化する形で取り組んでいく。
また教員のICT活用力向上のため

- ・情報教育研修会を開催する。
- ・授業支援のあり方については、教員の補助等に努め、自立した授業が行えるよう取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,732	2,732	2,185	547	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公募・選考を行い、適切な人材と考えている。 ○不用額は予算の5%以内であり、適正な予算規模である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-⑨		教育環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア	
	教育委員会 総務部 総務課		事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切に、誇りに思う健全な青少年の育成	
担当部署名						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童・生徒の教育環境改善を目的に、小学校校舎屋根の断熱防水工事、空調設備設置工事、ハブ侵入防止対策工事、中学校の校舎屋根断熱防水工事及び空調設備設置工事を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 前年度繰越額 A. 計 (b+d)		79,736	97,153			
			79,736	97,153			
			0	0			
			—	—			
			79,736	97,153			
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額		74,413	96,047			
			53,203	76,837			
			0	0			
		執行率 (%) (B/A)	93.3%	98.9%			
	予算の状況の説明	概ね予算計上どおり執行できた。 予算額97,153千円に対し、執行額96,047千円であり、執行率98.9%である。 指名競争入札により、1,106千円の残額が生じた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	小学校屋根断熱防水施工数:1校 小学校空調機設置数:4校 ハブ侵入防止柵設置数:1校	目標	6校	()	()	()	
		実績	6校				
	中学校屋根断熱防水施工数:1校 中学校空調機設置数:4校	目標	(5校)	()	()	()	
実績		4校					
達成状況説明	小学校屋根断熱防水施工数:1校(設計契約1件:4月、設計完了6月 工事契約1件:6月、工事完了9月) 小学校空調機設置数:4校(設計契約2件:4月、9月 設計完了6月、11月 工事契約2件:8月、12月 工事完了10月、3月) ハブ侵入防止柵設置数:1校(工事契約1件:6月、工事完了9月) 中学校屋根断熱防水施工数:1校(設計契約1件:契約5月、設計完了6月 工事契約1件:8月、工事完了11月) 中学校空調機設置数:3校(設計契約1件:4月、設計完了6月 工事契約1件:8月、工事完了10月) ※実績が3校となった理由は、優先順位を検討した結果、4校のうち1校(糸満中学校理科室)は、27年度執行が妥当であると判断したため。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	小学校屋根断熱防水施工:1校 小学校空調機設置:4校 ハブ侵入防止柵設置:1校	目標	(-)	(6校)	()	()	()
		実績		6校			
	中学校屋根断熱防水施工:1校 中学校空調機設置:4校	目標	()	(5校)	()	()	()
		実績		4校			
進捗状況説明	小学校屋根断熱防水施工数:1校(設計1件、工事1件) 小学校空調機設置数:4校(設計2件、工事2件) ハブ侵入防止柵設置数:1校(工事1件) 中学校屋根断熱防水施工数:1校(設計1件、工事1件) 中学校空調機設置数:3校(設計1件、工事1件)						

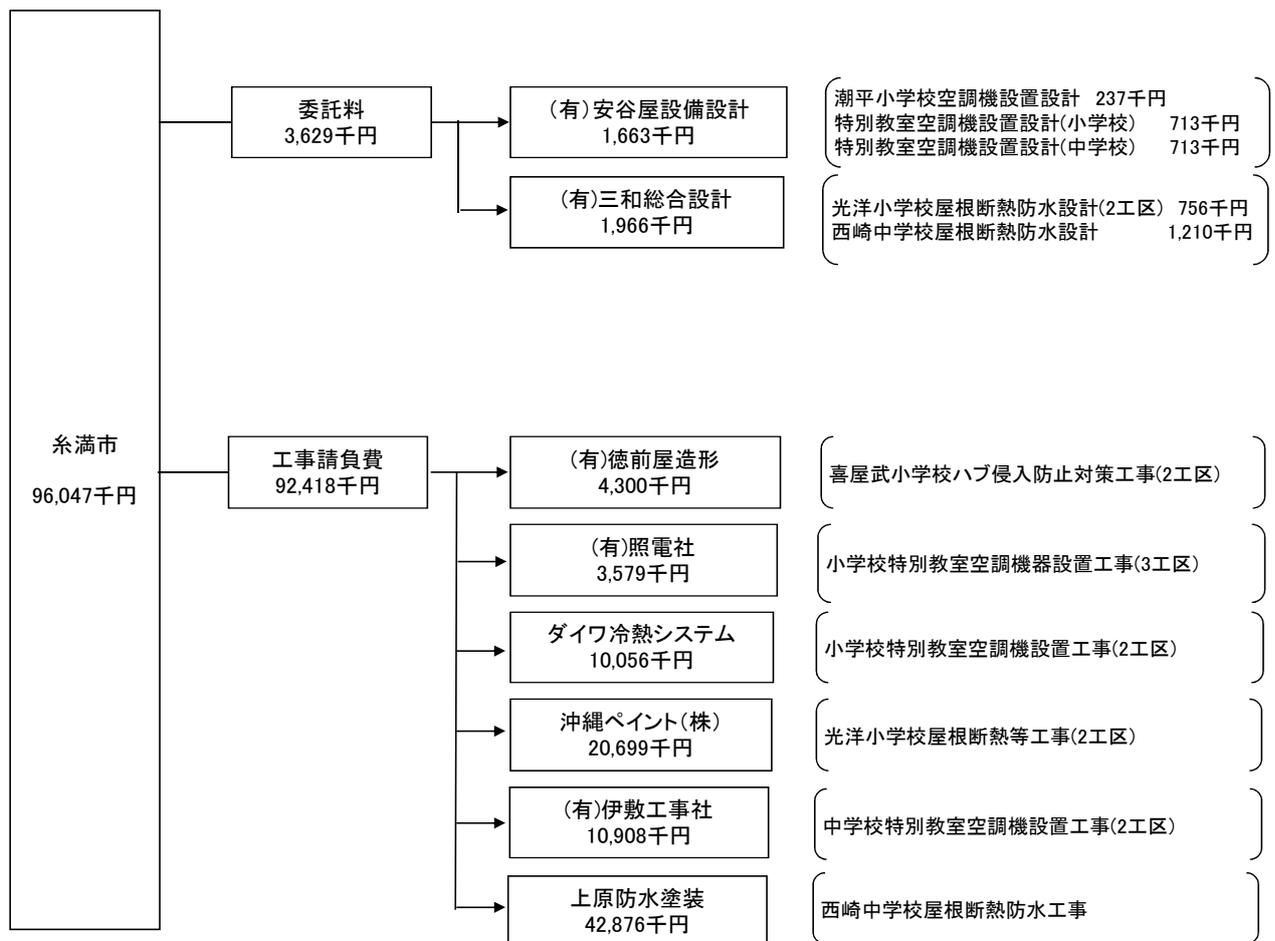
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>屋根断熱防水については、長期にわたる効果を維持するため定期的(5年)なメンテナンスが必要である。</p> <p>ハブ侵入防止柵の効果を発揮するためには、設置後の除草等維持管理が必要であり、学校へ防止柵周辺の除草作業等依頼し、適切な維持管理に努めている。</p>	<p>空調機設置について、各学校へ「取扱いについての注意事項」等の依頼文書(内容:節電と空調機の負担軽減を図るために、利用教室の窓を数分間開けて室内にこもった熱気を排出した後空調機の電源を入れ、徐々に室温を下げる等)を配布し、節電と適切な維持管理に努める。</p> <p>屋根断熱防水工事については、工事完了後の教室に電子温度計を設置し、定時の温度測定により、効果の検証を実施している。</p>

今後の取り組み方針

引き続き教育環境の改善を図るため、施設整備を進めていく必要がある。
 屋根断熱防水工事(小学校・中学校・幼稚園)
 特別教室空調機設置工事(小学校・中学校)

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
96,047	96,047	76,837	19,210	0



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は130万円未満による随意契約(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号に該当)をした。また、工事請負業者については指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-①	子育て応援NPO活動支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
	担当部課名	福祉部 児童家庭課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実	
事業内容	子育ての困難な親などの養育支援を行うため、NPOを活用して相談や学習会などを開催する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,583	3,349	5,459		
		(b)予算現額	4,583	3,349	5,459		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0		
		(d)前年度繰越額	—	—	—		
		A.計(b+d)	4,583	3,349	5,459		
	B.執行済額		4,551	3,332	4,918		
	うち交付金充当額		3,640	2,665	3,934		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		99.3%	99.5%	90.1%		
予算の状況の説明		養育支援家庭を対象に実施している幼児の預かり保育において、対象児童の減によるボランティアスタッフへの報償費の減及び委託先が消費課税非課税団体に移行になったことにより、消費税分が不用となり、全体で541千円の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	相談活動、訪問活動、親対象の研修、支援者対象研修	目標	(学習会の開催、) 1人	相談活動、訪問活動、親対象の研修、支援者対象研修	相談活動、訪問活動、親対象の研修、支援者対象研修	()	
		実績	学習会を開催、1人	相談活動、訪問活動、親対象の研修、支援者対象研修	相談活動、訪問活動、親対象の研修、支援者対象研修		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	親対象学習会、支援者対象研修会は当初目標を下回った(参加者、講師確保の調整が整わなかった)が、その他は概ね計画どおり実施できた。行政の連携については、家庭児童相談員、婦人相談員、保健師と連携し、対象者のニーズ(未熟児出産、生活困窮、保護者の精神不安等)にあった支援を実施した。支援者に対しては、他の支援者(団体)の発掘や社会資源活用のための情報提供を行い、途切れない支援と親の自立に向けた取り組みを行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・相談活動 80件 ・訪問活動 70件	目標	(0)	(480人)	(相談活動80件 訪問活動70件)	(相談活動80件 訪問活動70件)	()
		実績		学習会参加者 983人	相談活動80件 訪問活動70件	相談活動80件 訪問活動70件	
	・親対象の学習会 10回 ・支援者対象研修 12回	目標	()	()	(学習会7回 研修9回)	(学習会10回 研修12回)	()
		実績			学習会7回 研修9回	学習会7回 研修9回	
	進捗状況説明	平成26年度目標値のうち、相談活動80件、訪問活動70件は、目標を達成できた。しかし、親対象の学習会は目標値10回に対し7回、支援者対象研修は目標値12回に対し、9回の開催であった。目標を達成できなかった理由とし、学習会、支援者対象研修会ともに参加者不足により開催を見送ったこと、支援者対象研修については講師の日程調整が整わず開催できなかったことも要因にある。今後は、講師等の日程調整は密にし、計画に沿った研修会開催を実施したい。また親対象の学習会についても事前に声かけなどを行い、参加者確保に努める。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・支援する側が支援目的を超えた過度な支援を行うケースがあり、結果、保護者の自立に繋がらないことがある。 ・関係機関(行政)との情報交換が不十分であるために、支援内容、支援期間(支援終了時期等)で互いに相違がある。 ・個々のケースに応じた対応が、過度な支援か適切な支援か判断に迷うことがある。 ・理解力に欠ける保護者に支援の目的等が伝わらず、対応に苦慮することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家(講師)を招いた支援学習の強化と支援者のスキルアップ。 ・行政(所管課)ときめ細かい連携を図る。 ・当事者(要支援家庭等)へ対する理解と関係構築 ・支援会議を開催し、きめ細やかな支援の取り組みを図る。 ・個々のケースに応じたプラン作成のためには、スーパーバイザーの配置を検討する必要がある。 ・継続した支援の実施(子育て応援隊などへの参加)

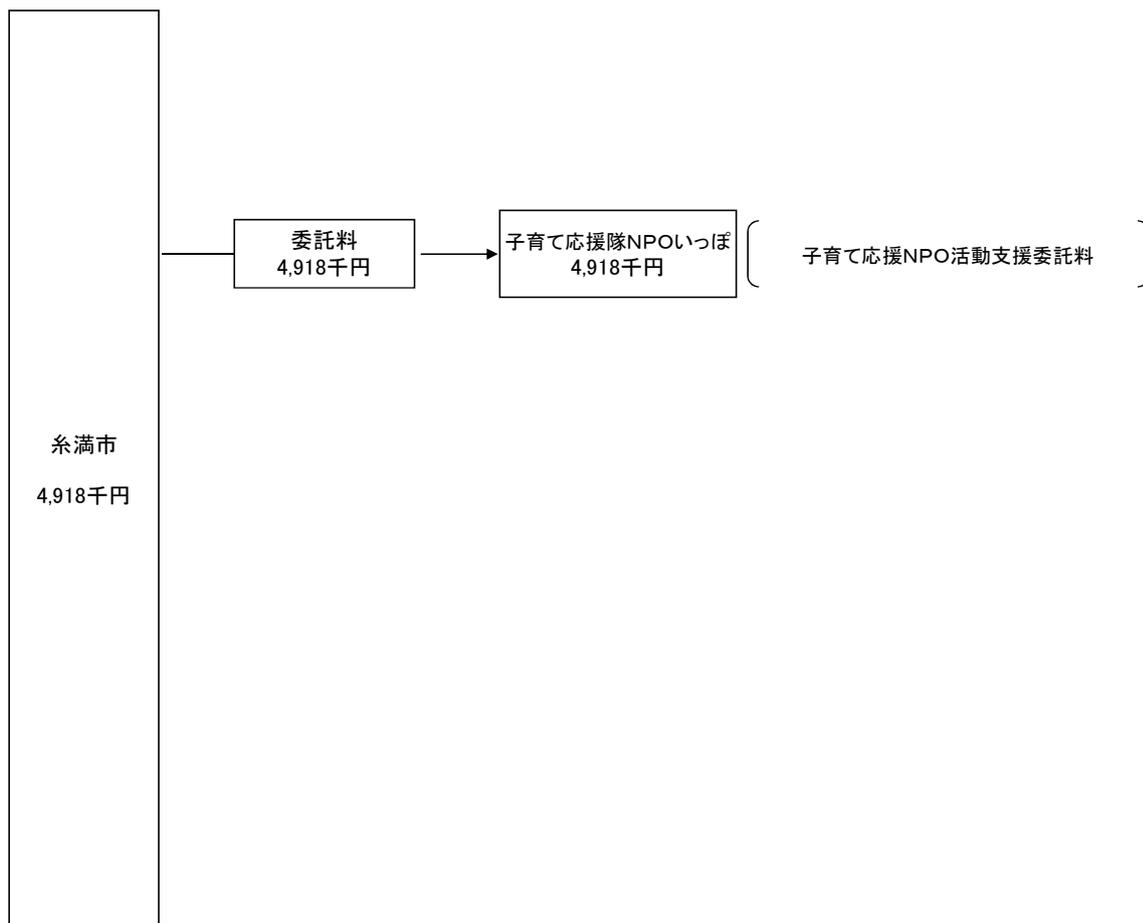
今後の取り組み方針

コーディネータが地域を巡回して子どもを抱え親が引きこもりがちな家庭や養育困難な家庭等支援が必要とされている親に対して定期訪問を実施するとともに、個々のケースに応じた対応策が早期に実現できるように家庭児童相談員、婦人相談員、保健師と会議を密に行っていく。さらに専門家のスーパーバイズが受けられるように、定期的にケース検討会議を開催し、ニーズに応じた支援が実施できるようにする。支援員のスキルアップを図るために、専門的知識の習得と支援技術の向上を目的とした基礎研修講座を連続して開催していくとともに、要支援家庭を対象とした当事者支援学習会の開催を目的を明らかにしながら丁寧に実施していく。

養育困難な家庭環境下では、児童の健全育成を阻害する恐れが懸念されるが、その要因は様々であり個々のケースにあつたきめ細やかな支援を提供することにより時間を掛け養育可能な家庭環境に導く。これらを行政のみで実施することは容易ではなく、NPOと連携し長期に渡る支援体制の確立、支援の継続が子育て支援事業には必要不可欠である。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,918	4,918	3,934	984	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は子育て支援の目的や実績・知識を勘案したNPO団体を選定しており、妥当であったと判断している。 ○不用額は、事業対象者の減によるものであり、適正な規模であった。 ○費目、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

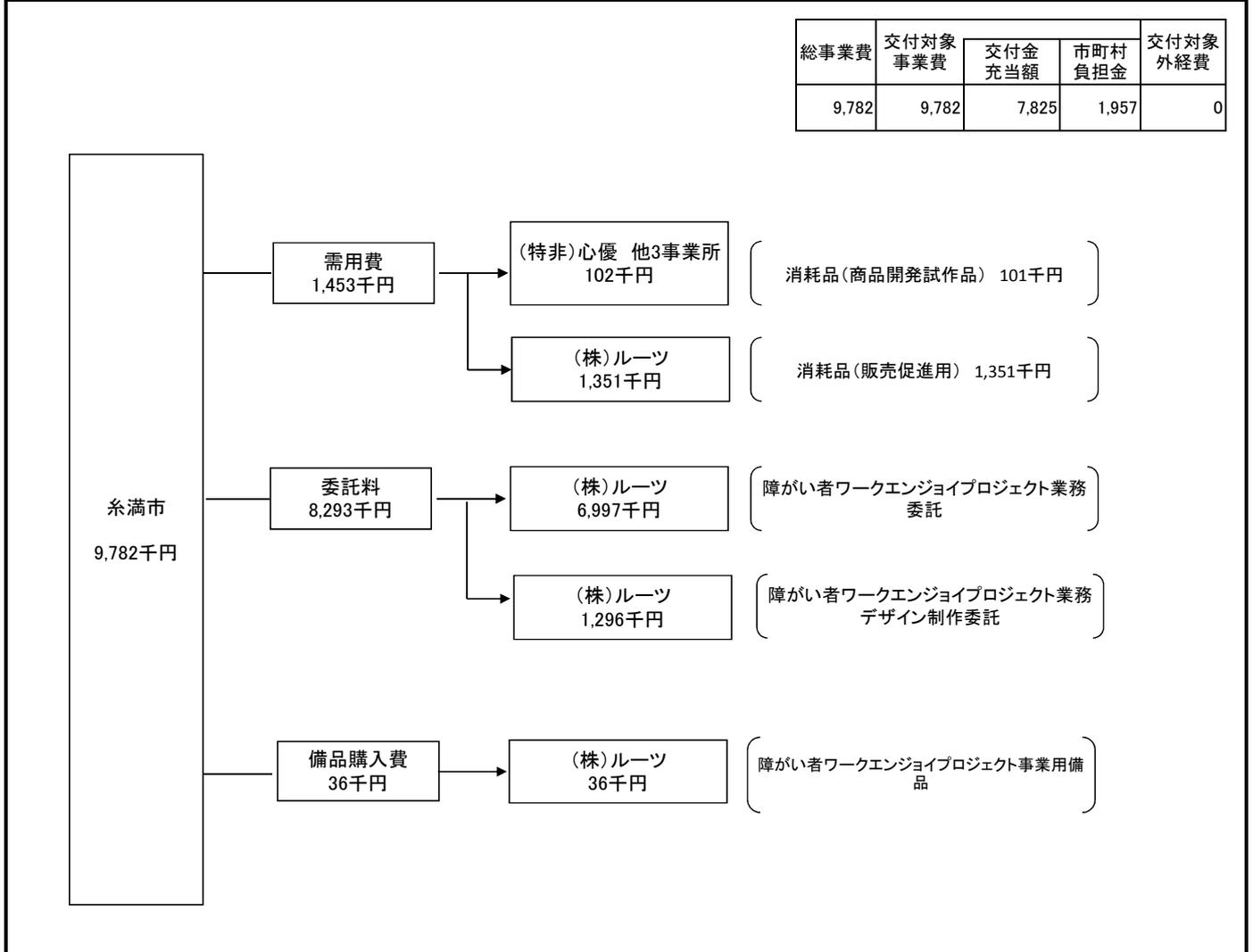
市町村名		糸満市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-②	障がい者就労支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(3)-イ	
担当部署名	福祉部 社会福祉課	事業実施(予定)年度	平成24~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	障害のある人が活動できる環境づくり Ⅲ-2	
事業内容	障がいのある方の雇用は極めて厳しい状況にあり、住み慣れた地域での雇用の確保に向けて、障がいのある方が従事する施設で製造する商品等を自ら販売するため、市内数ヶ所に販売所を設置するとともに、商品開発、商品PR等物販に係るノウハウを習得のための支援を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 前年度繰越額 A. 計 (b+d)		5,975	10,010	10,000		
			5,975	10,010	10,000		
			0	0	0		
			—	—	—		
			5,975	10,010	10,000		
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額		5,634	9,808	9,782		
			4,506	7,838	7,825		
			0	0	0		
		執行率 (%) (B/A)	94.3%	98.0%	97.8%		
	予算の状況の説明	アドバイザー委託料は予算額7,000千円のうち6,997千円で契約締結、契約どおり執行した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	事業所連絡会議の開催 8回	目標	(連絡会 5回)	(連絡会 8回)	(連絡会議 8回)	()	
		実績	連絡会 3回	連絡会 8回	連絡会議 8回		
	・事業所職員研修の開催	目標	(4回)	(10回)	(10回)	()	
実績		6回	8回	6回			
達成状況説明	・連絡会でワークショップなど研修を一体的に実施したため、研修について目標回数での達成ができなかった。(販売所設置のトライアル実施など、事業所職員の派遣回数が増え、研修への職員参加が困難となったため) ・研修内容は、地域連携研修1回、地域ブランドづくり研修2回、品質管理研修1回、商品開発2回、計6回実施した。福祉外の企業等との連携を図るため、民間業者やNPOが参加した地域連携や異業種連携の研修等を実施し、今後の事業推進(商品開発・販路開拓)においての知識、連携機会の創出が得られた。 ・事業所職員研修6回の実施に対し、延91人の参加があった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	新商品開発件数:10件	目標	(0件)	(3件)	(10件)	(10件)	(43件)
		実績		3件	15件	10件	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・事業所への個別支援として、平成26年度新規2事業所において商品開発コンサルティングの実施及び平成24・25年度個別支援事業所5事業所への継続支援の実施 ①HP、SNSの開設及び運営方法の支援 ②商品(だいち若葉)のパッケージデザイン、B級品等を活用した加工商品の開発 ③千羽鶴再生紙商品の新商品開発、パッケージ開発、販売用什器製作、販路開拓のための営業資料作成 ④イベントを活用し、合同商品の試作、販売所設置などトライアルの実施(6回実施、延26事業所参加) ⑤市内各所での移動販売トライアルの実施(道の駅、市役所、市営団地、工業団地内など) ⑥事業所受注業務紹介チラシ作成						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(1)事業所連絡会について ・定例化により、情報が集約され連携が強化されてきたが、大小多様な事業所で構成されることから、共同受注等の基幹的役割の確立が課題。 (2)職員の人材育成について ・一般市場への参入や研修参加への意識についての温度差が事業所間においてある。 (3)個別事業所支援について ・需要に対しての供給不足など、安定供給等の課題。商品開発等への個別支援の希望事業所の減少。 (4)販売所の設置について ・これまでの商品開発、販路及び販売方法を検討してきたが、移動販売所に適したニーズと商品形態の在りかた、運営体制等について課題が大きい。	(1)事業所連絡会の定期的な開催を継続することで情報を集約・共有し、連絡会の役割・方向性の意識統一、自主運営方法の検討。共同受注等の基幹的役割・方策の検討。 (2)意識改革のため、異業種連携、民間意識の取り込みを図る研修を継続して実施。 (3)事業所の現状把握、継続した支援(商品開発・販路拡大)。人的余裕のない小規模事業所に対する支援方策の検討。支援の傾注度を新規支援から継続支援にシフト。 (4)事業所に存在する技術活用を踏まえ、販売所等設置を想定した商品開発、企画体制の在り方をマーケットインで引き続き進めていく。

今後の取り組み方針

- ・平成24年度から実施した事業内容(糸満市ワークエンジョイプロジェクト)を継続して実施。
- ・市内での出店・販売所の設置など、具体的な目標を掲げ実行できるよう連絡会の機能の強化
- ・売り場視点からの商品開発・マーケティング・販路開拓について、実践的に学ぶ機会を設ける。
- ・新たに商品開発等を希望する事業所への支援と、平成26年度までに支援した事業所が自ら継続して販売できるよう継続した支援の実施。
- ・共同受注、共同販売システムの構築に向け、継続して取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公募型プロポーザル方式により、企画内容等のプレゼンを実施したうえで選定している。参加申込数は1事業であったが妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業の目的を達成するため、障害者就労支援事業所連絡会における検討事業も参考に決定しており、支出に関する書類確認のうえ、適正に執行している。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	